

第5次沖縄市障がい者プラン 基礎調査報告書

令和2年3月

沖縄市

目次

I. 沖縄市障がい者（児）の「生活実態」及び「意識」に関するアンケート調査結果	1
1. 調査の概要	1
2. アンケート調査結果	2
はじめに 調査票の回答者	2
質問 1-1 性別	2
質問 1-2 年齢	2
質問 1-3 一緒に暮らしている人について	3
質問 2 身体障害者手帳の等級について	3
質問 2-1 身体障害者手帳の「障害の種類」について	3
質問 3 療育手帳の区分について	4
質問 4 精神障害者保健福祉手帳の等級について	4
質問 5 障害支援区分について	4
質問 6 主な介助者	5
質問 6-1 主な介助者の年齢	6
質問 6-2 主な介助者が介助できなくなった場合の現在・今後の対応	7
質問 6-3 主な介助者の困りごと	9
質問 6-4 介助する上で、支援してほしいこと	10
質問 7 仕事や学校以外の外出頻度	12
質問 8 外出時の移動方法	12
質問 9 外出する上で困ることや不満に思うこと	14
質問 10 普段の過ごし方について	15
質問 11 インクルーシブ教育の推進の必要性について	16
質問 12 地域活動や行事等への参加について	17
質問 13 障がいのある方が働くためには、どのような環境が整っていることが大切か	17
質問 14 障害者総合支援法の認知度	19
質問 15 障害福祉サービスの利用状況	19
質問 15-1 障害福祉サービスの種類ごとの満足度	20
質問 16 障害福祉サービスに満足していない理由	22
質問 17 障害福祉サービスを利用していない理由	24
質問 18 財産や預貯金の管理等について支援が必要だと思ったこと	25
質問 19 成年後見制度の認知度	26
質問 20 日常生活自立支援事業の認知度	27
質問 21 相談支援の利用状況	28
質問 22 日常生活の中で、どのようなことについて相談したいか	29
質問 23 悩みや困りごとを相談する相手は、主に誰（どこ）か	31
質問 24 沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度	32
質問 25 避難行動要支援者名簿への登録を希望するか	33
質問 26 地震や台風などの災害時に困ると思われること	34

質問 27	現在の住まいの状況	36
質問 28	今後の暮らし方の希望	37
質問 29	障がいのある方が独立して暮らしていくために必要なこと	38
質問 30	共生社会条例の認知度	39
質問 31	障がいのある方に対する市民の理解について	41
質問 32	障がいがあるために、差別やいやな思いをしたことがあるか	42
質問 33	どういった差別などを受けたか	43
質問 34	障がい者（児）の施策の充実のために、沖縄県や沖縄市に要望すること	45
質問 35	障がいのある子もない子も利用できる遊び場やサークルがあれば利用したいか	46
	自由意見	48
II.	沖縄市難病患者（児）の「生活実態」及び「意識」に関するアンケート調査結果	58
1.	調査の概要	58
2.	アンケート調査結果	59
	はじめに 調査票の回答者	59
質問 1-1	性別	59
質問 1-2	年齢	59
質問 1-3	一緒に暮らしている人について	60
質問 1-4	難病とわかった年齢	60
質問 1-5	身体障害者手帳の有無について	60
質問 1-6	障害支援区分の認定状況について	61
質問 1-7	障害支援区分について	61
質問 1-8	介護保険の要介護認定について	61
質問 1-9	要介護度について	62
質問 1-10	介護保険サービスの利用状況	62
質問 2	現在罹患している疾患に関する受診状況	62
質問 3	通院する際の介助の必要性	63
質問 4	現在利用している公費負担医療制度	63
質問 5	医療のことで困っていること	64
質問 6	主な介助者	64
質問 6-1	主な介助者の年齢	65
質問 6-2	主な介助者が介助できなくなった場合の現在・今後の対応	65
質問 6-3	主な介助者の困りごと	66
質問 7	仕事や学校以外の外出頻度	67
質問 8	普段の過ごし方について	67
質問 9	現在の仕事はどのようにしてみつけたか	68
質問 10	現在の仕事に従事している期間	68
質問 11	働いていない主な理由	69
質問 12	今後の過ごし方の希望	69
質問 13	仕事で悩んでいることや不安なこと	70
質問 14	障害者総合支援法の認知度	70

質問 15	障害福祉サービスの利用状況.....	71
質問 16	日常生活の中で、どのようなことについて相談したいか.....	71
質問 17	悩みや困りごとを相談する相手は、主に誰（どこ）か.....	72
質問 18	沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度.....	72
質問 19	避難行動要支援者名簿への登録を希望するか.....	73
質問 20	地震や台風などの災害時に困ると思われること.....	74
質問 21	現在の住まいの状況.....	74
質問 22	共生社会条例の認知度.....	75
質問 23	この4～5年間に、難病があるために差別やいやな思いをしたことがあるか.....	75
質問 24	難病患者（児）の施策の充実のために、沖縄市や沖縄県に要望すること.....	76
	自由意見.....	77
Ⅲ.	第4次沖縄市障がい者プラン〈改訂版〉の取り組み状況.....	82

I. 沖縄市障がい者（児）の「生活実態」及び「意識」に関するアンケート調査結果

1. 調査の概要

（1）調査の目的

本調査は、「第4次沖縄市障がい者プラン」の見直しにあたり、本市における障がいのある方の日常生活の状況や各種サービスに関するご意見などを把握し、計画の基礎資料とすることを目的に実施しています。

（2）調査の実施状況

- ①調査の対象 沖縄市在住の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳）をお持ちの方から抽出
- ②調査方法 郵送による配布回収
- ③調査期間 令和2年1月～令和2年2月

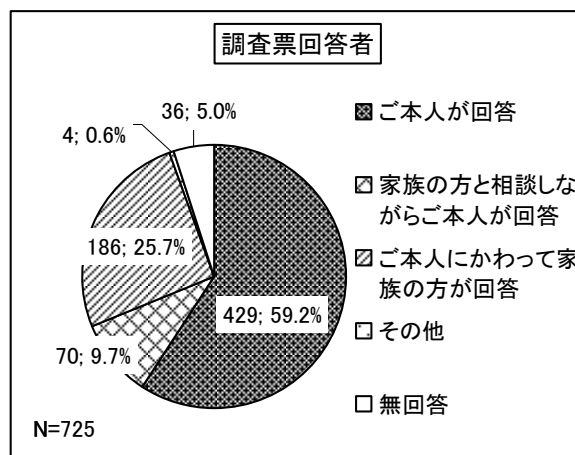
（3）標本数及び回収状況

	配布数	有効回収数	回収率
障がい者（児）	2,571件	725件	28.2%

2. アンケート調査結果

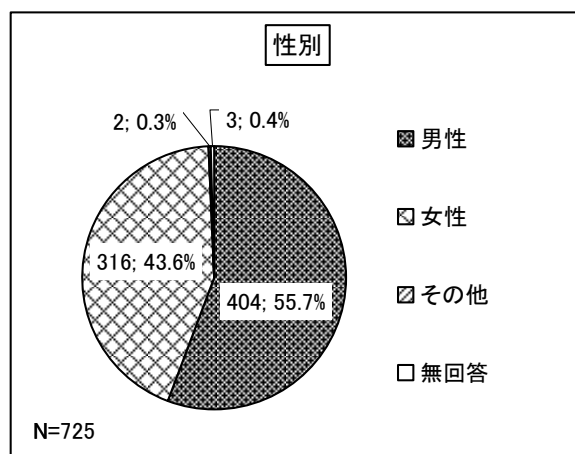
はじめに 調査票の回答者

アンケート調査の回答者は、「ご本人が回答」が59.2%で過半数を占め最も多く、次いで「ご本人にかわって家族の方が回答」の25.7%、「家族の方と相談しながらご本人が回答」の9.7%、「その他」の0.6%となっています。



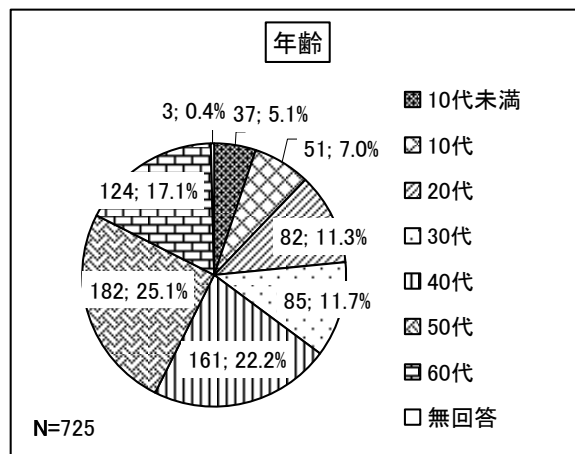
質問 1-1 性別

回答者の性別は、「男性」55.7%、「女性」43.6%、「その他」0.3%で、「男性」が多くなっています。



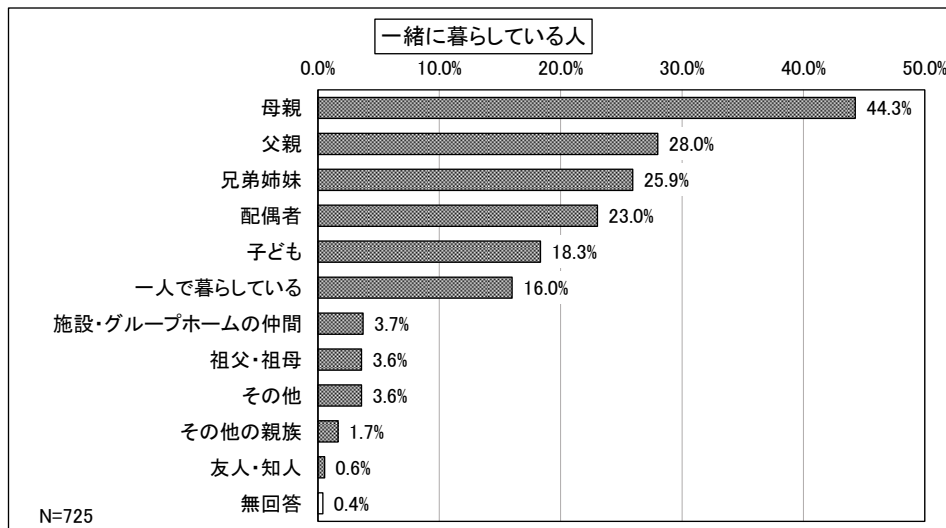
質問 1-2 年齢

回答者の年齢は、「50代」が25.1%で最も多く、次いで「40代」22.2%、「60代」17.1%、「30代」11.7%、「20代」11.3%、「10代」7.0%、「10代未満」5.1%となっています。



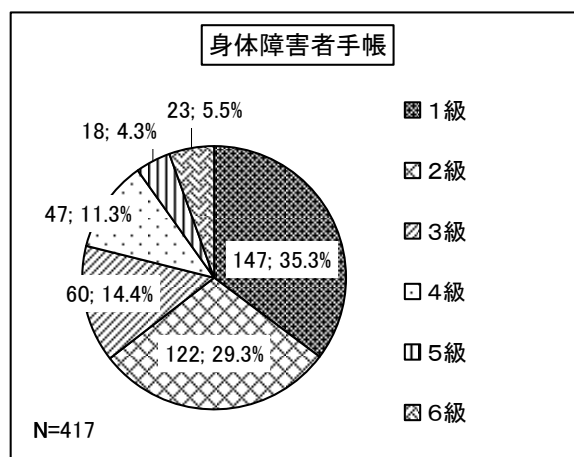
質問 1-3 一緒に暮らしている人について

現在同居している人については、「母親」が44.3%で最も多く、次いで「父親」28.0%、「兄弟姉妹」25.9%、「配偶者」23.0%、「子ども」18.3%、「一人で暮らしている」16.0%、「施設・グループホームの仲間」3.7%、「祖父・祖母」3.6%、「その他」3.6%、「その他の親族」1.7%、「友人・知人」0.6%となっています。



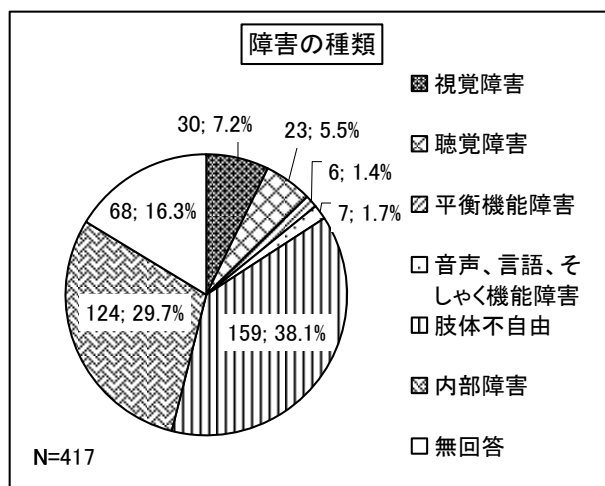
質問 2 身体障害者手帳の等級について

身体障害者手帳所持者の等級については、「1級」が35.3%で最も多く、次いで「2級」29.3%、「3級」14.4%、「4級」11.3%、「6級」5.5%、「5級」4.3%となっています。



質問 2-1 身体障害者手帳の「障害の種類」について

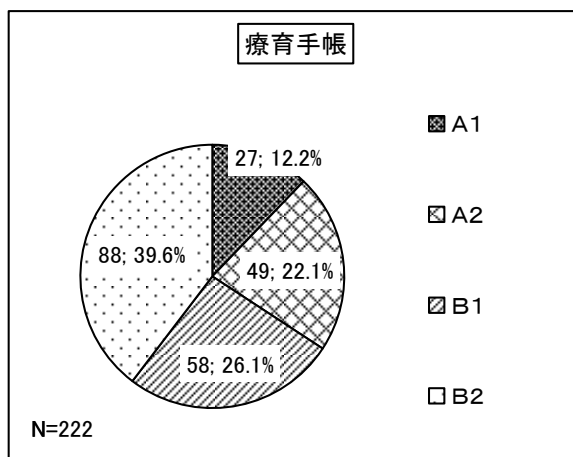
身体障害者手帳所持者の障害の種類については、「肢体不自由」が38.1%で最も多く、次いで「内部障害」29.7%、「視覚障害」7.2%、「聴覚障害」5.5%、「音声、言語、そしゃく機能障害」1.7%、「平衡機能障害」1.4%となっています。



※最も重い障がい1つだけに○

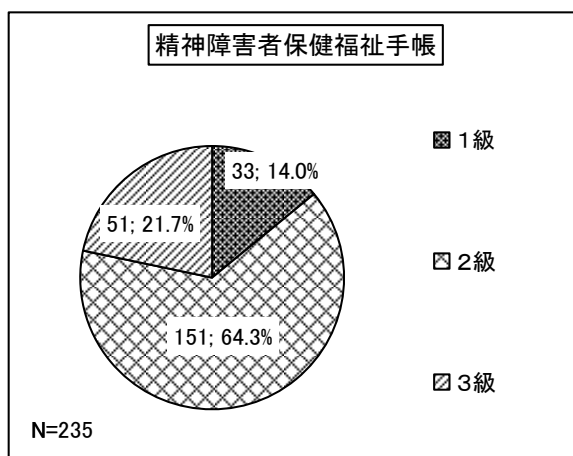
質問3 療育手帳の区分について

療育手帳所持者の区分については、「B2」が39.6%で最も多く、次いで「B1」26.1%、「A2」22.1%、「A1」12.2%となっています。



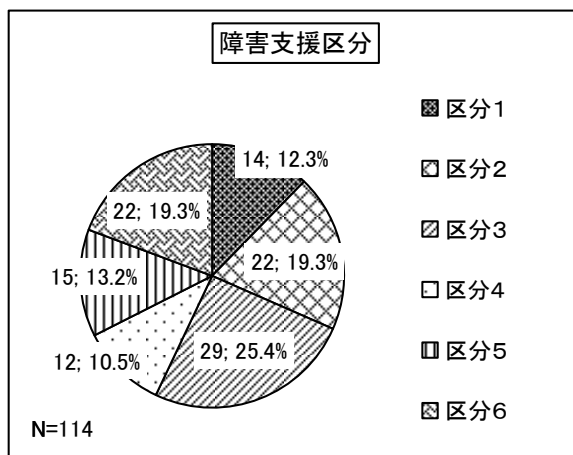
質問4 精神障害者保健福祉手帳の等級について

精神障害者保健福祉手帳所持者の等級については、「2級」が64.3%で最も多く、次いで「3級」21.7%、「1級」14.0%となっています。



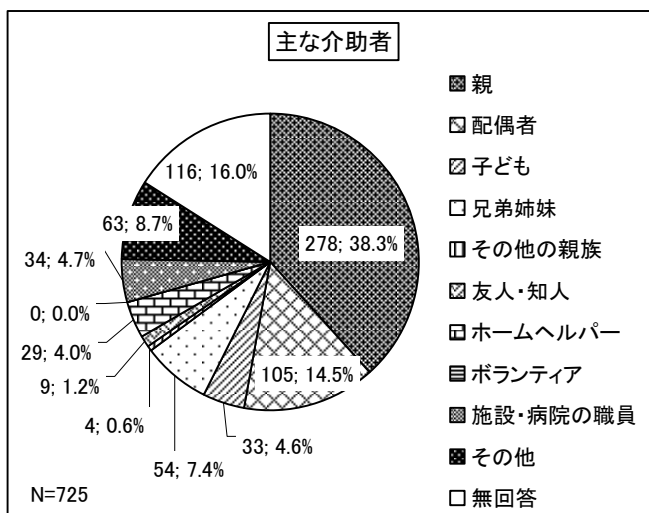
質問5 障害支援区分について

障害福祉サービス等を受けるために必要な障害支援区分の認定については、「区分3」が25.4%で最も多く、次いで「区分2」及び「区分6」19.3%、「区分5」13.2%、「区分1」12.3%、「区分4」10.5%となっています。

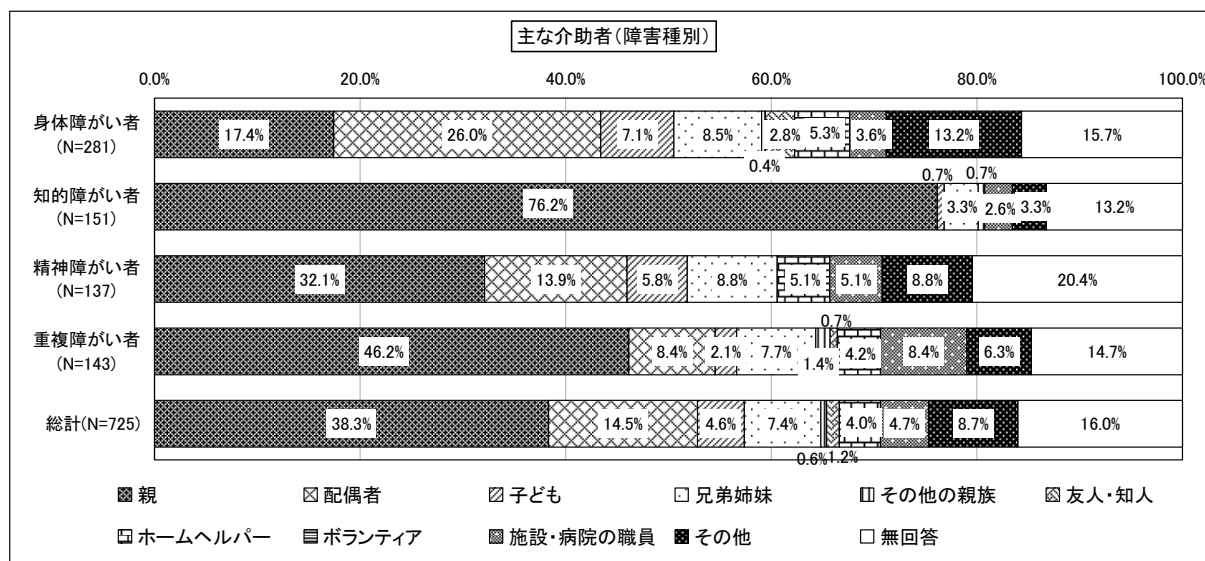


質問6 主な介助者

主な介助者については、「親」が38.3%で最も多く、次いで「配偶者」14.5%、「その他」8.7%、「兄弟姉妹」7.4%、「施設・病院の職員」4.7%、「子ども」4.6%、「ホームヘルパー」4.0%、「友人・知人」1.2%、「その他の親族」0.6%となっています。



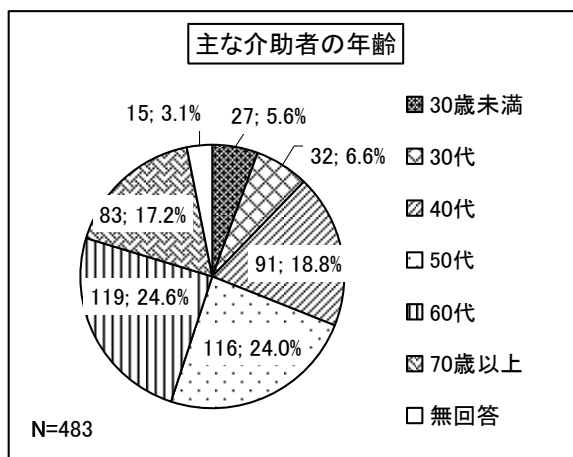
障害種別でみると、身体障がい者では「配偶者」が26.0%、他の障害種別では「親」が最も多く、知的障がい者で76.2%、精神障がい者で32.1%、重複障がい者で46.2%となっています。とくに、知的障がい者では7割以上の方が「親」と回答しており、他の障害種別に比べ高くなっています。



【質問 6-1～6-4 は質問 6 で「親」、「配偶者」、「子ども」、「兄弟姉妹」、「その他の親族」、「友人・知人」と回答した方への質問です】

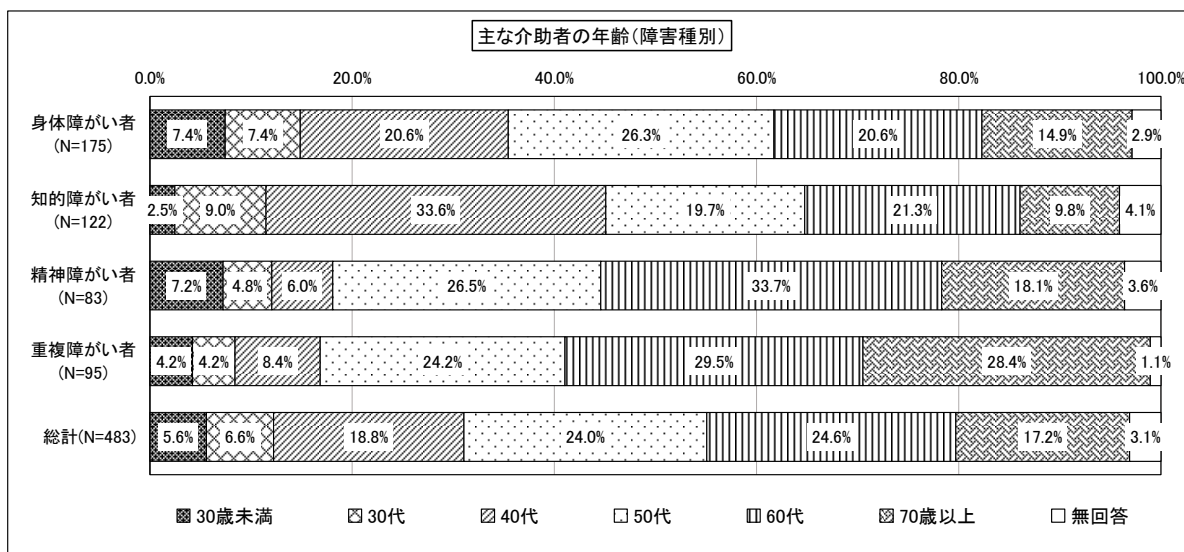
質問 6-1 主な介助者の年齢

主な介助者の年齢については、「60代」が24.6%で最も多く、次いで「50代」24.0%、「40代」18.8%、「70歳以上」17.2%、「30代」6.6%、「30歳未満」5.6%となっています。



障害種別でみると、身体障がい者では「50代」が26.3%、知的障がい者では「40代」が33.6%、精神、重複障がい者では「60代」（精神33.7%、重複29.5%）が最も多くなっています。

また、精神、重複障がい者では「60代」と「70歳以上」の合計割合が過半数を占めており、身体、知的障がい者に比べ主な介助者の年齢層が高くなっています。

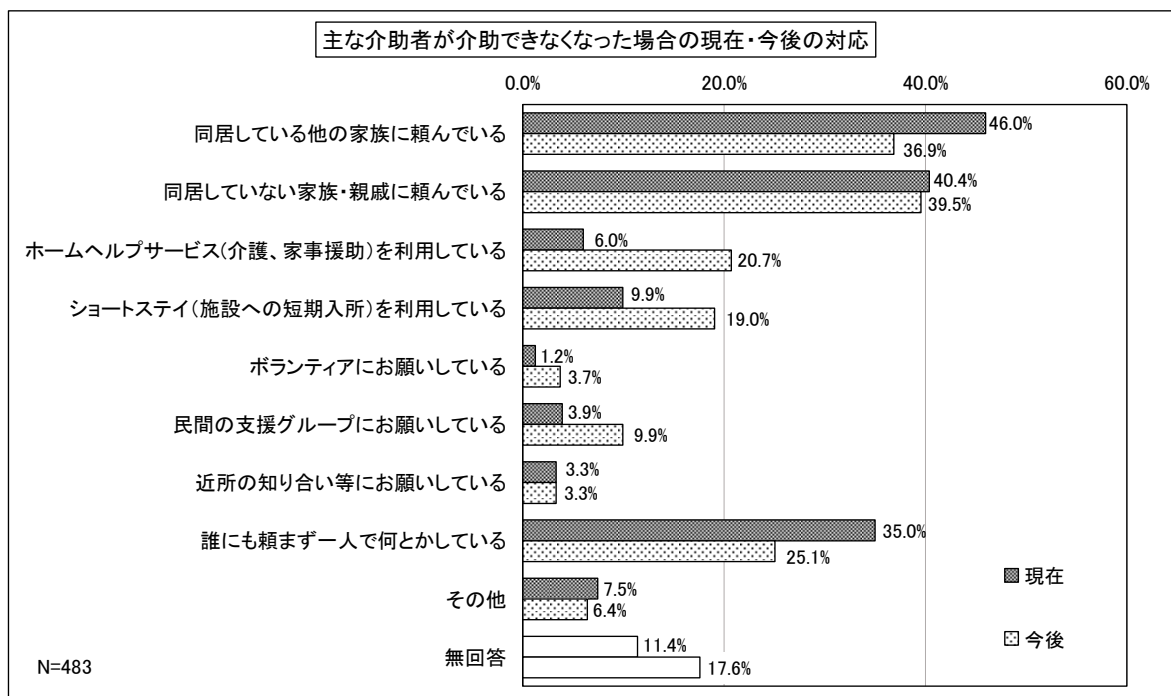


質問 6-2 主な介助者が介助できなくなった場合の現在・今後の対応

主な介助者が介助できなくなった場合の現在の対応については、「同居している他の家族に頼んでいる」が46.0%で最も多く、次いで「同居していない家族・親戚に頼んでいる」40.4%、「誰にも頼まず一人で何とかしている」35.0%、「ショートステイ（施設への短期入所）を利用している」9.9%、「その他」7.5%、「ホームヘルプサービス（介護、家事援助）を利用している」6.0%、「民間の支援グループにお願いしている」3.9%、「近所の知り合い等にお願いしている」3.3%、「ボランティアにお願いしている」1.2%となっています。

今後の対応については、「同居していない家族・親戚に頼んでいる」が39.5%で最も多く、次いで「同居している他の家族に頼んでいる」36.9%、「誰にも頼まず一人で何とかしている」25.1%、「ホームヘルプサービス（介護、家事援助）を利用している」20.7%、「ショートステイ（施設への短期入所）を利用している」19.0%、「民間の支援グループにお願いしている」9.9%、「その他」6.4%、「ボランティアにお願いしている」3.7%、「近所の知り合い等にお願いしている」3.3%となっています。

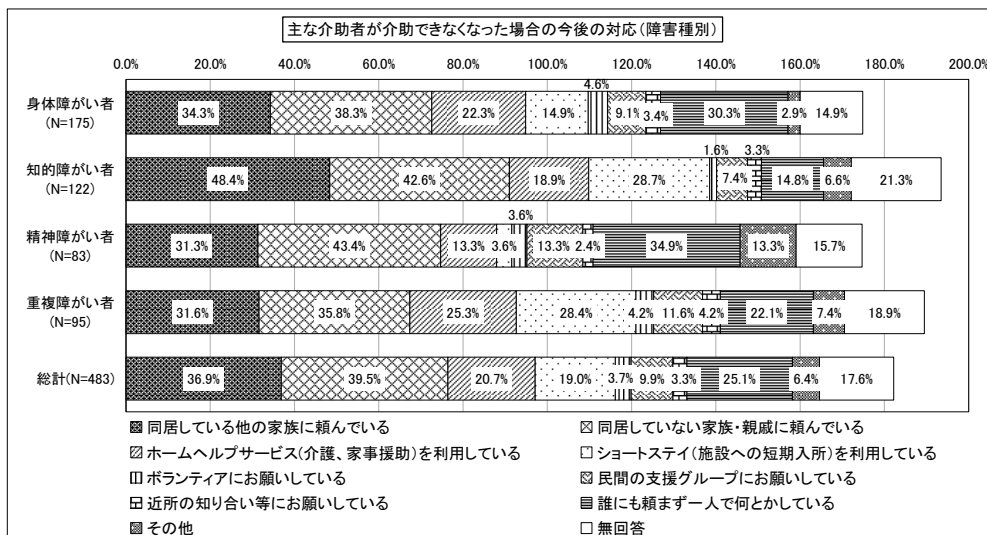
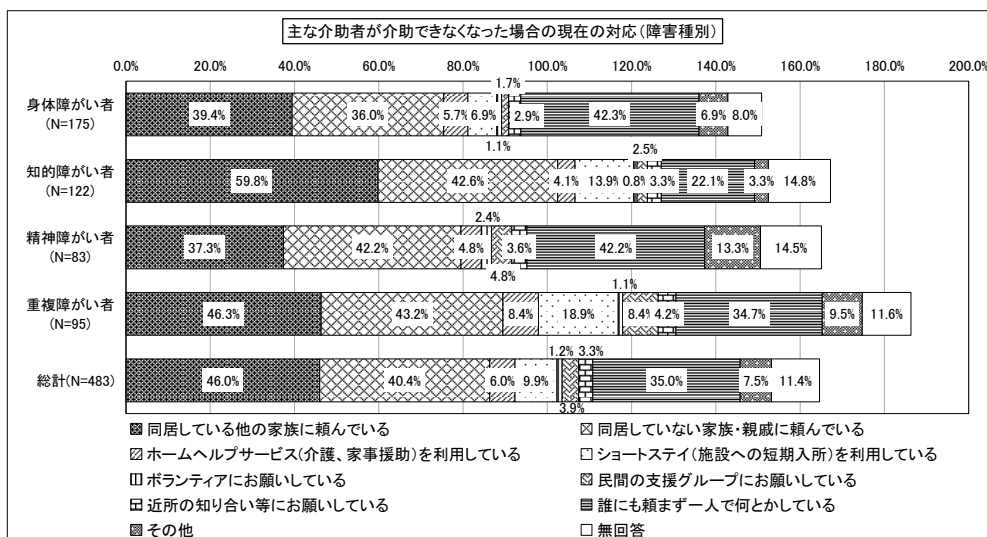
今後の対応が現在を上回っているのは、「ホームヘルプサービス（介護、家事援助）を利用している」、「ショートステイ（施設への短期入所）を利用している」、「ボランティアにお願いしている」、「民間の支援グループにお願いしている」の4項目となっています。



障害種別に現在の対応をみると、身体障がい者では「誰にも頼まず一人で何とかしている」42.3%、知的、重複障がい者では「同居している他の家族に頼んでいる」(知的59.8%、精神46.3%)、精神障がい者では「同居していない家族・親戚に頼んでいる」及び「誰にも頼まず一人で何とかしている」が42.2%で最も多くなっています。今後の対応をみると、身体、精神、重複障がい者では「同居していない家族・親戚に頼んでいる」(身体38.3%、精神43.4%、重複35.8%)、知的障がい者では「同居している他の家族に頼んでいる」48.4%が最も多くなっています。

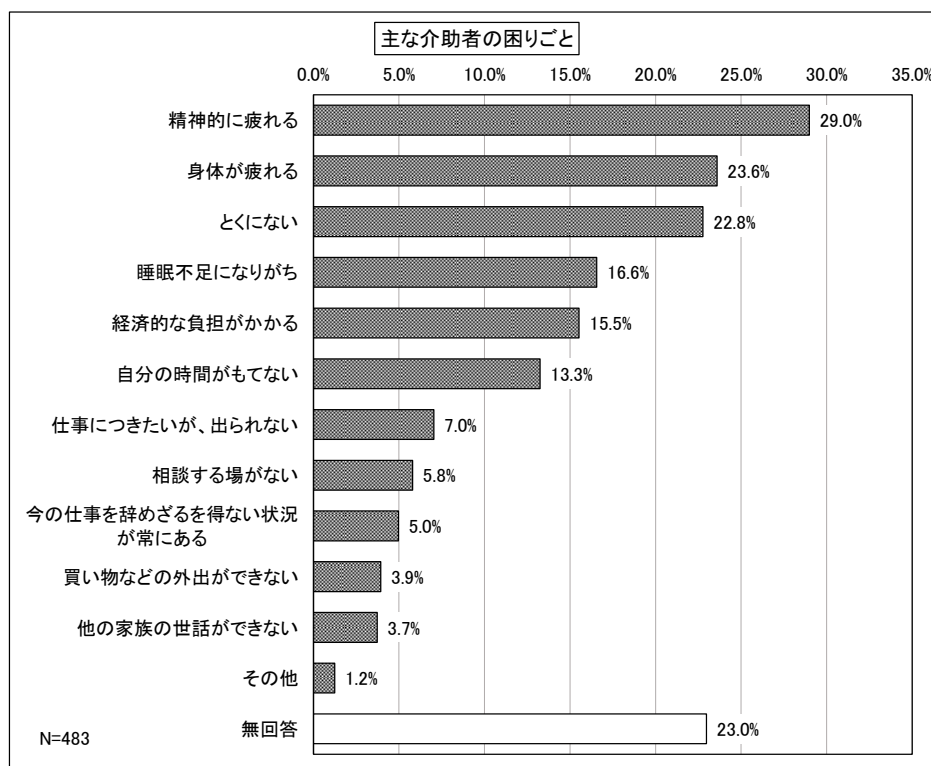
主な介助者が介助できなくなった場合の現在・今後の対応(障害種別)

	同居している他の家族に頼んでいる	同居していない家族・親戚に頼んでいる	ホームヘルプサービス(介護、家事援助)を利用している	ショートステイ(施設への短期入所)を利用している	ボランティアにお願いしている	民間の支援グループにお願いしている	近所の知り合い等にお願いしている	誰にも頼まず一人で何とかしている	その他	無回答
現在										
身体障がい者(N=175)	39.4%	36.0%	5.7%	6.9%	1.1%	1.7%	2.9%	42.3%	6.9%	8.0%
知的障がい者(N=122)	59.8%	42.6%	4.1%	13.9%	0.8%	2.5%	3.3%	22.1%	3.3%	14.8%
精神障がい者(N=83)	37.3%	42.2%	4.8%	0.0%	2.4%	4.8%	3.6%	42.2%	13.3%	14.5%
重複障がい者(N=95)	46.3%	43.2%	8.4%	18.9%	1.1%	8.4%	4.2%	34.7%	9.5%	11.6%
総計(N=483)	46.0%	40.4%	6.0%	9.9%	1.2%	3.9%	3.3%	35.0%	7.5%	11.4%
今後										
身体障がい者(N=175)	34.3%	38.3%	22.3%	14.9%	4.6%	9.1%	3.4%	30.3%	2.9%	14.9%
知的障がい者(N=122)	48.4%	42.6%	18.9%	28.7%	1.6%	7.4%	3.3%	14.8%	6.6%	21.3%
精神障がい者(N=83)	31.3%	43.4%	13.3%	3.6%	3.6%	13.3%	2.4%	34.9%	13.3%	15.7%
重複障がい者(N=95)	31.6%	35.8%	25.3%	28.4%	4.2%	11.6%	4.2%	22.1%	7.4%	18.9%
総計(N=483)	36.9%	39.5%	20.7%	19.0%	3.7%	9.9%	3.3%	25.1%	6.4%	17.6%



質問 6-3 主な介助者の困りごと

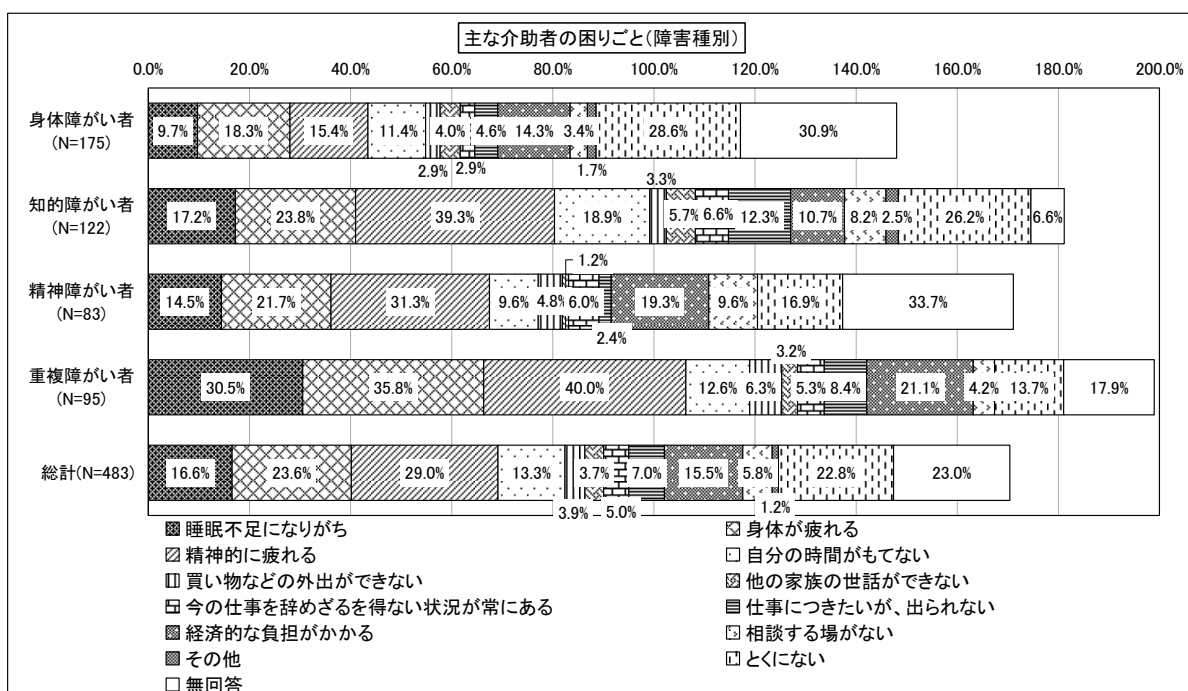
主な介助者の困りごとについては、「精神的に疲れる」が 29.0%で最も多く、次いで「身体が疲れる」23.6%、「とくにない」22.8%、「睡眠不足になりがち」16.6%、「経済的な負担がかかる」15.5%、「自分の時間がもてない」13.3%、「仕事につきたいが、出られない」7.0%、「相談する場がない」5.8%、「今の仕事を辞めざるを得ない状況が常にある」5.0%、「買い物などの外出ができない」3.9%、「他の家族の世話ができない」3.7%、「その他」1.2%となっています。



障害種別でみると、身体障がい者では「とくにない」が 28.6%、知的、精神、重複障がい者では「精神的に疲れる」（知的 39.3%、精神 31.3%、重複 40.0%）が最も多くなっています。また、重複障がい者では「睡眠不足になりがち」、「身体が疲れる」、「精神的に疲れる」、「経済的な負担がかかる」の回答割合が他の障害種別に比べて多くなっています。

主な介助者の困りごと(障害種別)

	睡眠不足になりがち	身体が疲れる	精神的に疲れる	自分の時間がもてない	買い物などの外出ができない	他の家族の世話ができない	今の仕事を辞めざるを得ない状況が常にある	仕事につきたいが、出られない	経済的な負担がかかる	相談する場がない	その他	とくにない	無回答
身体障がい者(N=175)	9.7%	18.3%	15.4%	11.4%	2.9%	4.0%	2.9%	4.6%	14.3%	3.4%	1.7%	28.6%	30.9%
知的障がい者(N=122)	17.2%	23.8%	39.3%	18.9%	3.3%	5.7%	6.6%	12.3%	10.7%	8.2%	2.5%	26.2%	6.6%
精神障がい者(N=83)	14.5%	21.7%	31.3%	9.6%	4.8%	1.2%	6.0%	2.4%	19.3%	9.6%	0.0%	16.9%	33.7%
重複障がい者(N=95)	30.5%	35.8%	40.0%	12.6%	6.3%	3.2%	5.3%	8.4%	21.1%	4.2%	0.0%	13.7%	17.9%
総計(N=483)	16.6%	23.6%	29.0%	13.3%	3.9%	3.7%	5.0%	7.0%	15.5%	5.8%	1.2%	22.8%	23.0%



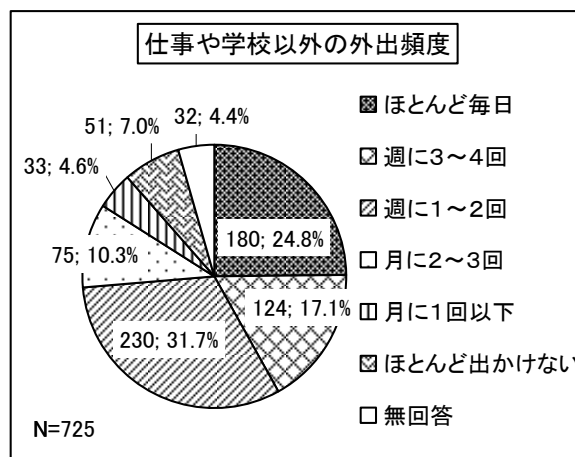
質問 6-4 介助する上で、支援してほしいこと

分類	主な意見	延べ件数
経済的な支援	経済的な援助（安心して休める環境）。 経済的に支援してほしい。 自分のライフスタイルに合った仕事の時間調整ができる職場が増えてほしい。仕事ができない間の経済的支援が欲しい。 自宅～病院までのタクシー代、治療に必要な物の支援。 今私一人で生計を立てています。主人は無職、子供三人いてとても不安です。	15 件
相談窓口の充実	家族に相談できない時に相談に乗ってほしい。 話を聞いてほしいがどこに相談したらよいのか分からない。 精神障害なので、見た目ではわかりにくく、伝わらない事が多いので、専門的な人のアドバイスが欲しい。 発達障がい児の子ももちろん生きづらさを感じ、苦しんでいると思うのですが、育てている親側にも悩み事が多く精神的に追い詰められることがよくあり、親の辛さを聞いてもらえるとうれしいです。	10 件
移動支援	高齢になってきたので車の運転がおっくうになってきた。病院や買い物などの外出時の支援が欲しい。 今の所運転出来るが、今後頼れる人がいない。 住んでいる部屋が三階のため週二回の透析に行くだけで気持ちが悪くなる。デイケアサービスも受けず困っているので部屋まで迎えてもらえると助かります。	7 件
短期入所	急病の時などにすぐ利用できる短期入所施設が欲しい。 今ショートステイのサービスの受給はしていても使える事業所が探せず大変困っている。 ショートステイが出来る所（安心して預けられる場所）、仕事で夜、ミーティングなどがある場合、預ける場所がない。 ショートステイなどをもっと気軽に利用できるようになると負担軽減になると思う。	7 件

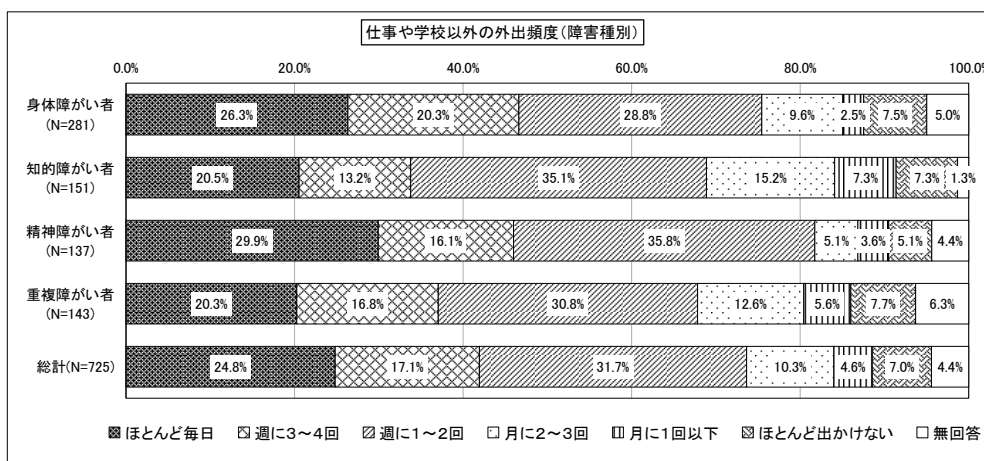
居宅介護	お風呂食事介助など全て支援が必要。簡単な手続きで短時間でもいいので安心してみてもらえる支援があればいいなと思う。 知的障がいので一日中、外に出ないことがあるので、在宅支援のサービスもあってほしい。 排泄、着脱、食事全てにおいて全介助なので、ヘルパーさんがいると助かります。身体も大きくなってきて力も強いので、介助者の体力的に厳しくなっている現状がある。	5件
行動援護	現在高2の子供は、卒業後「就労B」を希望していますが、送迎車が来るバス停まで一人で外出することができません（理由：外出時間がわからない。戸締りができない。鍵の管理ができない。バス停までの危険認知力が弱い。コミュニケーションにおいて返答が難しいなどの理由）。現在共働きで早朝の勤務の為、子供を見送ってからの出勤が難しいです。就労後、身支度から戸締り、バス停までの移動等の支援をお願いできないかと切に願っています。 事業所への送り出し、迎え入れ等、家族が出来ない時のヘルプサービスなど。	4件
食事の支援	仕事が忙しいので、食事作りの支援があれば助かる（以前はヘルパーさんが作れたが、できなくなった）。	4件
親亡き後の支援	介助している親亡き後、本人が笑顔で生活できる社会福祉。 現在のところ特になくはないけれど、両親の亡き後を考えると不安が尽きない。	3件
施設の増設	もっと入所できる施設を増やしてほしい ショートステイやグループホームなどを増やしてほしい	3件
就労	リハビリの機会、就業（職場復帰）の支援 仕事につきたい	2件
その他	他人に気持ちが理解できない所。 近所づきあい。 1人1人に対して、個性に応じた対応が必要と思う。 小学生の心臓病の子ですが、受診が月三回ほどになることがあり、担任に早退をしないように言われます。もっと先生側の理解も必要だと思う。本人も病院に行きたいわけではないのに先生から注意され病院に行きたがらなくなっている。 自分の時間がない。 介助者自身の社会生活を維持できるようなサービスにしてほしい。 自身の症状について、家族・本人ももっと学習する機会、もしくは担当部署を把握しておきたい。 本人が外へ出るきっかけになるサークルでもあれば家族も時間が取れ本人の精神も安定するのでは。 家にこもりがち。誰か誘ってほしい。 買い物など普段介助者が付き添えるが、仕事など急用の時はすぐお願いできる制度を考えてほしい。	34件

質問7 仕事や学校以外の外出頻度

仕事や学校以外の外出頻度については、「週に1～2回」が31.7%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」24.8%、「週に3～4回」17.1%、「月に2～3回」10.3%、「ほとんど出かけない」7.0%、「月に1回以下」4.6%となっています。



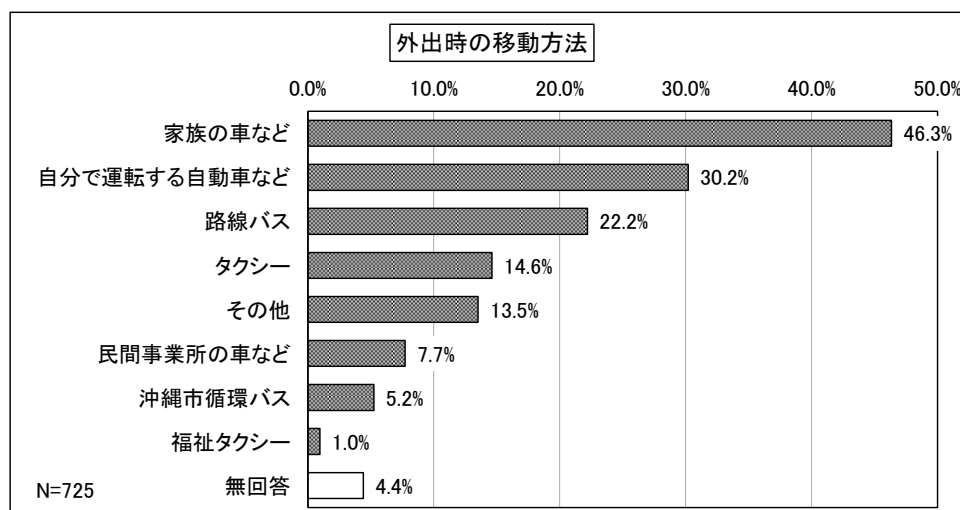
障害種別でみると、すべての障害種別において「週に1～2回」が最も多く、身体障がい者で28.8%、知的障がい者で35.1%、精神障がい者で35.8%、重複障がい者で30.8%となっています。



質問8 外出時の移動方法

外出時の主な移動方法については、「家族の車など」が46.3%で最も多く、次いで「自分で運転する自動車など」30.2%、「路線バス」22.2%、「タクシー」14.6%、「その他」13.5%、「民間事業所の車など」7.7%、「沖縄市循環バス」5.2%、「福祉タクシー」1.0%となっています。

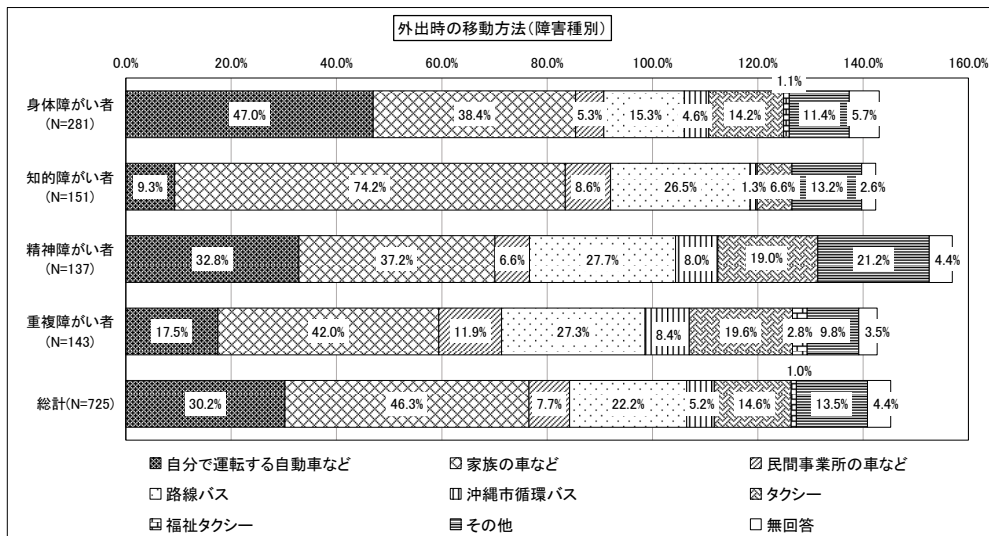
なお、「その他」のうち、約6割の方が「徒歩」と回答しています。



障害種別でみると、「家族の車など」の割合が高いのは知的障がい者の74.2%、精神障がい者の37.2%、重複障がい者の42.0%となっており、とくに知的障がい者で突出して高くなっています。身体障がい者では、「自分で運転する車など」が47.0%で最も多くなっています。

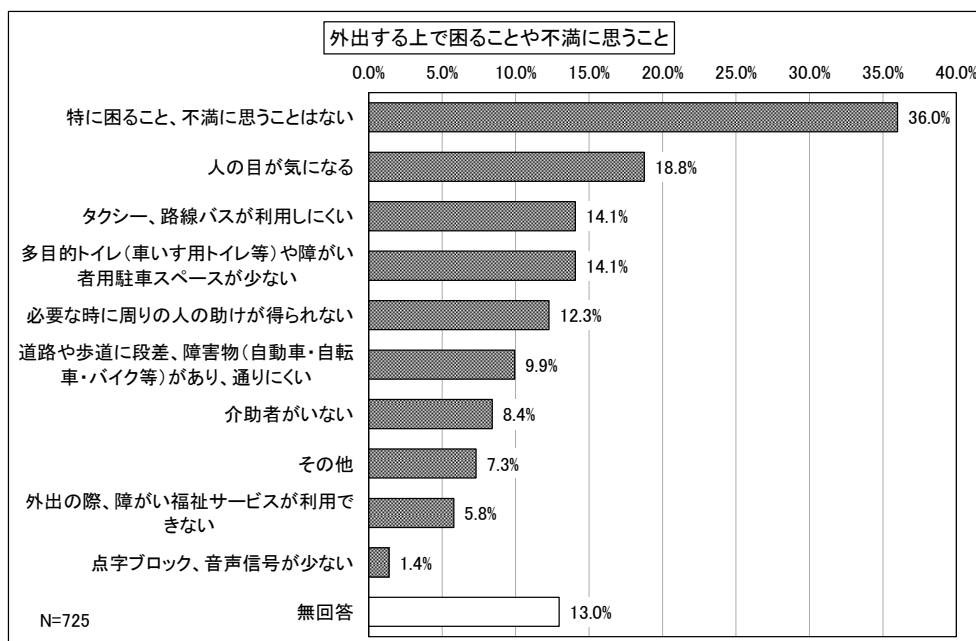
外出時の移動方法(障害種別)

	自分で運転する自動車など	家族の車など	民間事業所の車など	路線バス	沖縄市循環バス	タクシー	福祉タクシー	その他	無回答
身体障がい者(N=281)	47.0%	38.4%	5.3%	15.3%	4.6%	14.2%	1.1%	11.4%	5.7%
知的障がい者(N=151)	9.3%	74.2%	8.6%	26.5%	1.3%	6.6%	0.0%	13.2%	2.6%
精神障がい者(N=137)	32.8%	37.2%	6.6%	27.7%	8.0%	19.0%	0.0%	21.2%	4.4%
重複障がい者(N=143)	17.5%	42.0%	11.9%	27.3%	8.4%	19.6%	2.8%	9.8%	3.5%
総計(N=725)	30.2%	46.3%	7.7%	22.2%	5.2%	14.6%	1.0%	13.5%	4.4%



質問9 外出する上で困ることや不満に思うこと

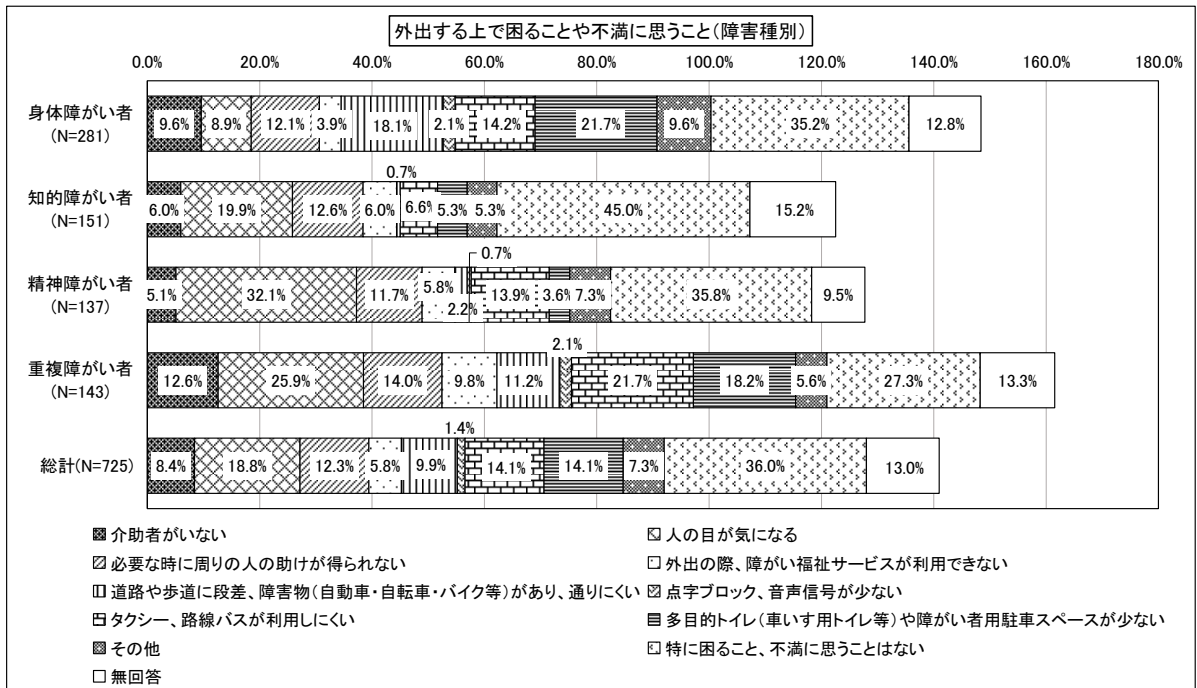
外出する上で困ることや不満に思うことについては、「特に困ること、不満に思うことはない」が36.0%で最も多く、次いで「人の目が気になる」18.8%、「タクシー、路線バスが利用しにくい」及び「多目的トイレ（車いす用トイレ等）や障がい者用駐車スペースが少ない」14.1%、「必要な時に周りの人の助けが得られない」12.3%、「道路や歩道に段差、障害物（自動車・自転車・バイク等）があり、通りにくい」9.9%、「介助者がいない」8.4%、「その他」7.3%、「外出の際、障がい福祉サービスが利用できない」5.8%、「点字ブロック、音声信号が少ない」1.4%となっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「特に困ること、不満に思うことはない」が最も多く、身体障がい者で35.2%、知的障がい者で45.0%、精神障がい者で35.8%、重複障がい者で27.3%となっています。「人の目が気になる」については、精神障がい者が32.1%で、他の障害種別に比べ高くなっています。

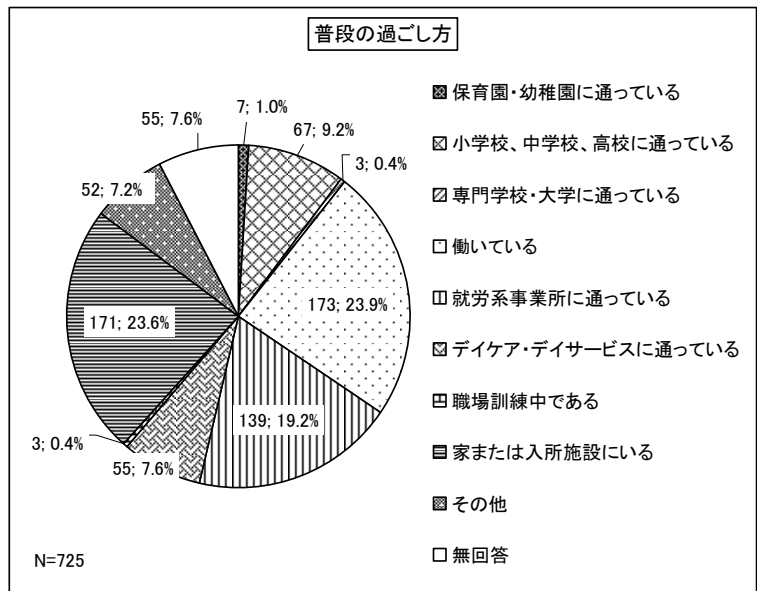
外出する上で困ることや不満に思うこと(障害種別)

	介助者がいない	人の目が気になる	必要な時に周りの人の助けが得られない	外出の際、障がい福祉サービスが利用できない	道路や歩道に段差、障害物（自動車・自転車・バイク等）があり、通りにくい	点字ブロック、音声信号が少ない	タクシー、路線バスが利用しにくい	多目的トイレ（車いす用トイレ等）や障がい者用駐車スペースが少ない	その他	特に困ること、不満に思うことはない	無回答
身体障がい者(N=281)	9.6%	8.9%	12.1%	3.9%	18.1%	2.1%	14.2%	21.7%	9.6%	35.2%	12.8%
知的障がい者(N=151)	6.0%	19.9%	12.6%	6.0%	0.7%	0.0%	6.6%	5.3%	5.3%	45.0%	15.2%
精神障がい者(N=137)	5.1%	32.1%	11.7%	5.8%	2.2%	0.7%	13.9%	3.6%	7.3%	35.8%	9.5%
重複障がい者(N=143)	12.6%	25.9%	14.0%	9.8%	11.2%	2.1%	21.7%	18.2%	5.6%	27.3%	13.3%
総計(N=725)	8.4%	18.8%	12.3%	5.8%	9.9%	1.4%	14.1%	14.1%	7.3%	36.0%	13.0%

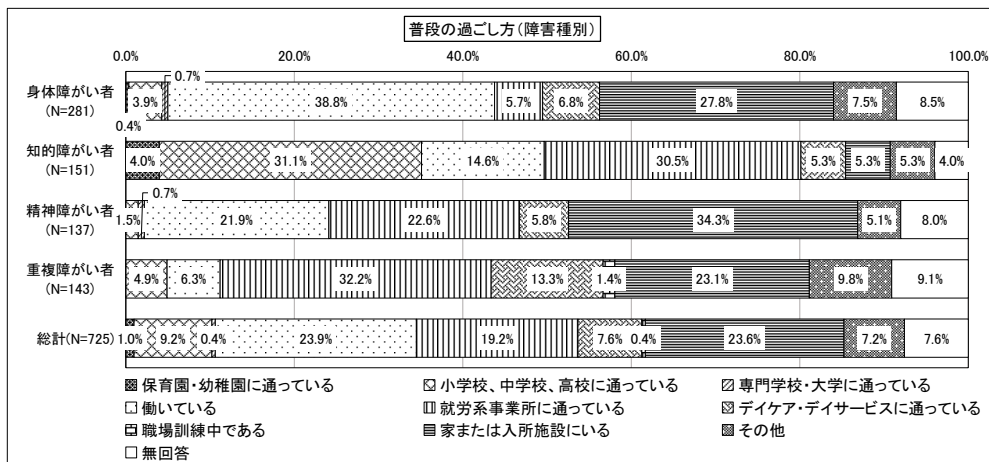


質問 10 普段の過ごし方について

普段の過ごし方については、「働いている」が 23.9%で最も多く、次いで「家または入所施設に
 いる」23.6%、「就労系事業所に通っている」19.2%、「小学校、中学校、高校に通っている」9.2%、
 「デイケア・デイサービスに通っている」7.6%、「その他」7.2%、「保育園・幼稚園に通って
 いる」1.0%、「専門学校・大学に通っている」及び「職場訓練中である」0.4%となっています。

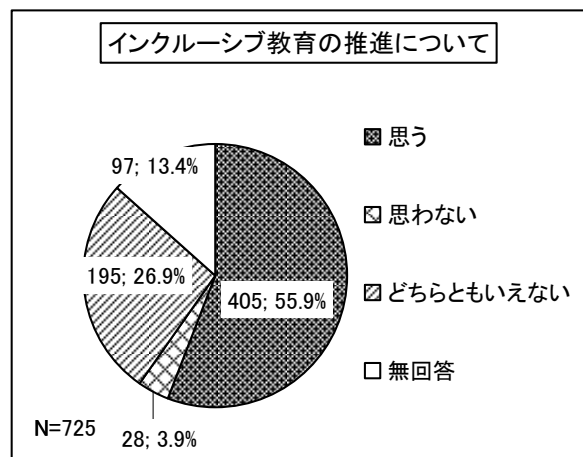


障害種別でみると、身体障がい者では「働いている」が 38.8%、知的障がい者では「小学校、中学校、高校に通っている」が 31.1%、精神障がい者では「家または入所施設にいる」が 34.3%、重複障がい者では「就労系事業所に通っている」が 32.2%で最も多くなっています。「働いている」については、重複障がい者のみ 1 割未満で他の障害種別に比べ低くなっています。

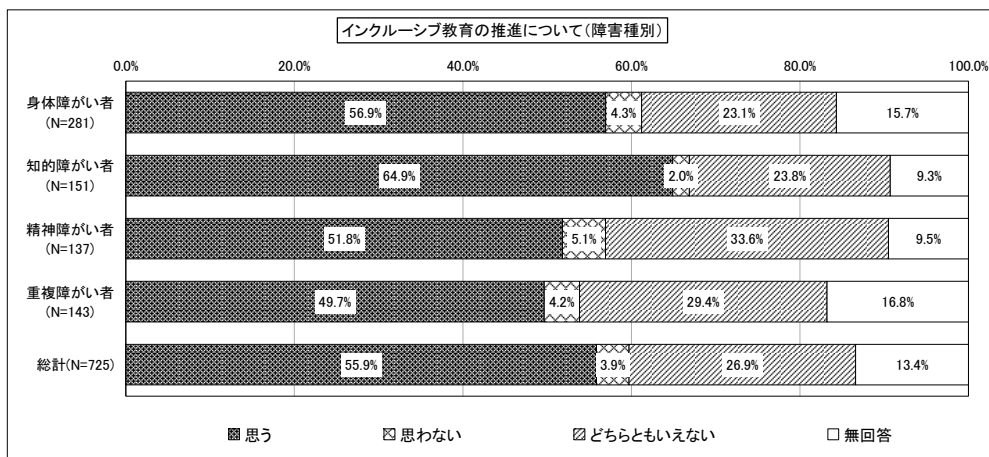


質問 11 インクルーシブ教育の推進の必要性について

インクルーシブ教育の推進の必要性については、「思う」55.9%、「どちらともいえない」26.9%、「思わない」3.9%で、「思う」が最も多くなっています。

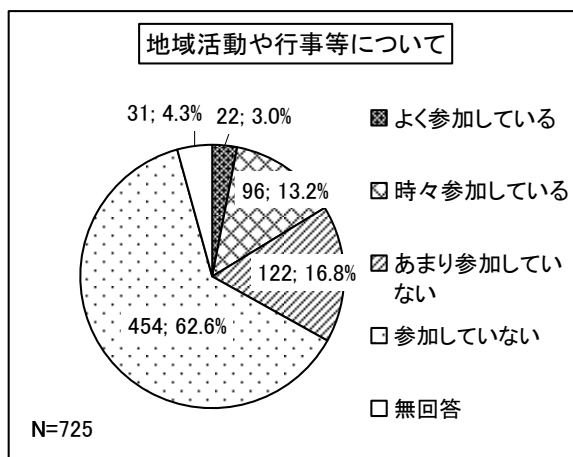


障害種別でみると、すべての障害種別において「思う」が最も多く、身体障がい者で 56.9%、知的障がい者で 64.9%、精神障がい者で 51.8%、重複障がい者で 49.7%となっています。一方、「思わない」については、すべての障害種別で 1 割未満となっています。

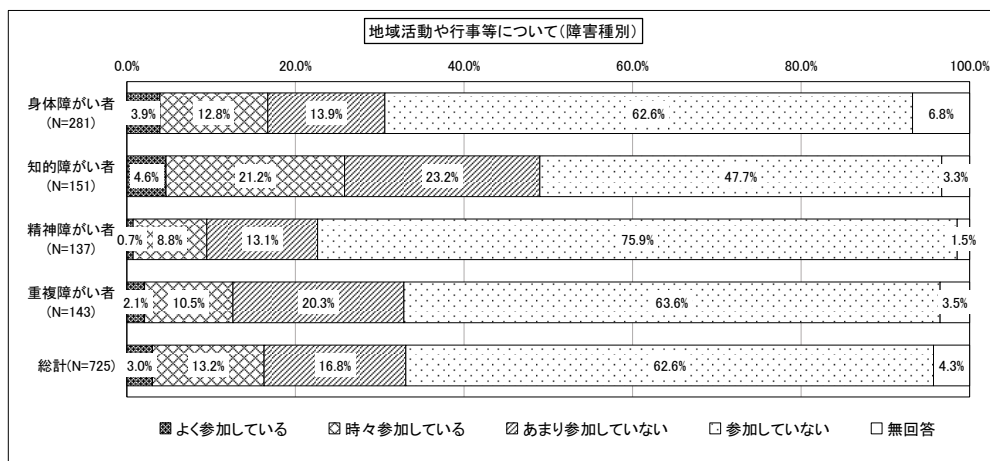


質問 12 地域活動や行事等への参加について

地域活動や行事等への参加については、「参加していない」が62.6%で最も多く、次いで「あまり参加していない」16.8%、「時々参加している」13.2%「よく参加している」3.0%となっています。

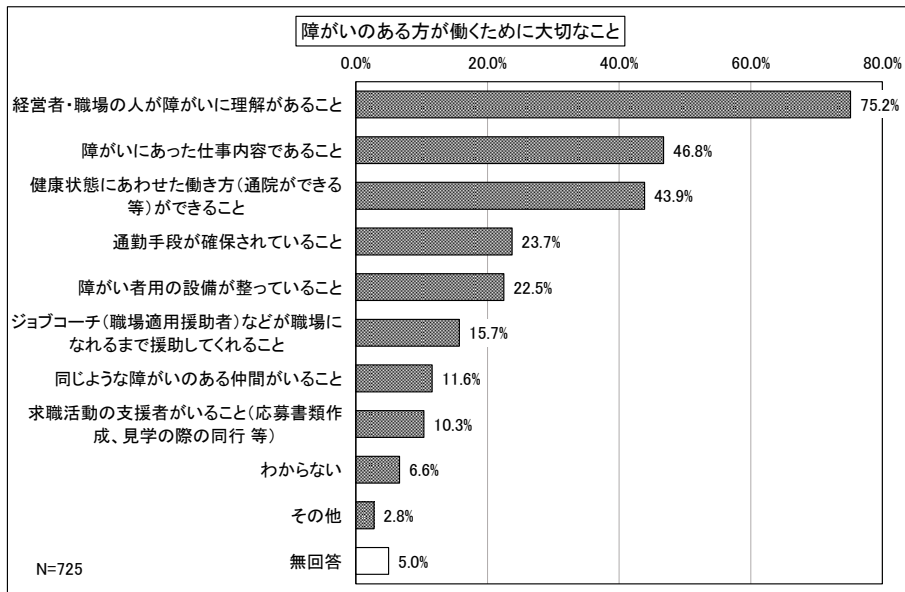


障害種別でみると、すべての障害種別において「参加していない」が最も多く、中でも精神障がい者は75.9%と、他の障害種別に比べ10ポイント以上高くなっています。



質問 13 障がいのある方が働くためには、どのような環境が整っていることが大切か

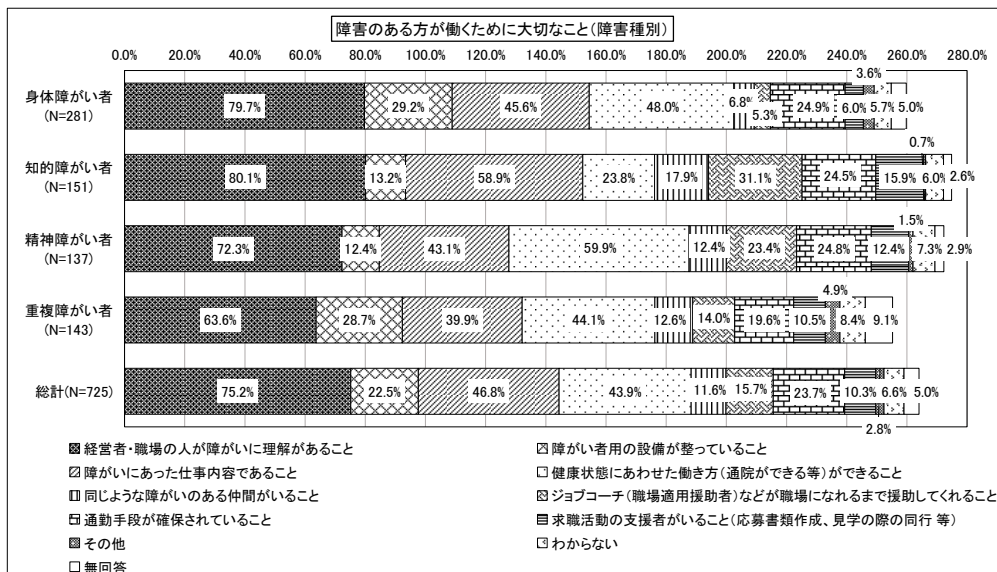
障がいのある方が働くためには、どのような環境が整っていることが大切かについては、「経営者・職場の人が障がいに理解があること」が75.2%で最も多く、次いで「障がいにあった仕事内容であること」46.8%、「健康状態にあわせた働き方（通院ができる等）ができること」43.9%、「通勤手段が確保されていること」23.7%、「障がい者用の設備が整っていること」22.5%、「ジョブコーチ（職場適用援助者）などが職場になれるまで援助してくれること」15.7%、「同じような障がいのある仲間がいること」11.6%、「求職活動の支援者がいること（応募書類作成、見学の際の同行等）」10.3%、「わからない」6.6%、「その他」2.8%となっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「経営者・職場の人が障がいに理解があること」が最も多く、身体障がい者で79.7%、知的障がい者で80.1%、精神障がい者で72.3%、重複障がい者で63.6%となっています。また、5割以上の項目をみると、知的障がい者の「障がいにあった仕事内容であること」が58.9%、精神障がい者の「健康状態にあわせた働き方(通院ができる等)ができること」が59.9%となっています。

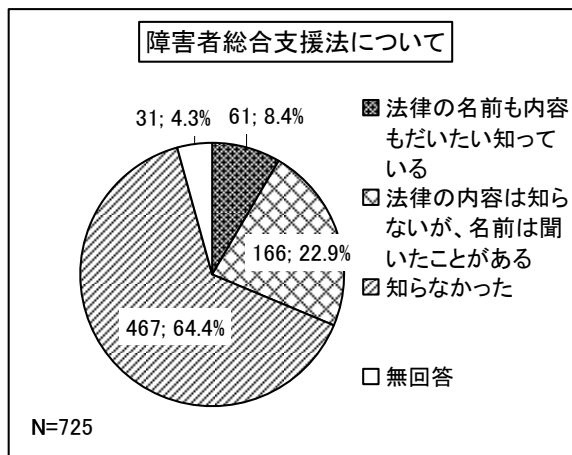
障がいのある方が働くために大切なこと(障害種別)

	経営者・職場の人が障がいに理解があること	障がい者用の設備が整っていること	障がいにあった仕事内容であること	健康状態にあわせた働き方(通院ができる等)ができること	同じような障がいのある仲間がいること	ジョブコーチ(職場適用援助者)などが職場になれるまで援助してくれること	通勤手段が確保されていること	求職活動の支援者がいること(応募書類作成、見学の同行等)	その他	わからない	無回答
身体障がい者(N=281)	79.7%	29.2%	45.6%	48.0%	6.8%	5.3%	24.9%	6.0%	3.6%	5.7%	5.0%
知的障がい者(N=151)	80.1%	13.2%	58.9%	23.8%	17.9%	31.1%	24.5%	15.9%	0.7%	6.0%	2.6%
精神障がい者(N=137)	72.3%	12.4%	43.1%	59.9%	12.4%	23.4%	24.8%	12.4%	1.5%	7.3%	2.9%
重複障がい者(N=143)	63.6%	28.7%	39.9%	44.1%	12.6%	14.0%	19.6%	10.5%	4.9%	8.4%	9.1%
総計(N=725)	75.2%	22.5%	46.8%	43.9%	11.6%	15.7%	23.7%	10.3%	2.8%	6.6%	5.0%

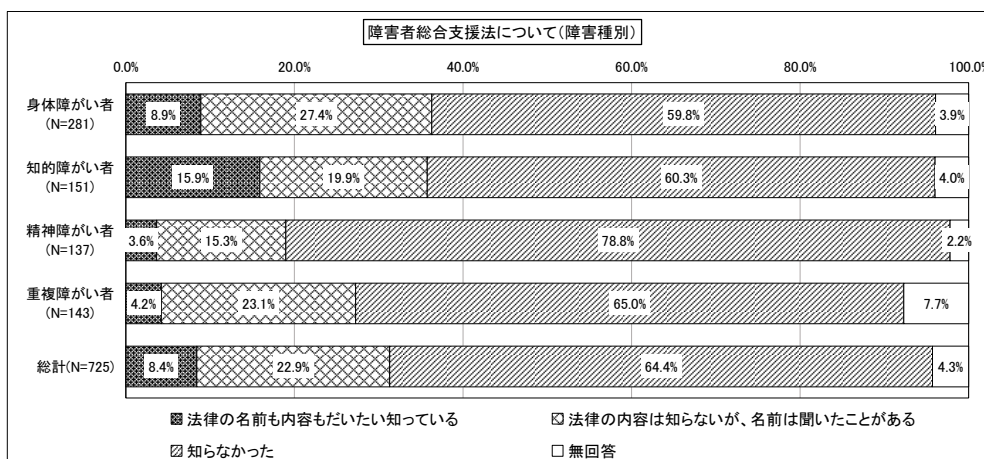


質問 14 障害者総合支援法の認知度

障害者総合支援法の認知度については、「知らなかった」64.4%、「法律の内容は知らないが、名前は聞いたことがある」22.9%、「法律の名前も内容もだいたい知っている」8.4%で、「知らなかった」が最も多くなっています。

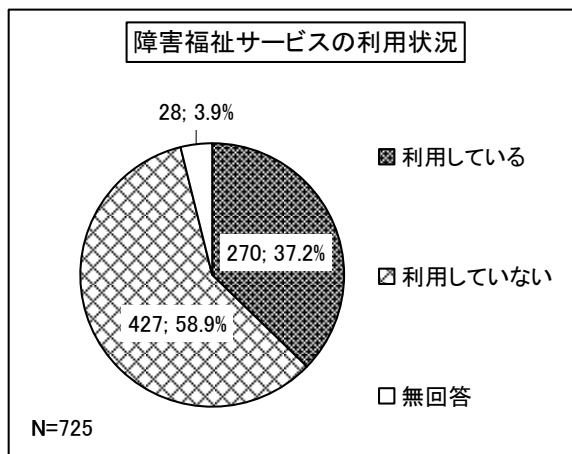


障害種別でみると、「法律の名前も内容もだいたい知っている」の割合が高いのは、知的障がい者で15.9%となっています。一方で、「知らなかった」の割合が高いのは、精神障がい者で78.8%となっています。

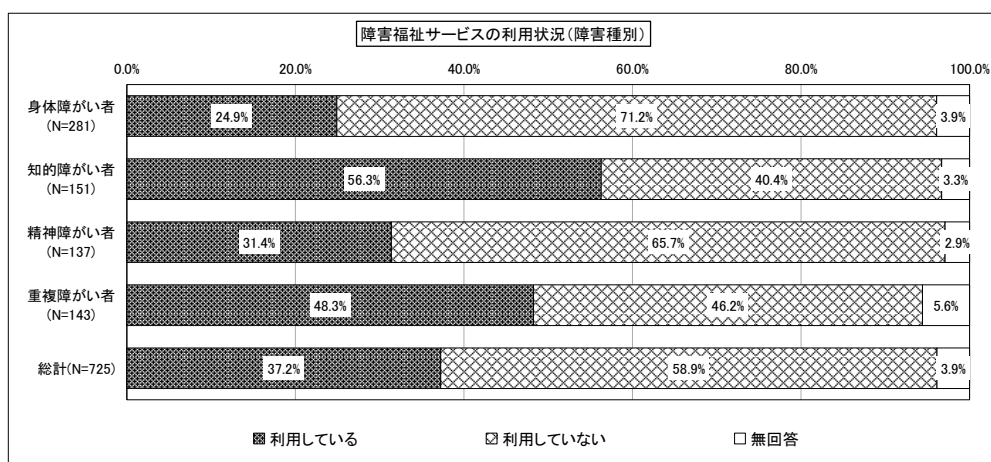


質問 15 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスの利用状況については、「利用していない」58.9%、「利用している」37.2%で、「利用していない」が多くなっています。



障害種別でみると、「利用している」は、身体障がい者で 24.9%、知的障がい者で 56.3%、精神障がい者で 31.4%、重複障がい者で 48.3%となっており、知的、重複障がい者においては「利用している」が「利用していない」の割合を上回っています。

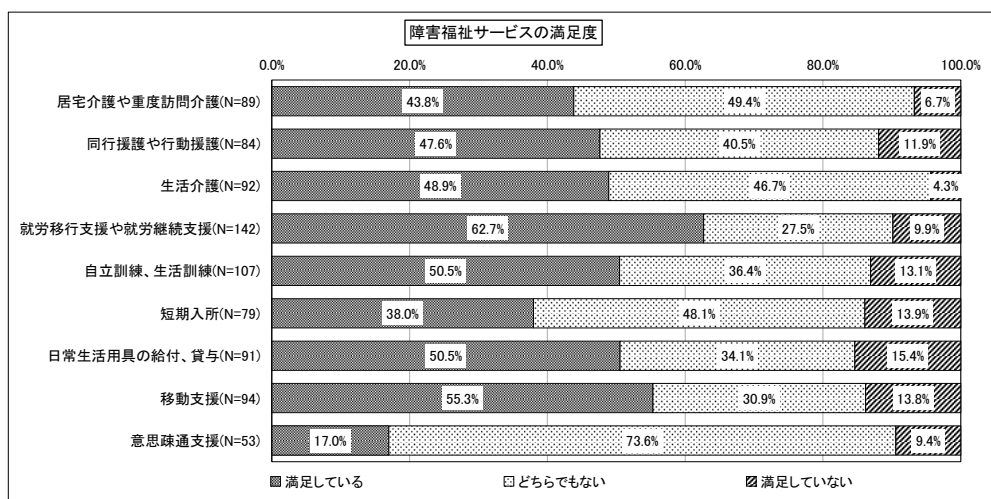


【質問 15 で「利用している」と回答した方にお聞きします】

質問 15-1 障害福祉サービスの種類ごとの満足度

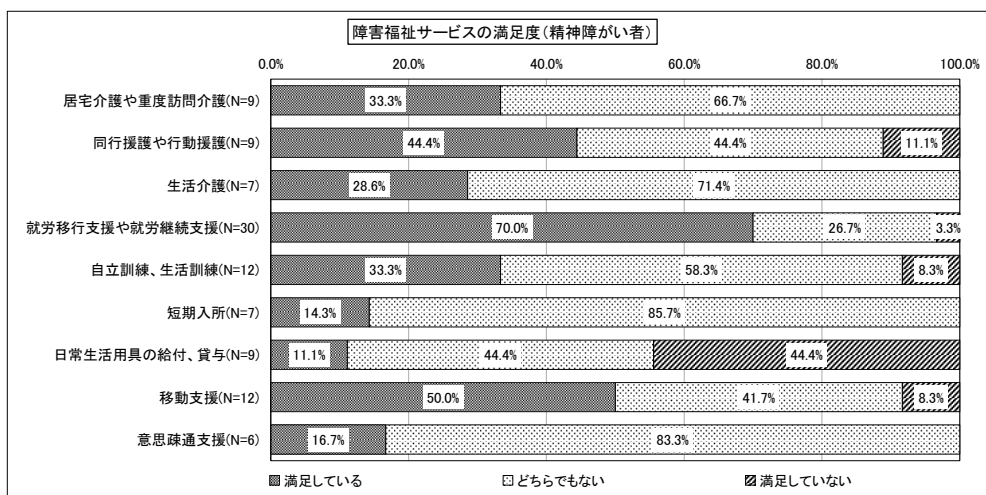
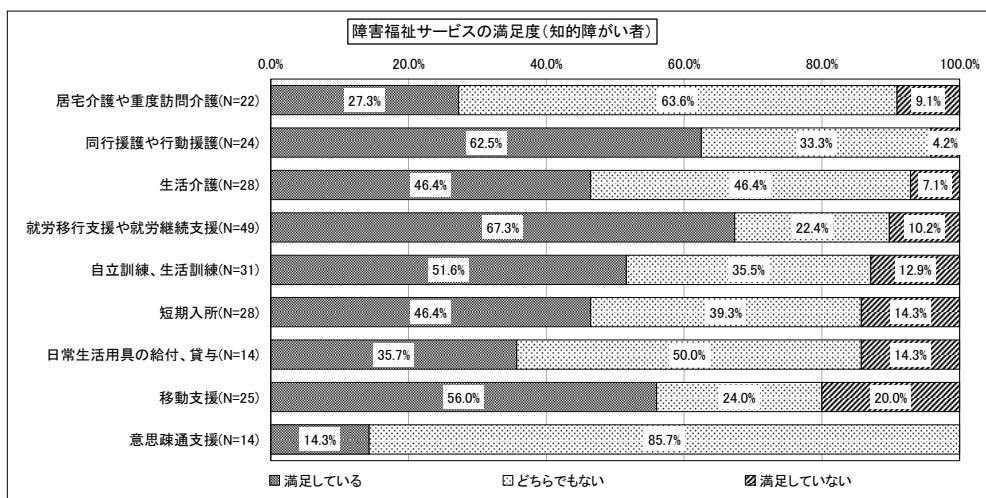
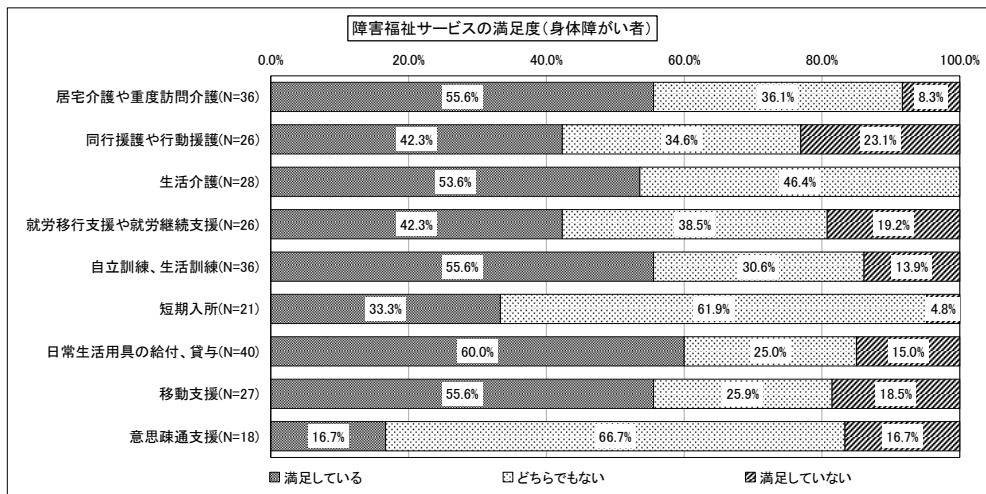
障害福祉サービスの種類ごとの満足度をみると、「満足している」の割合が 50%を超えているのは、「就労移行支援や就労継続支援」、「自立訓練、生活訓練」、「日常生活用具の給付、貸与」、「移動支援」となっています。

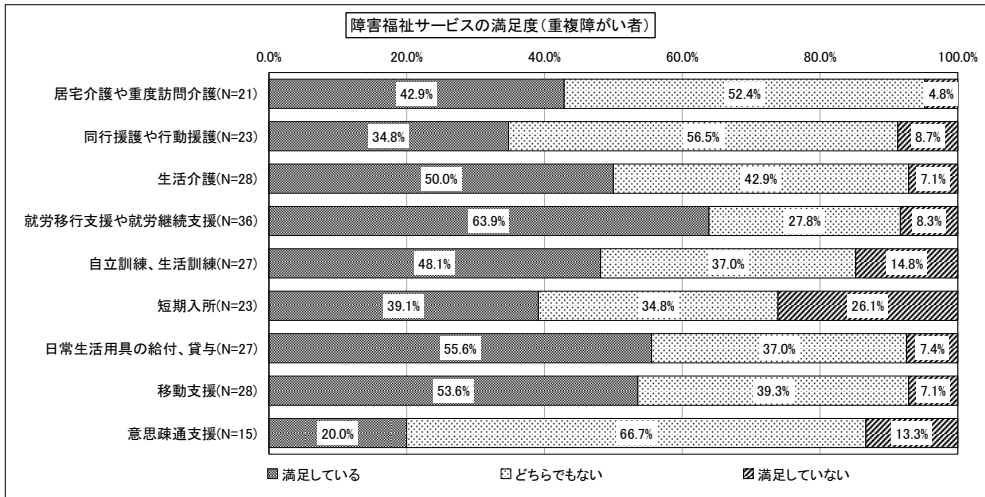
一方、「満足していない」の割合が高いのは、「日常生活用具の給付、貸与」15.4%、「短期入所」13.9%、「移動支援」13.8%となっています。



障害種別でみると、「満足している」の割合が高いのは、身体障がい者で「日常生活用具の給付、貸与」60.0%、他の障害種別では「就労移行支援や就労継続支援」が高く、知的障がい者で67.3%、精神障がい者で70.0%、重複障がい者で63.9%となっています。

一方、「満足していない」の割合が高いのは、身体障がい者で「同行援護や行動援護」23.1%、知的障がい者で「移動支援」20.0%、精神障がい者で「日常生活用具の給付、貸与」44.4%、重複障がい者で「短期入所」26.1%となっています。

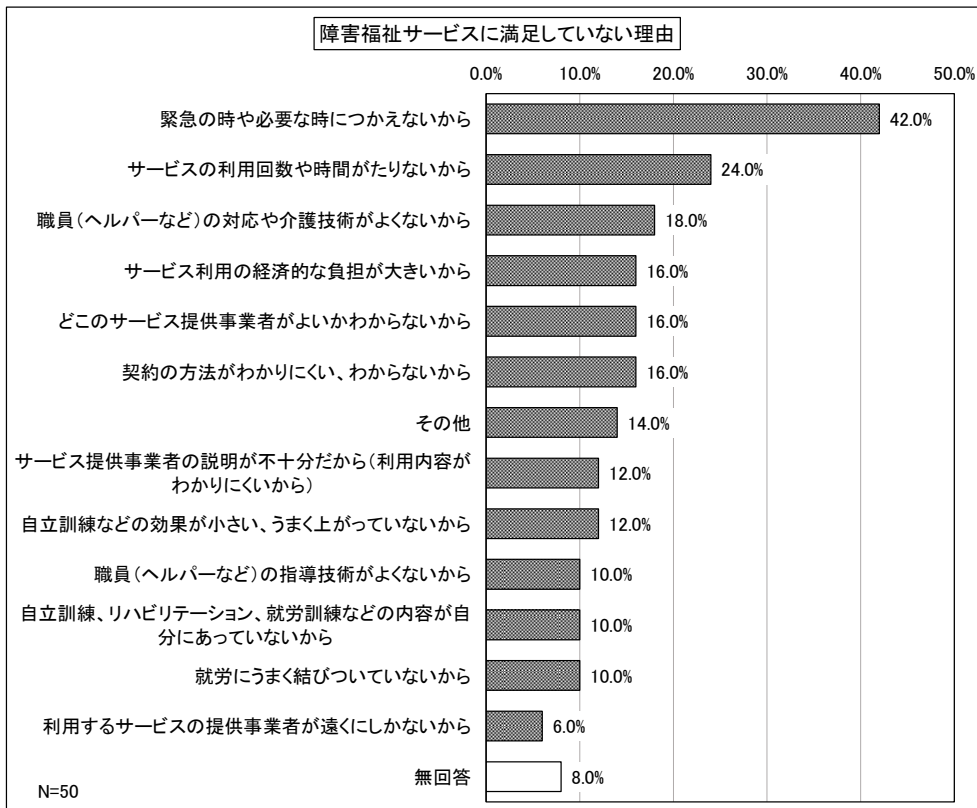




【質問 15-1 で 1 つでも「満足していない」と回答した方にお聞きします】

質問 16 障害福祉サービスに満足していない理由

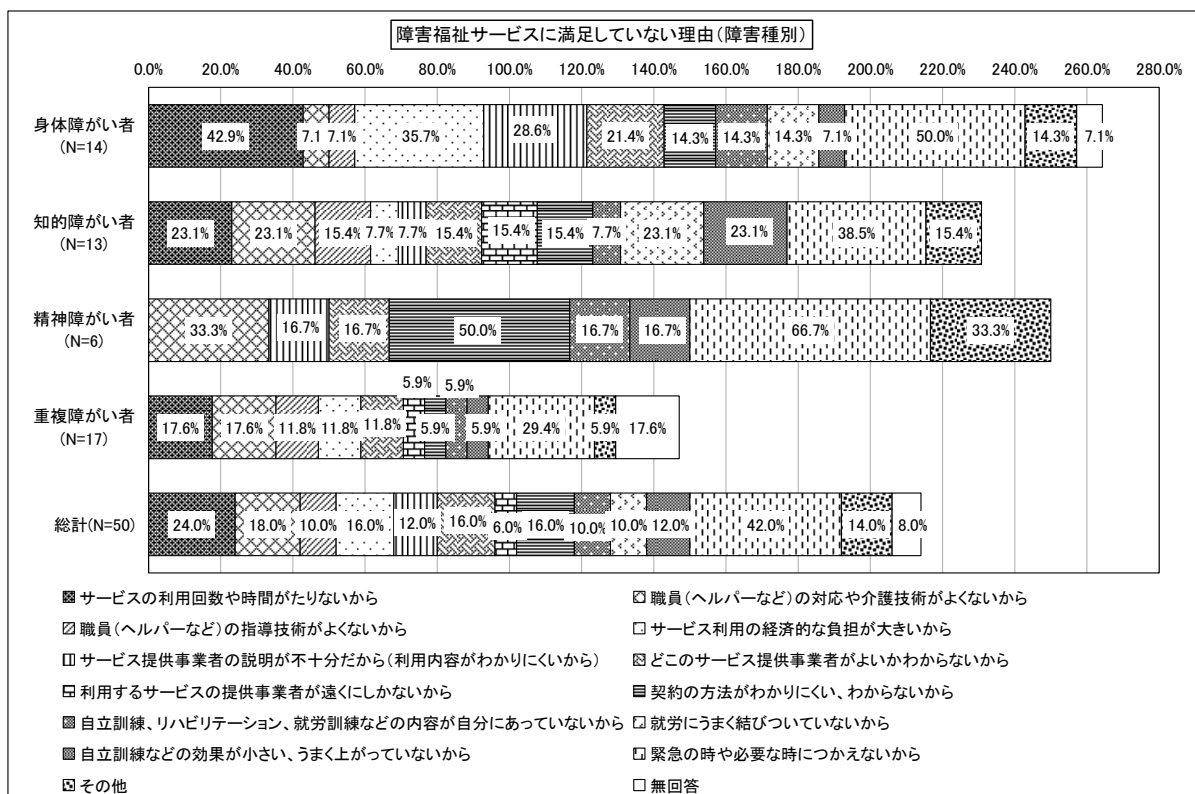
障害福祉サービスに満足していない理由については、「緊急の時や必要な時につかえないから」が 42.0%で最も多く、次いで「サービスの利用回数や時間がたりないから」24.0%、「職員（ヘルパーなど）の対応や介護技術がよくないから」18.0%、「サービス利用の経済的な負担が大きいから」、「どこのサービス提供事業者がよいかわからないから」、「契約の方法がわかりにくい、わからないから」16.0%、「その他」14.0%、「サービス提供事業者の説明が不十分だから（利用内容がわかりにくいから）」及び「自立訓練などの効果が小さい、うまく上がっていないから」12.0%、「職員（ヘルパーなど）の指導技術がよくないから」、「自立訓練、リハビリテーション、就労訓練などの内容が自分にあっていないから」、「就労にうまく結びついていないから」10.0%、「利用するサービスの提供事業者が遠くにしかないから」6.0%となっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「緊急の時や必要な時につかえないから」が最も多く、身体障がい者で50.0%、知的障がい者で38.5%、精神障がい者で66.7%、重複障がい者で29.4%となっています。

障害福祉サービスに満足していない理由(障害種別)

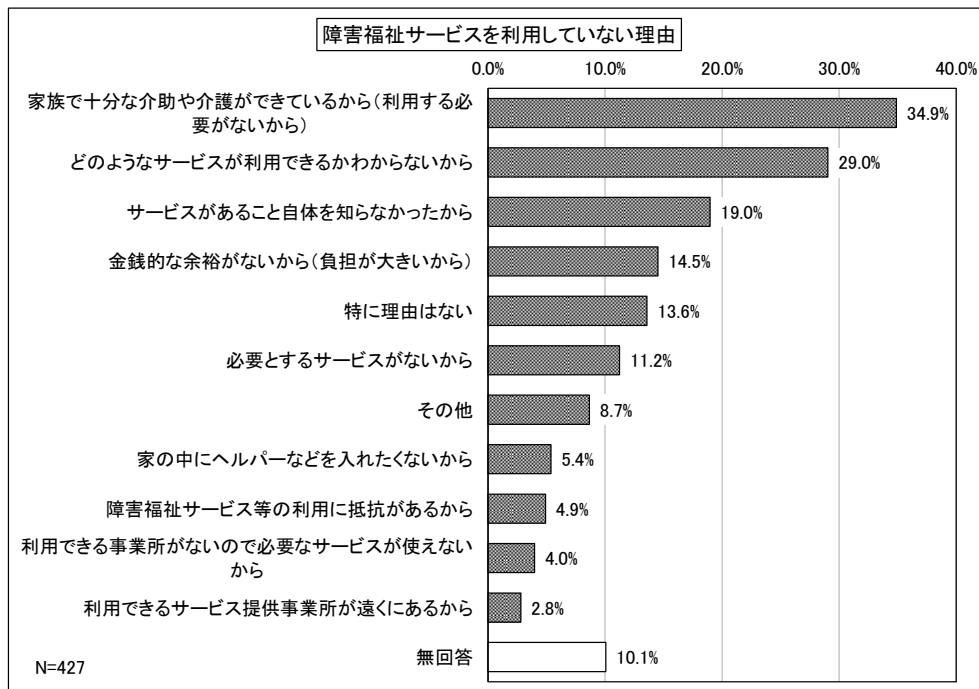
	サービスの利用回数や時間がたりないから	職員(ヘルパーなど)の対応や介護技術がよくないから	職員(ヘルパーなど)の指導技術がよくないから	サービス利用の経済的な負担が大きいため	サービス提供事業者の説明が不十分だから(利用内容がわかりにくいから)	どこのサービス提供事業者がよいかわからないから	利用するサービスの提供事業者が遠くにしかないから	契約の方法がわかりにくい、わからないから	自立訓練、リハビリテーション、就労訓練などの内容が自分にあっていないから	就労にうまく結びついていないから	自立訓練などの効果が小さい、うまく上がっていないから	緊急の時や必要な時につかえないから	その他	無回答
身体障がい者(N=14)	42.9%	7.1%	7.1%	35.7%	28.6%	21.4%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	7.1%	50.0%	14.3%	7.1%
知的障がい者(N=13)	23.1%	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	23.1%	23.1%	38.5%	15.4%	0.0%
精神障がい者(N=6)	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%	66.7%	33.3%	0.0%
重複障がい者(N=17)	17.6%	17.6%	11.8%	11.8%	11.8%	5.9%	5.9%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	29.4%	5.9%	17.6%
総計(N=50)	24.0%	18.0%	10.0%	16.0%	12.0%	16.0%	6.0%	16.0%	10.0%	10.0%	12.0%	42.0%	14.0%	8.0%



【質問 15 で「利用していない」と回答した方にお聞きします】

質問 17 障害福祉サービスを利用していない理由

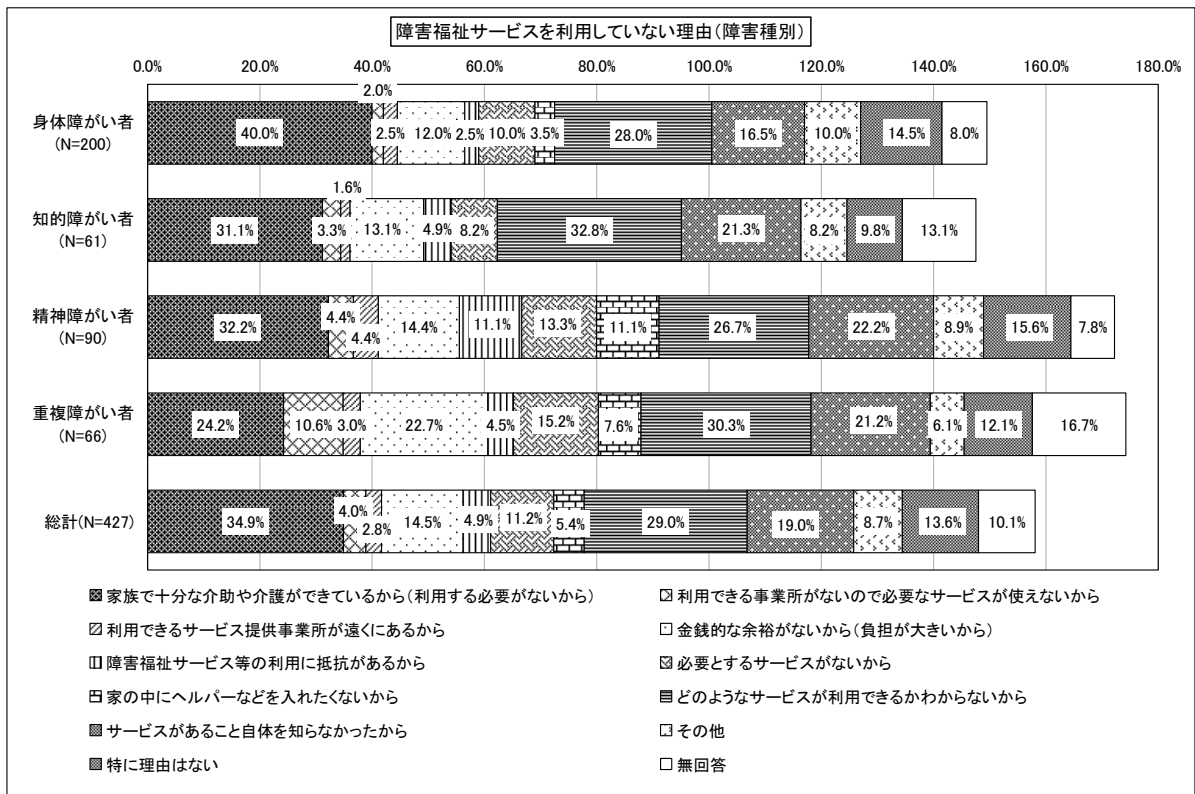
障がい福祉サービスを利用していない理由については、「家族で十分な介助や介護ができてい
から（利用する必要がないから）」が 34.9%で最も多く、次いで「どのようなサービスが利用でき
るかわからないから」29.0%、「サービスがあること自体を知らなかったから」19.0%、「金銭的
な余裕がないから（負担が大きいから）」14.5%、「特に理由はない」13.6%、「必要とするサー
ビスがないから」11.2%、「その他」8.7%、「家の中にヘルパーなどを入れたくないから」5.4%、
「障害福祉サービス等の利用に抵抗があるから」4.9%、「利用できる事業所がないので必要なサー
ビスが使えないから」4.0%、「利用できるサービス提供事業所が遠くにあるから」2.8%となっ
ています。



障害種別でみると、身体、精神障がい者で「家族で十分な介助や介護ができてい
るから（利用する必要がないから）」（身体 40.0%、精神 32.2%）、知的、重複障がい者で「どのようなサー
ビスが利用できるかわからないから」（知的 32.8%、重複 30.3%）が最も多くなっています。

障害福祉サービスを利用していない理由(障害種別)

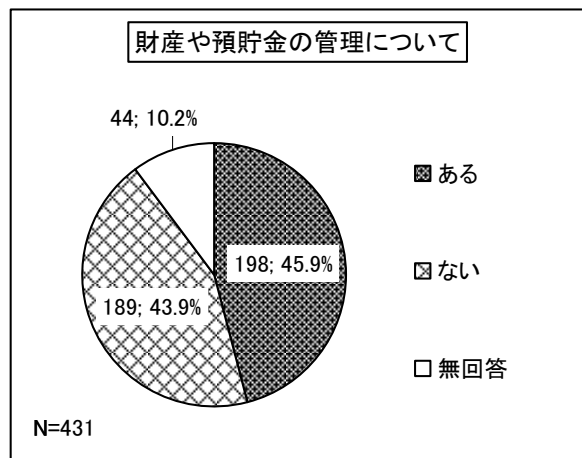
	家族で十分 な介助や 介護が できて いるから （利用 する必 要がな いから）	利用でき る事業所 がないの で必要 なサー ビスが 使えな いから	利用でき るサー ビス提 供事業 所が遠 くにあ るから	金銭的 な余裕 がない から （負担 が大 きい から）	障害福 祉サー ビス等 の利用 に抵抗 があ るから	必要と するサ ービス がな いから	家の中 にヘル パー など を入 れた く な い から	どのよ うなサ ービス が利用 できる か わ か ら な い から	サー ビス があ るこ と自 体 を 知 ら な か つ た か ら	その他	特に理 由は ない	無回 答
身体障がい者(N=200)	40.0%	2.0%	2.5%	12.0%	2.5%	10.0%	3.5%	28.0%	16.5%	10.0%	14.5%	8.0%
知的障がい者(N=61)	31.1%	3.3%	1.6%	13.1%	4.9%	8.2%	0.0%	32.8%	21.3%	8.2%	9.8%	13.1%
精神障がい者(N=90)	32.2%	4.4%	4.4%	14.4%	11.1%	13.3%	11.1%	26.7%	22.2%	8.9%	15.6%	7.8%
重複障がい者(N=66)	24.2%	10.6%	3.0%	22.7%	4.5%	15.2%	7.6%	30.3%	21.2%	6.1%	12.1%	16.7%
総計(N=427)	34.9%	4.0%	2.8%	14.5%	4.9%	11.2%	5.4%	29.0%	19.0%	8.7%	13.6%	10.1%



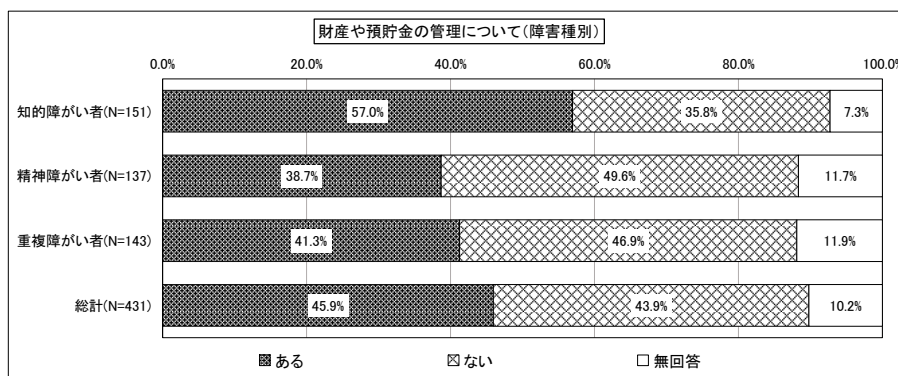
【質問 18～20 は療育手帳もしくは精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方にお聞きします】

質問 18 財産や預貯金の管理等について支援が必要だと思ったこと

財産や預貯金の管理、福祉サービスの利用手続き等の支援が必要だと思ったことについては、「ある」45.9%、「ない」43.9%となっています。

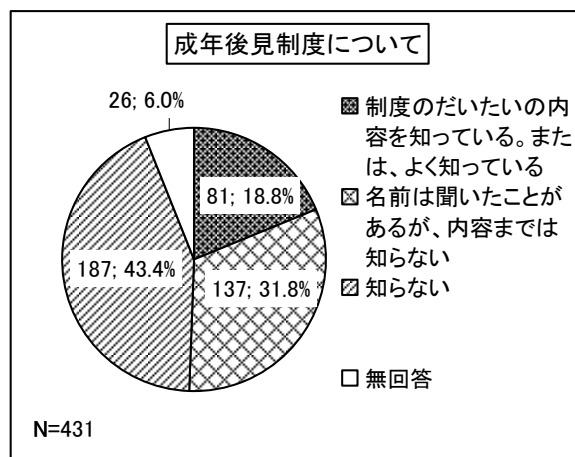


障害種別でみると、「ある」の割合は知的障がい者の57.0%が最も多く、重複障がい者で41.3%、精神障がい者で38.7%となっています。

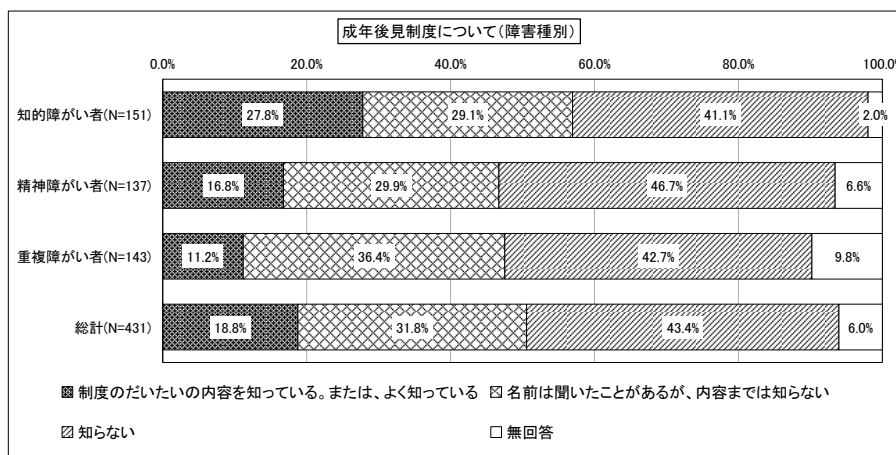


質問 19 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度については、「知らない」43.4%、「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」31.8%、「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」18.8%で、「知らない」が最も多くなっています。



障害種別でみると、知的障がい者では「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」が27.8%となっており、精神、重複障がい者に比べて10ポイント以上高くなっています。「知らない」については、すべての障害種別において45%前後の割合となっています。



〈前回調査との比較〉

成年後見制度について「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」と回答した方を前回調査と比較すると、知的障がい者では0.3ポイント、精神障がい者では5.5ポイント増加しています。

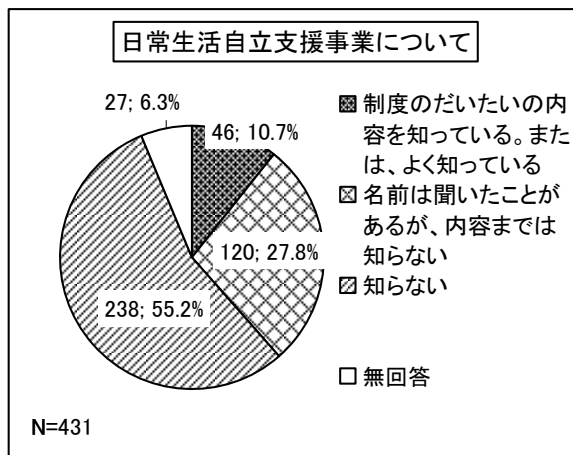
成年後見制度について

「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」

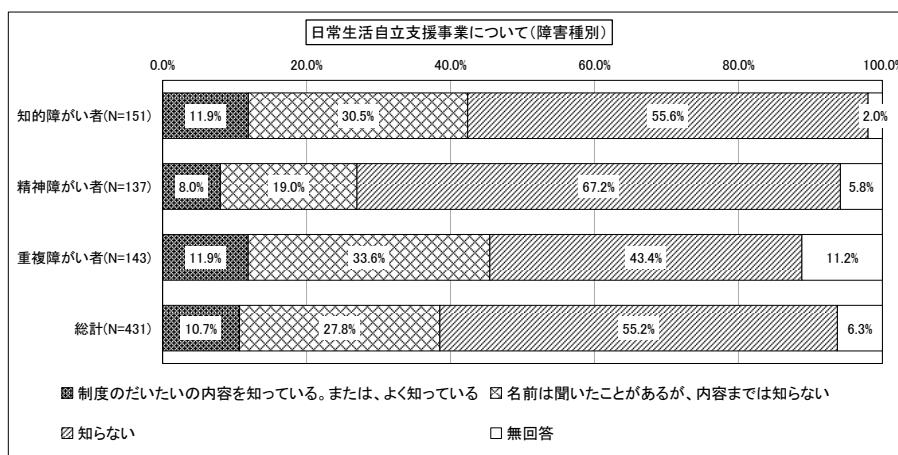
	平成28年度	令和元年度	R1-H28
知的障がい者	27.5%	27.8%	0.3
精神障がい者	11.3%	16.8%	5.5

質問 20 日常生活自立支援事業の認知度

日常生活自立支援事業の認知度については、「知らない」55.2%、「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」27.8%、「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」10.7%で、「知らない」が最も多くなっています。



障害種別でみると、「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」の割合はすべての障害種別において1割程度となっています。一方、「知らない」については、知的障がい者55.6%、精神障がい者67.2%、重複障がい者43.4%で、とくに精神障がい者の割合が多くなっています。



<前回調査との比較>

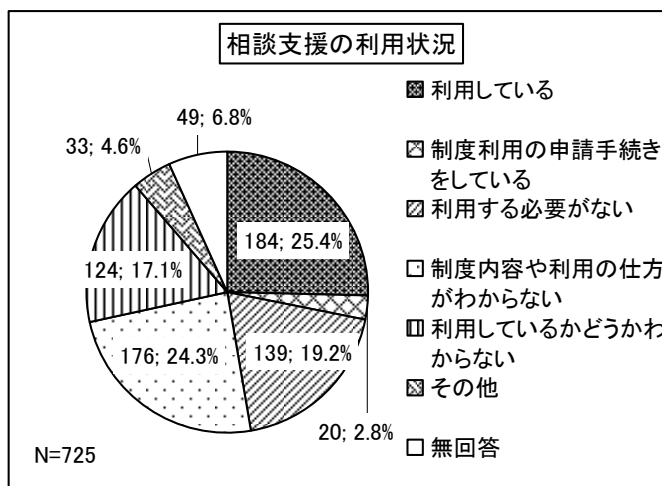
日常生活自立支援事業について「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」と回答した方を前回調査と比較すると、知的障がい者では0.7ポイント、精神障がい者では4.2ポイント減少しています。

日常生活自立支援事業について
「制度の詳しい内容を知っている。または、よく知っている」

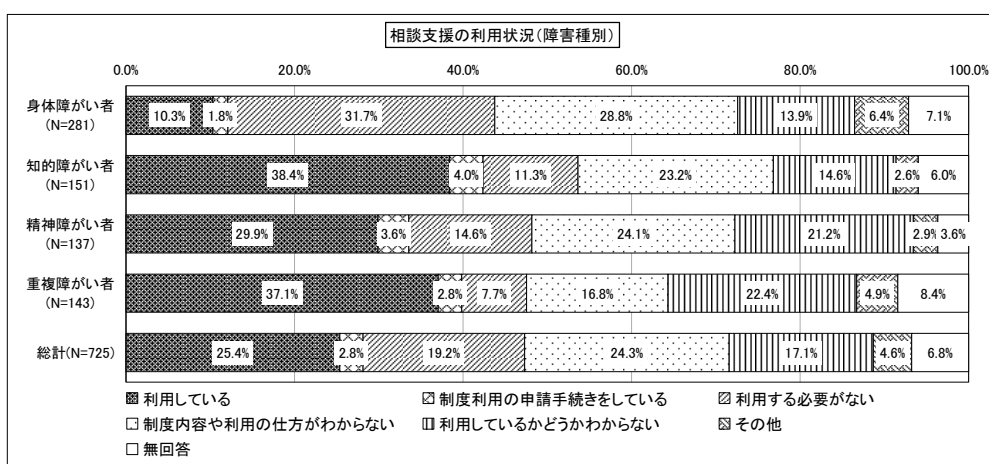
	平成28年度	令和元年度	R1-H28
知的障がい者	12.6%	11.9%	-0.7
精神障がい者	12.2%	8.0%	-4.2

質問 21 相談支援の利用状況

相談支援の利用状況については、「利用している」が 25.4%で最も多く、次いで「制度内容や利用の仕方がわからない」24.3%、「利用する必要がない」19.2%、「利用しているかどうかわからない」17.1%、「その他」4.6%、「制度利用の申請手続きをしている」2.8%となっています。



障害種別でみると、知的、精神、重複障がい者では「利用している」（知的 38.4%、精神 29.9%、重複 37.1%）、身体障がい者では「利用する必要がない」が 31.7%で最も多くなっています。



<前回調査との比較>

相談支援の利用状況について前回調査と比較すると、「利用している」の身体障がい者が 9.3 ポイント、知的障がい者が 6.5 ポイント減少しており、「制度内容や利用の仕方がわからない」の知的障がい者が 5.2 ポイント増加しています。他の項目については、概ね前回調査と同様の傾向となっています。

相談支援の利用状況(平成28年度)

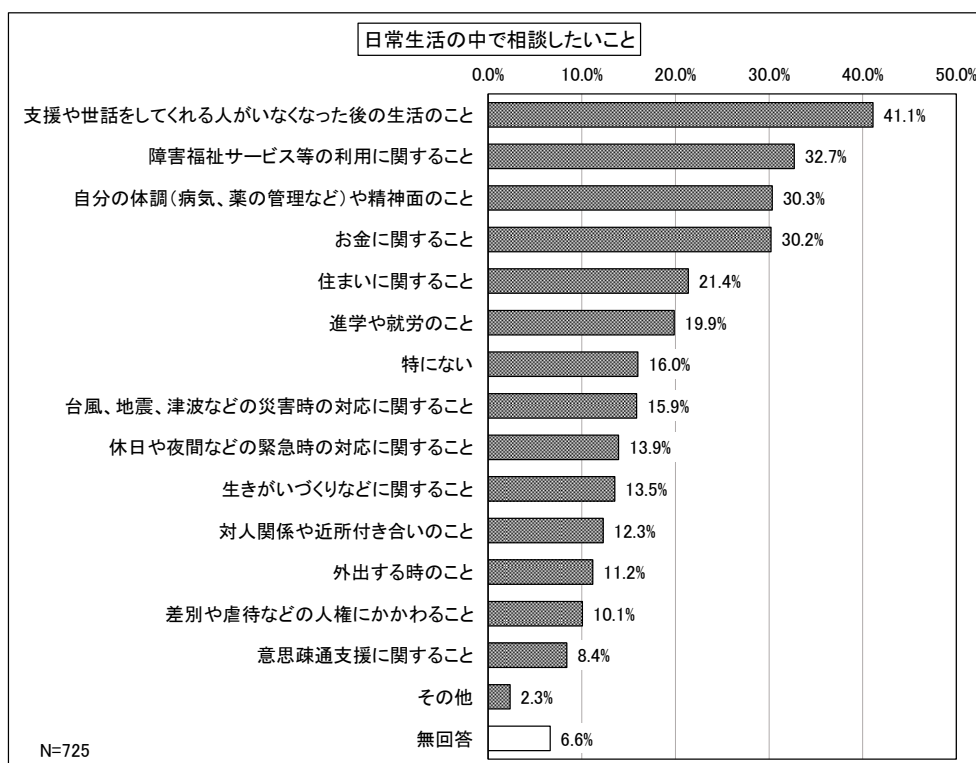
	利用している	制度利用の申請手続きをしている	利用する必要がない	制度内容や利用の仕方がわからない	利用しているかどうかわからない	その他	無回答
身体障がい者	19.6%	1.9%	26.8%	28.9%	11.9%	3.4%	7.6%
知的障がい者	44.9%	3.0%	9.0%	18.0%	16.2%	3.6%	5.4%
精神障がい者	28.8%	1.4%	11.3%	25.7%	21.6%	4.1%	7.2%

相談支援の利用状況(令和元年度)

	利用している	制度利用の申請手続きをしている	利用する必要がない	制度内容や利用の仕方がわからない	利用しているかどうかわからない	その他	無回答
身体障がい者	10.3%	1.8%	31.7%	28.8%	13.9%	6.4%	7.1%
知的障がい者	38.4%	4.0%	11.3%	23.2%	14.6%	2.6%	6.0%
精神障がい者	29.9%	3.6%	14.6%	24.1%	21.2%	2.9%	3.6%

質問 22 日常生活の中で、どのようなことについて相談したいか

日常生活の中で、どのようなことについて相談したいかについては、「支援や世話をしてくれる人がいなくなった後の生活のこと」が41.1%で最も多く、次いで「障害福祉サービス等の利用に関すること」32.7%、「自分の体調（病気、薬の管理など）や精神面のこと」30.3%、「お金に関すること」30.2%、「住まいに関すること」21.4%、「進学や就労のこと」19.9%、「特にない」16.0%、「台風、地震、津波などの災害時の対応に関すること」15.9%、「休日や夜間などの緊急時の対応に関すること」13.9%、「生きがいづくりなどに関すること」13.5%、「対人関係や近所付き合いのこと」12.3%、「外出する時のこと」11.2%、「差別や虐待などの人権にかかわること」10.1%、「意思疎通支援に関すること」8.4%、「その他」2.3%となっています。

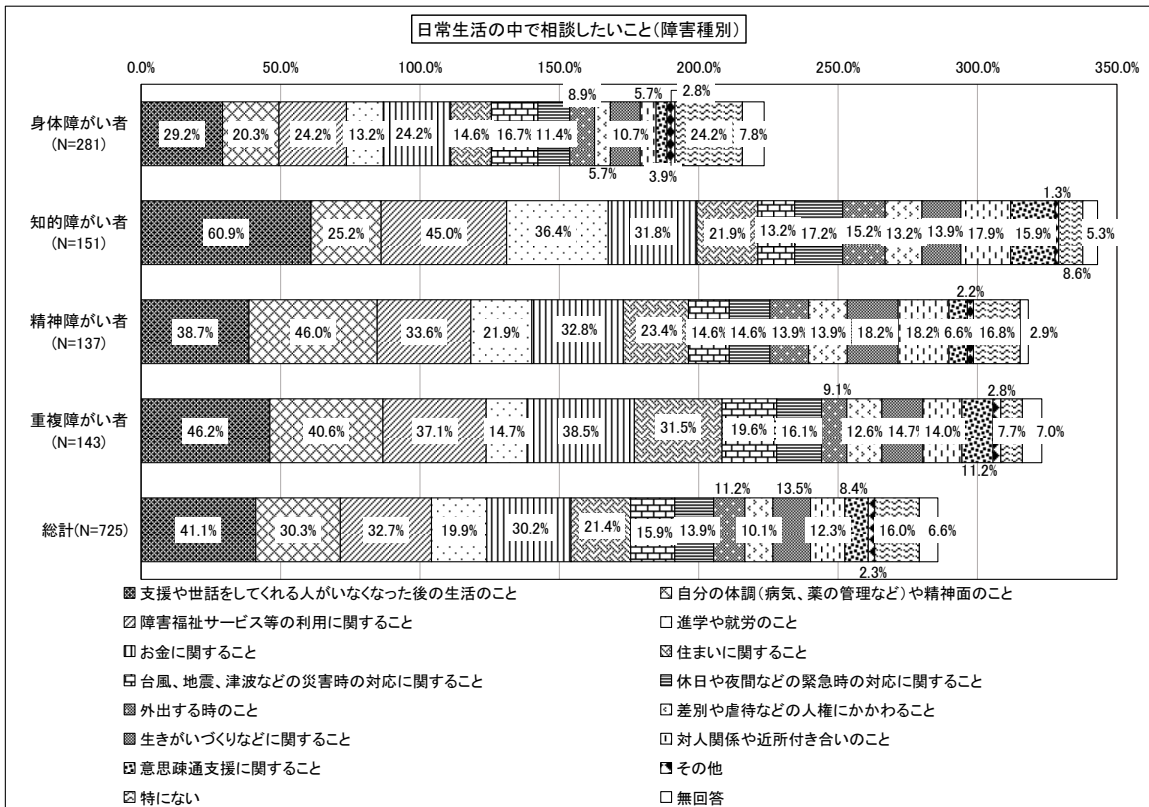


障害種別でみると、身体、知的、重複障がい者では「支援や世話をしてくれる人がなくなった後の生活のこと」(身体 29.2%、知的 60.9%、重複 46.2%)、精神障がい者では「自分の体調(病気、薬の管理など)や精神面のこと」が 46.0%で最も多くなっています。

日常生活の中で相談したいこと(障害種別)

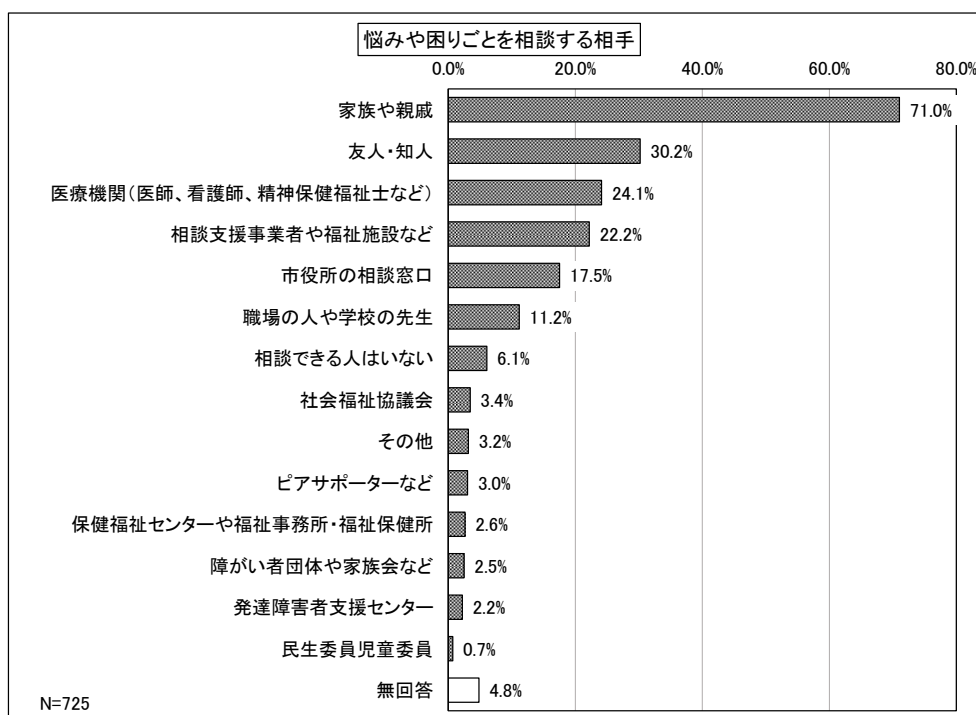
	支援や世話をしてくれる人がなくなった後の生活のこと	自分の体調(病気、薬の管理など)や精神面のこと	障害福祉サービス等の利用に関すること	進学や就労のこと	お金に関すること	住まいに関すること	台風、地震、津波などの災害時の対応に関すること	休日や夜間などの緊急時の対応に関すること
身体障がい者(N=281)	29.2%	20.3%	24.2%	13.2%	24.2%	14.6%	16.7%	11.4%
知的障がい者(N=151)	60.9%	25.2%	45.0%	36.4%	31.8%	21.9%	13.2%	17.2%
精神障がい者(N=137)	38.7%	46.0%	33.6%	21.9%	32.8%	23.4%	14.6%	14.6%
重複障がい者(N=143)	46.2%	40.6%	37.1%	14.7%	38.5%	31.5%	19.6%	16.1%
総計(N=725)	41.1%	30.3%	32.7%	19.9%	30.2%	21.4%	15.9%	13.9%

	外出する時のこと	差別や虐待などの人権にかかわること	生きがいづくりなどに関すること	対人関係や近所付き合いのこと	意思疎通支援に関すること	その他	特にない	無回答
身体障がい者(N=281)	8.9%	5.7%	10.7%	5.7%	3.9%	2.8%	24.2%	7.8%
知的障がい者(N=151)	15.2%	13.2%	13.9%	17.9%	15.9%	1.3%	8.6%	5.3%
精神障がい者(N=137)	13.9%	13.9%	18.2%	18.2%	6.6%	2.2%	16.8%	2.9%
重複障がい者(N=143)	9.1%	12.6%	14.7%	14.0%	11.2%	2.8%	7.7%	7.0%
総計(N=725)	11.2%	10.1%	13.5%	12.3%	8.4%	2.3%	16.0%	6.6%



質問 23 悩みや困りごとを相談する相手は、主に誰（どこ）か

悩みや困りごとを相談する相手については、「家族や親戚」が 71.0%で突出して多く、次いで「友人・知人」30.2%、「医療機関（医師、看護師、精神保健福祉士など）」24.1%、「相談支援事業者や福祉施設など」22.2%、「市役所の相談窓口」17.5%、「職場の人や学校の先生」11.2%、「相談できる人はいない」6.1%、「社会福祉協議会」3.4%、「その他」3.2%、「ピアサポーターなど」3.0%、「保健福祉センターや福祉事務所・福祉保健所」2.6%、「障がい者団体や家族会など」2.5%、「発達障害者支援センター」2.2%、「民生委員児童委員」0.7%となっています。

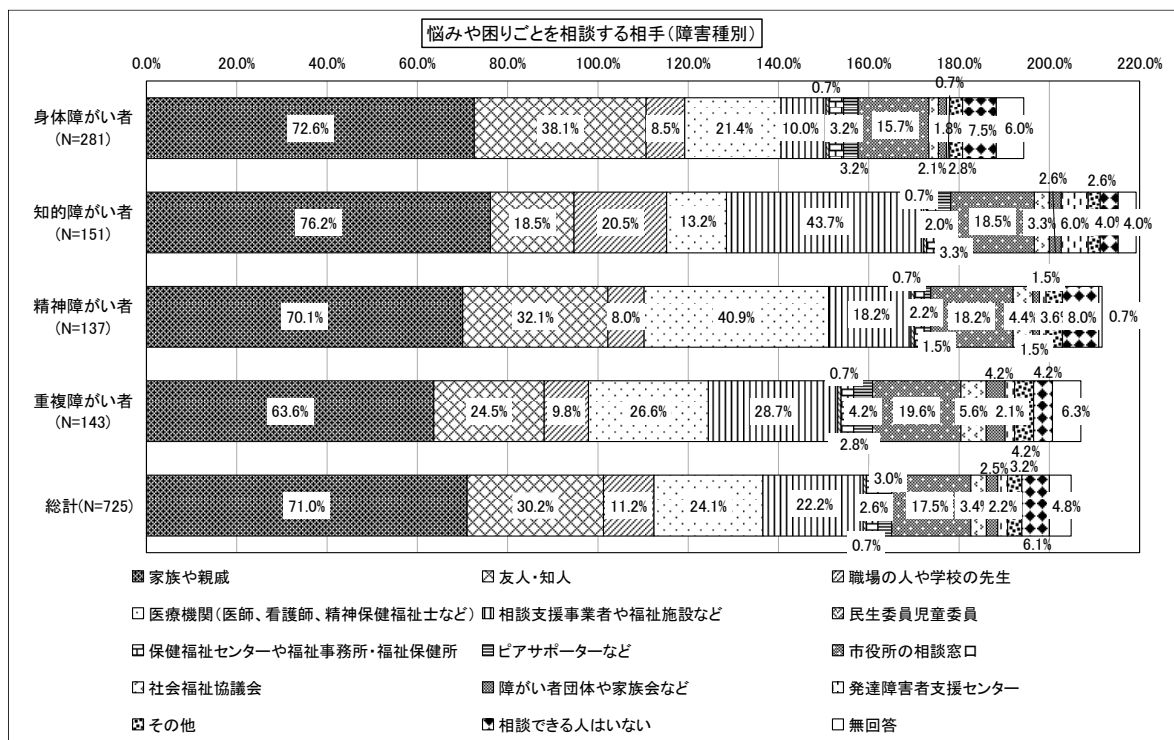


障害種別でみると、すべての障害種別において「家族や親戚」の割合が最も多く、身体障がい者で 72.6%、知的障がい者で 76.2%、精神障がい者で 70.1%、重複障がい者で 63.6%となっています。

悩みや困りごとを相談する相手(障害種別)

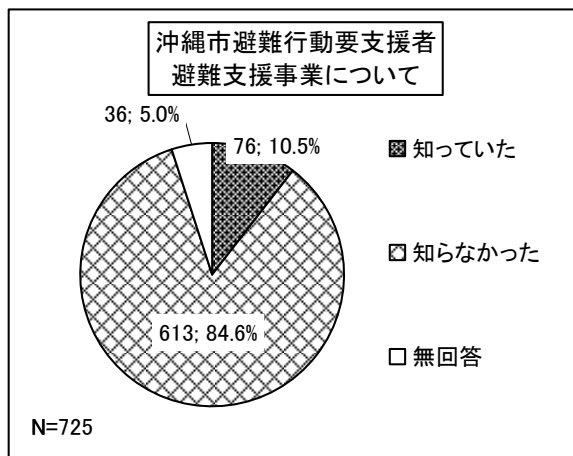
	家族や親戚	友人・知人	職場の人や学校の先生	医療機関(医師、看護師、精神保健福祉士など)	相談支援事業者や福祉施設など	民生委員児童委員	保健福祉センターや福祉事務所・福祉保健所	ピアサポーターなど
身体障がい者(N=281)	72.6%	38.1%	8.5%	21.4%	10.0%	0.7%	3.2%	3.2%
知的障がい者(N=151)	76.2%	18.5%	20.5%	13.2%	43.7%	0.7%	2.0%	3.3%
精神障がい者(N=137)	70.1%	32.1%	8.0%	40.9%	18.2%	0.7%	2.2%	1.5%
重複障がい者(N=143)	63.6%	24.5%	9.8%	26.6%	28.7%	0.7%	2.8%	4.2%
総計(N=725)	71.0%	30.2%	11.2%	24.1%	22.2%	0.7%	2.6%	3.0%

	市役所の相談窓口	社会福祉協議会	障がい者団体や家族会など	発達障害者支援センター	その他	相談できる人はいない	無回答
身体障がい者(N=281)	15.7%	2.1%	1.8%	0.7%	2.8%	7.5%	6.0%
知的障がい者(N=151)	18.5%	3.3%	2.6%	6.0%	2.6%	4.0%	4.0%
精神障がい者(N=137)	18.2%	4.4%	1.5%	1.5%	3.6%	8.0%	0.7%
重複障がい者(N=143)	19.6%	5.6%	4.2%	2.1%	4.2%	4.2%	6.3%
総計(N=725)	17.5%	3.4%	2.5%	2.2%	3.2%	6.1%	4.8%

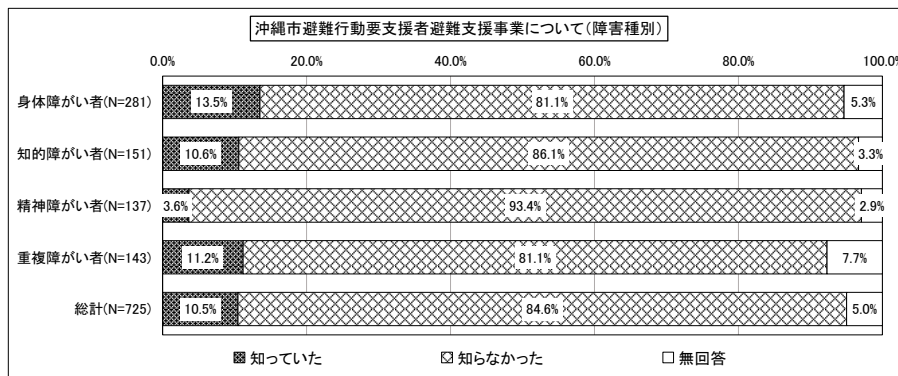


質問 24 沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度

沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度については、「知らなかった」84.6%、「知っていた」10.5%で、「知らなかった」が多くなっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「知らなかった」の割合が多く、身体障がい者で81.1%、知的障がい者で86.1%、精神障がい者で93.4%、重複障がい者で81.1%となっています。「知っていた」については、精神障がい者の13.5%が最も多くなっています。



〈前回調査との比較〉

沖縄市避難行動要支援者避難支援事業について「知っていた」と回答した方を前回調査と比較すると、身体障がい者では1.0ポイント増加しており、知的障がい者では2.6ポイント、精神障がい者では2.7ポイント減少しています。

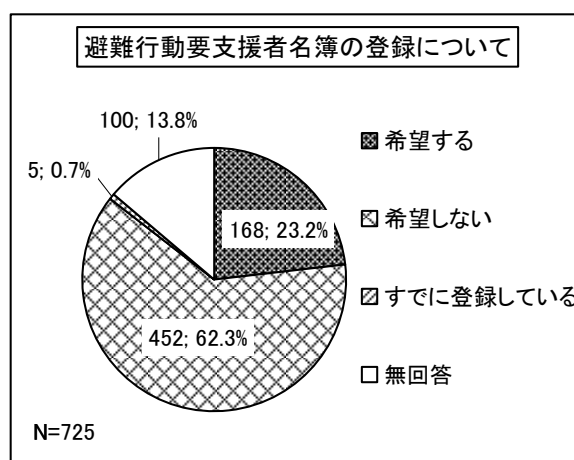
沖縄市避難行動要支援者避難支援事業について
「知っていた」

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
身体障がい者	12.5%	13.5%	1.0
知的障がい者	13.2%	10.6%	-2.6
精神障がい者	6.3%	3.6%	-2.7

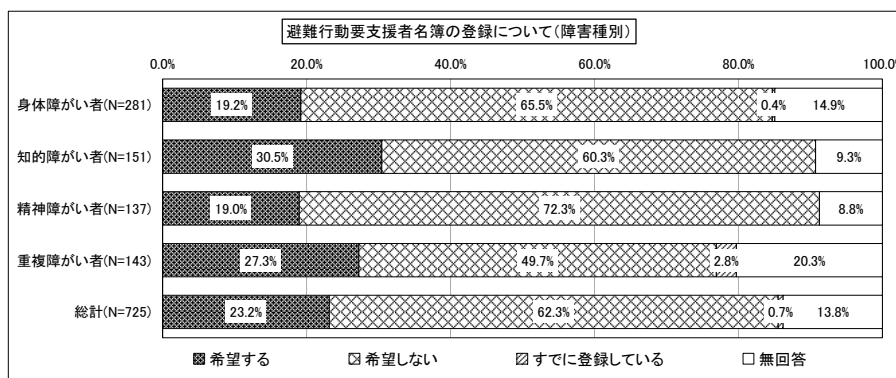
※平成29年度より「災害時要援護者避難支援事業」から「避難行動要支援者避難支援事業」に変更

質問 25 避難行動要支援者名簿への登録を希望するか

避難行動要支援者名簿への登録を希望するかについては、「希望しない」62.3%、「希望する」23.2%、「すでに登録している」0.7%で、「希望しない」が多くなっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「希望しない」が最も多くなっています。「希望する」については、知的障がい者の30.5%が最も多く、次いで重複障がい者の27.3%、身体障がい者の19.2%、精神障がい者の19.0%となっています。



〈前回調査との比較〉

避難行動要支援者名簿について「希望する」と回答した方を前回調査と比較すると、身体障がい者では6.5ポイント、知的障がい者では0.6ポイント、精神障がい者では11.6ポイント減少しています。

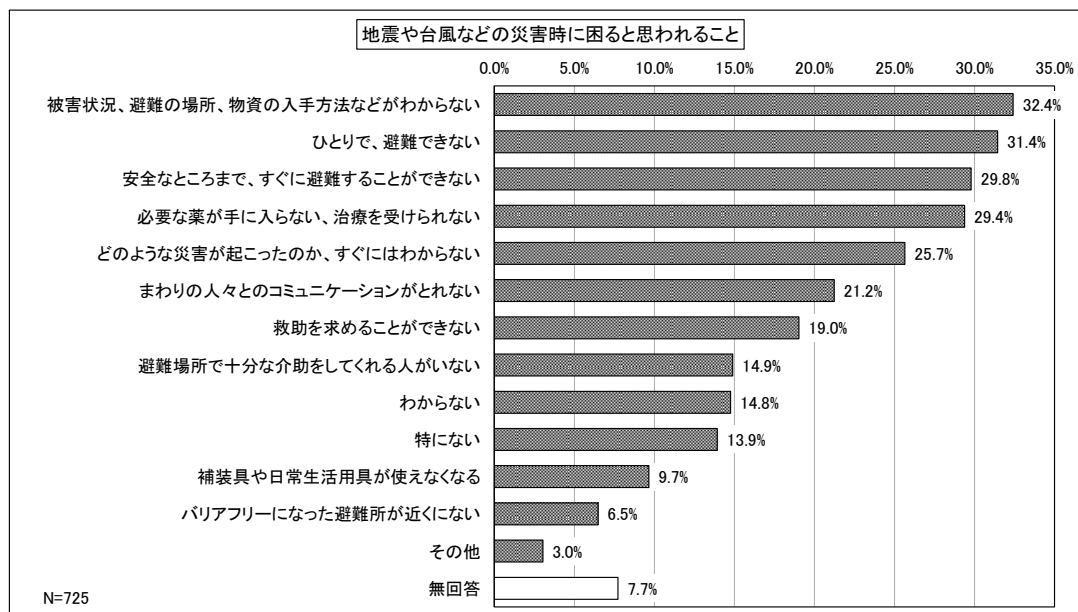
避難行動要支援者名簿の登録について 「希望する」

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
身体障がい者	25.7%	19.2%	-6.5
知的障がい者	31.1%	30.5%	-0.6
精神障がい者	30.6%	19.0%	-11.6

※平成29年度より「災害時要援護者名簿」から「避難行動要支援者名簿」に変更

質問 26 地震や台風などの災害時に困ると思われること

地震や台風などの災害時に困ると思われることについては、「被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない」が32.4%で最も多く、次いで「ひとりで、避難できない」31.4%、「安全なところまで、すぐに避難することができない」29.8%、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」29.4%、「どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない」25.7%、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれない」21.2%、「救助を求めることができない」19.0%、「避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない」14.9%、「わからない」14.8%、「特にない」13.9%、「補装具や日常生活用具が使えなくなる」9.7%、「バリアフリーになった避難所が近くにない」6.5%、「その他」3.0%となっています。

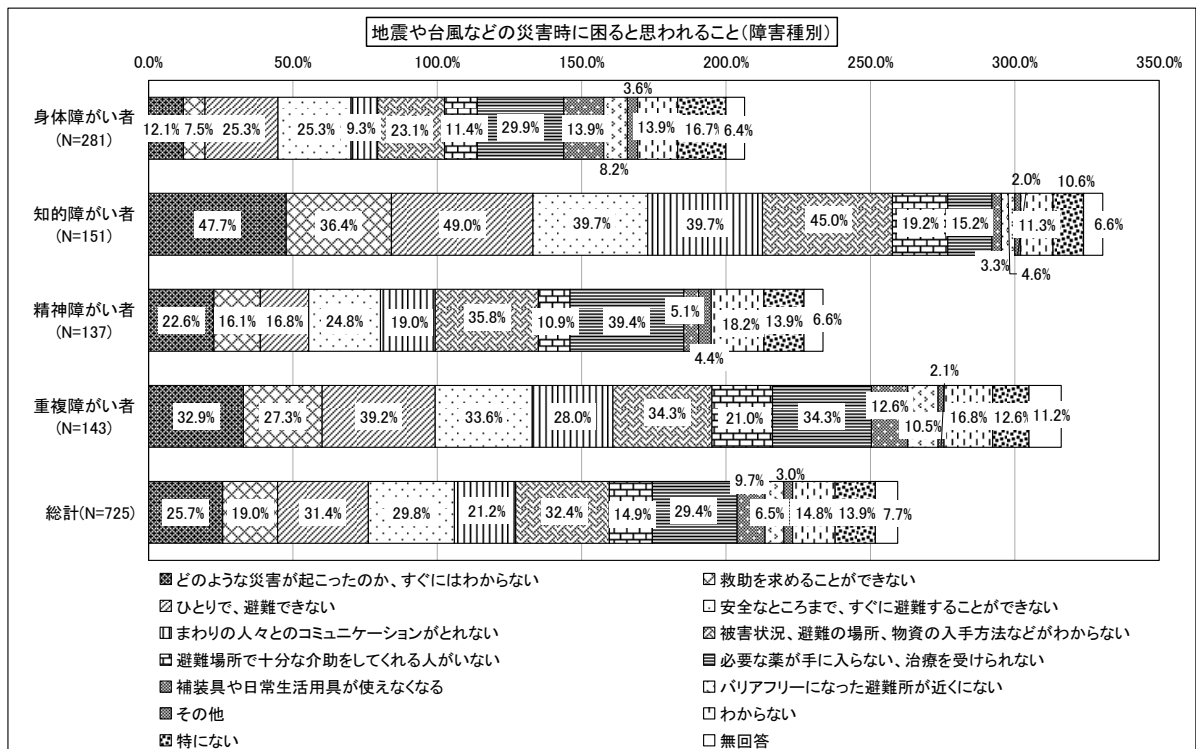


障害種別でみると、身体、精神障がい者では「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」（身体 29.9%、精神 39.4%）、知的、重複障がい者では「ひとりで、避難できない」（知的 49.0%、重複 39.2%）が最も多くなっています。

地震や台風などの災害時に困ると思われること(障害種別)

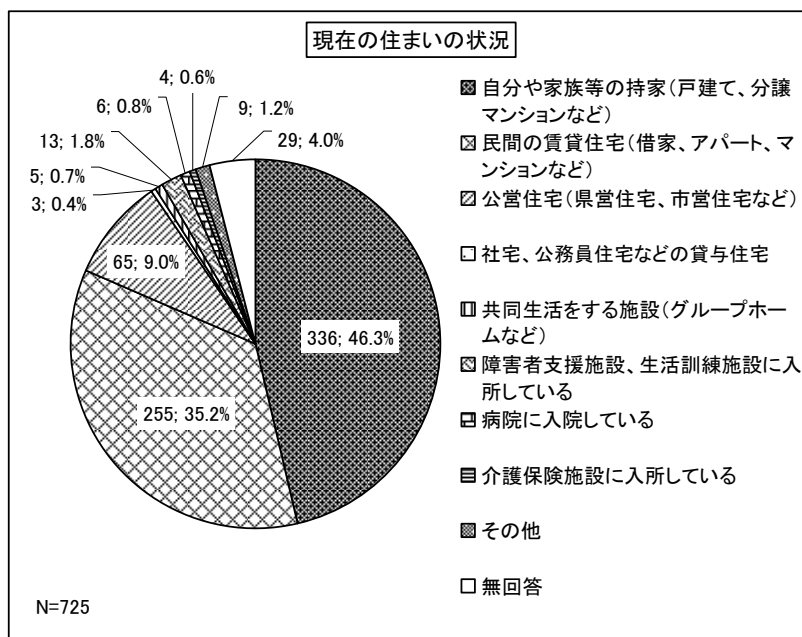
	どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない	救助を求めることができない	ひとりで、避難できない	安全なところまで、すぐに避難することができない	まわりの人々とのコミュニケーションがとれない	被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない	避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない
身体障がい者(N=281)	12.1%	7.5%	25.3%	25.3%	9.3%	23.1%	11.4%
知的障がい者(N=151)	47.7%	36.4%	49.0%	39.7%	39.7%	45.0%	19.2%
精神障がい者(N=137)	22.6%	16.1%	16.8%	24.8%	19.0%	35.8%	10.9%
重複障がい者(N=143)	32.9%	27.3%	39.2%	33.6%	28.0%	34.3%	21.0%
総計(N=725)	25.7%	19.0%	31.4%	29.8%	21.2%	32.4%	14.9%

	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	補装具や日常生活用具が使えなくなる	バリアフリーになった避難所が近くにない	その他	わからない	特になし	無回答
身体障がい者(N=281)	29.9%	13.9%	8.2%	3.6%	13.9%	16.7%	6.4%
知的障がい者(N=151)	15.2%	3.3%	4.6%	2.0%	11.3%	10.6%	6.6%
精神障がい者(N=137)	39.4%	5.1%	0.0%	4.4%	18.2%	13.9%	6.6%
重複障がい者(N=143)	34.3%	12.6%	10.5%	2.1%	16.8%	12.6%	11.2%
総計(N=725)	29.4%	9.7%	6.5%	3.0%	14.8%	13.9%	7.7%

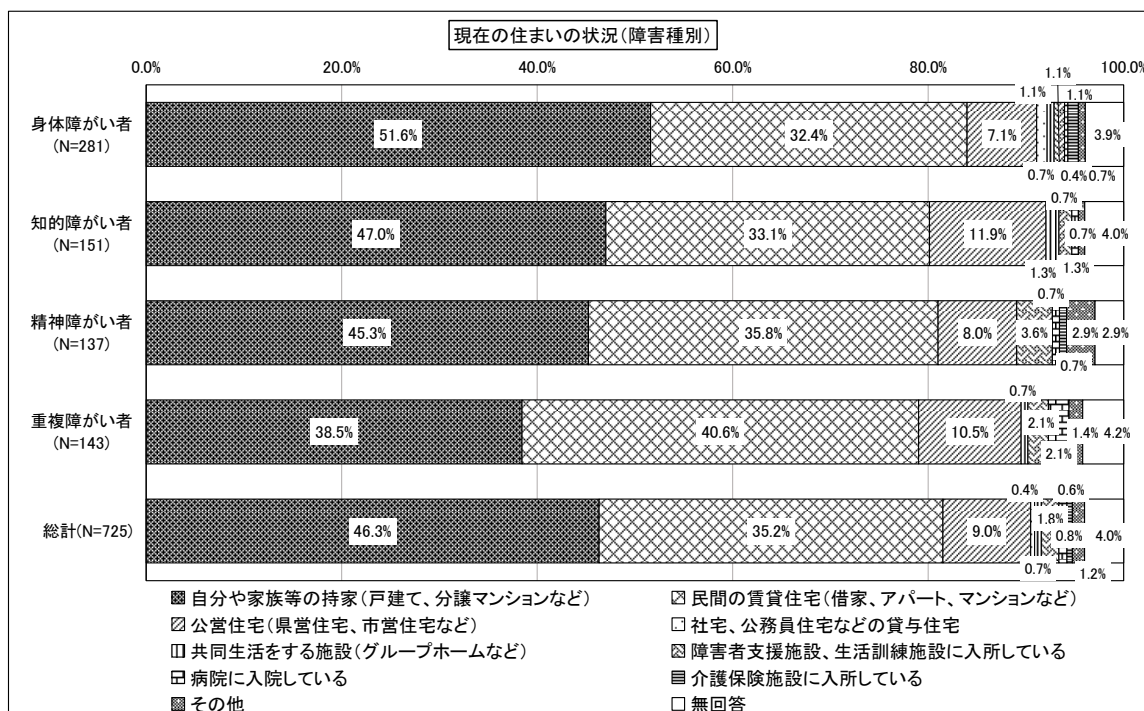


質問 27 現在の住まいの状況

現在の住まいの状況については、「自分や家族等の持家(戸建て、分譲マンションなど)」が46.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅(借家、アパート、マンションなど)」35.2%、「公営住宅(県営住宅、市営住宅など)」9.0%となっており、この3項目で9割を占めています。

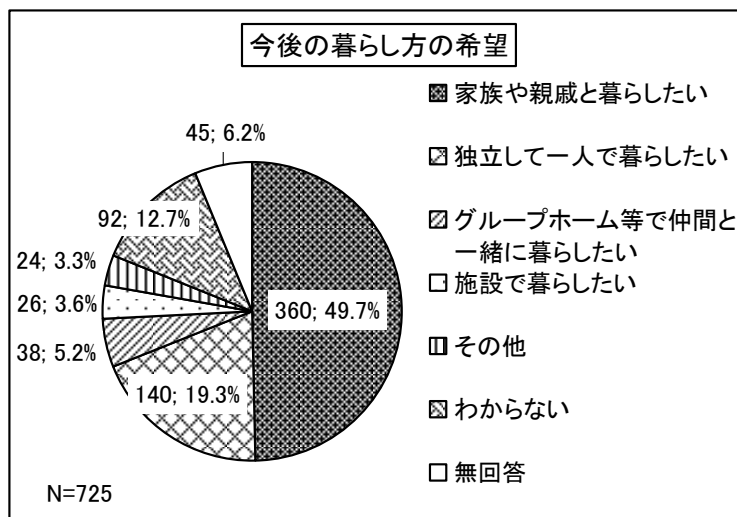


障害種別でも、すべての障害種別において「自分や家族等の持家(戸建て、分譲マンションなど)」、「民間の賃貸住宅(借家、アパート、マンションなど)」、「公営住宅(県営住宅、市営住宅など)」の3項目の合計割合が約9割となっています。

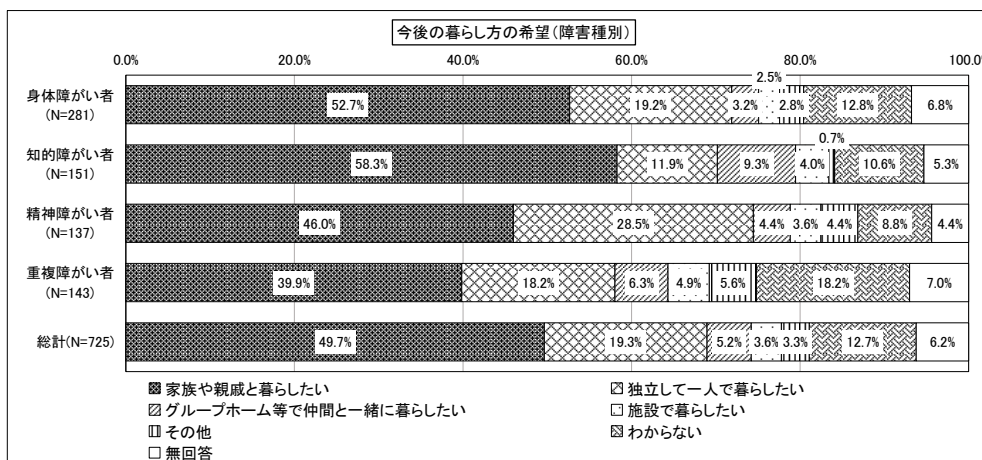


質問 28 今後の暮らし方の希望

今後、どのように暮らしたいかについては、「家族や親戚と暮らしたい」が49.7%で最も多く、次いで「独立して一人で暮らしたい」19.3%、「わからない」12.7%、「グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい」5.2%、「施設で暮らしたい」3.6%、「その他」3.3%となっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「家族や親戚と暮らしたい」が最も多く、身体障がい者で52.7%、知的障がい者で58.3%、精神障がい者で46.0%、重複障がい者で39.9%となっています。



〈前回調査との比較〉

今後の暮らし方の希望について前回調査と比較すると、「家族や親戚と暮らしたい」と「独立して一人で暮らしたい」は、すべての障害種別において増加しており、とくに精神障がい者の「家族や親戚と暮らしたい」は11.3ポイント増加しています。

一方で、「グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい」については、すべての障害種別において減少しています。

今後の暮らし方の希望(平成28年度)

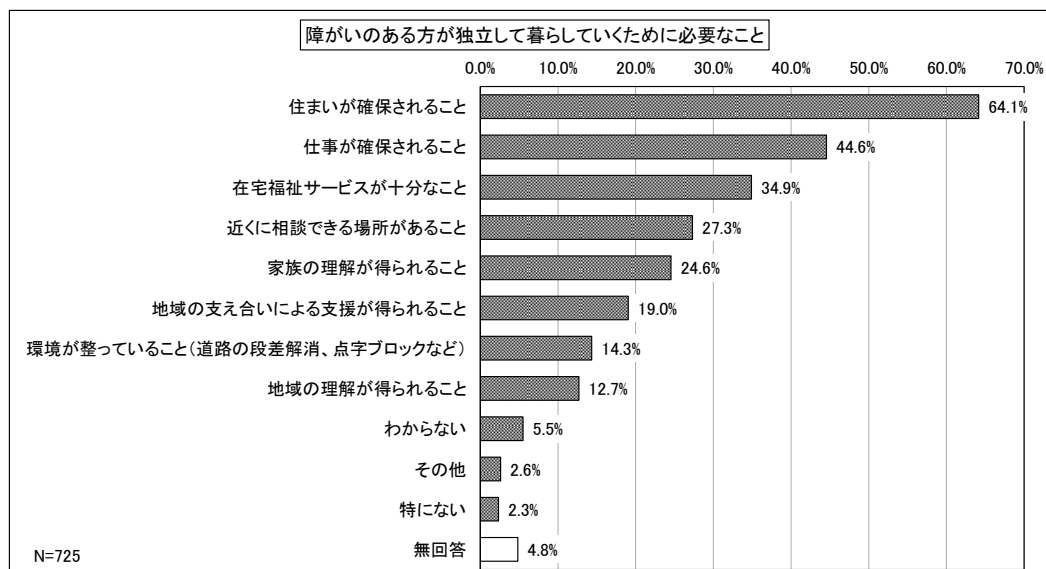
	家族や親戚と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい	施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
身体障がい者	47.9%	15.8%	3.4%	5.4%	2.2%	15.8%	9.5%
知的障がい者	52.7%	9.6%	12.0%	8.4%	1.8%	9.6%	6.0%
精神障がい者	34.7%	23.4%	5.9%	1.8%	6.3%	18.9%	9.0%

今後の暮らし方の希望(令和元年度)

	家族や親戚と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい	施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
身体障がい者	52.7%	19.2%	3.2%	2.5%	2.8%	12.8%	6.8%
知的障がい者	58.3%	11.9%	9.3%	4.0%	0.7%	10.6%	5.3%
精神障がい者	46.0%	28.5%	4.4%	3.6%	4.4%	8.8%	4.4%

質問 29 障がいのある方が独立して暮らしていくために必要なこと

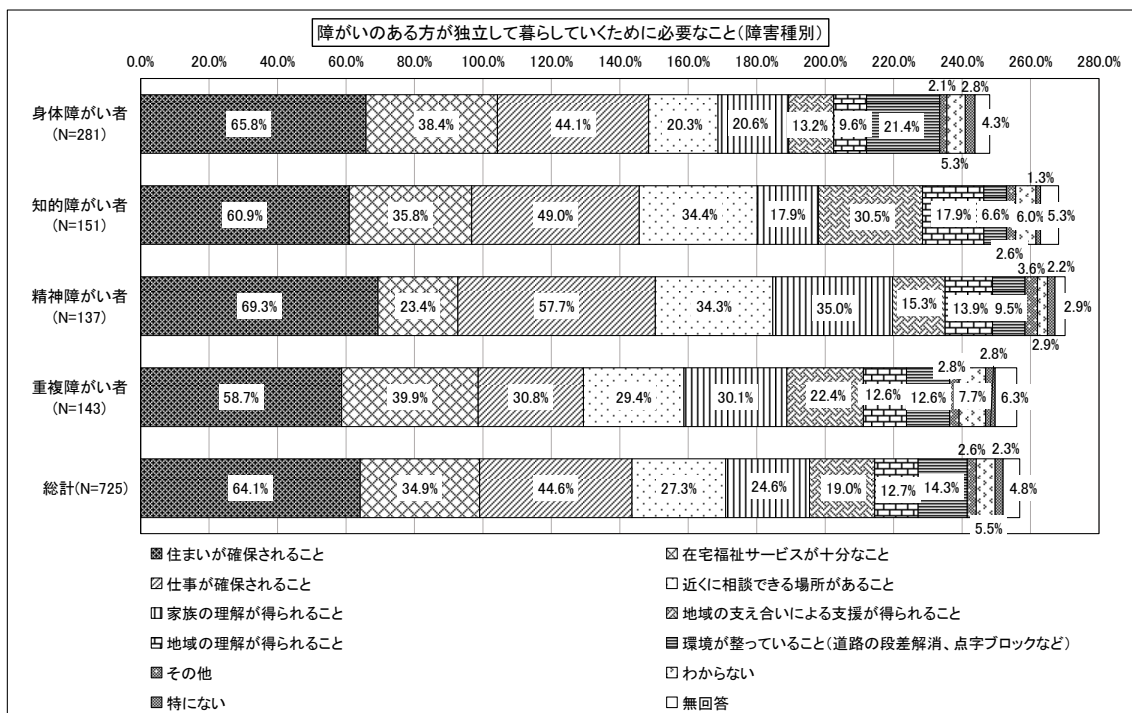
障がいのある方が独立して暮らしていくために必要なことについては、「住まいが確保されること」が64.1%で最も多く、次いで「仕事が確保されること」44.6%、「在宅福祉サービスが十分なこと」34.9%、「近くに相談できる場所があること」27.3%、「家族の理解が得られること」24.6%、「地域の支え合いによる支援が得られること」19.0%、「環境が整っていること(道路の段差解消、点字ブロックなど)」14.3%、「地域の理解が得られること」12.7%、「わからない」5.5%、「その他」2.6%、「特にない」2.3%となっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「住まいが確保されていること」が最も多く、身体障がい者で65.8%、知的障がい者で60.9%、精神障がい者で69.3%、重複障がい者で58.7%となっています。また、精神障がい者では「仕事が確保されること」の割合も57.7%で高くなっています。

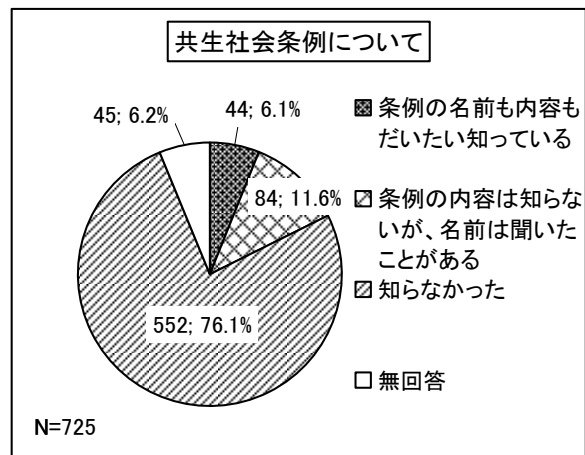
障がいのある方が独立して暮らしていくために必要なこと(障害種別)

	住まいが確保されること	在宅福祉サービスが十分なこと	仕事が確保されること	近くに相談できる場所があること	家族の理解が得られること	地域の支え合いによる支援が得られること	地域の理解が得られること	環境が整っていること(道路の段差解消、点字ブロックなど)	その他	わからない	特になし	無回答
身体障がい者(N=281)	65.8%	38.4%	44.1%	20.3%	20.6%	13.2%	9.6%	21.4%	2.1%	5.3%	2.8%	4.3%
知的障がい者(N=151)	60.9%	35.8%	49.0%	34.4%	17.9%	30.5%	17.9%	6.6%	2.6%	6.0%	1.3%	5.3%
精神障がい者(N=137)	69.3%	23.4%	57.7%	34.3%	35.0%	15.3%	13.9%	9.5%	3.6%	2.9%	2.2%	2.9%
重複障がい者(N=143)	58.7%	39.9%	30.8%	29.4%	30.1%	22.4%	12.6%	12.6%	2.8%	7.7%	2.8%	6.3%
総計(N=725)	64.1%	34.9%	44.6%	27.3%	24.6%	19.0%	12.7%	14.3%	2.6%	5.5%	2.3%	4.8%

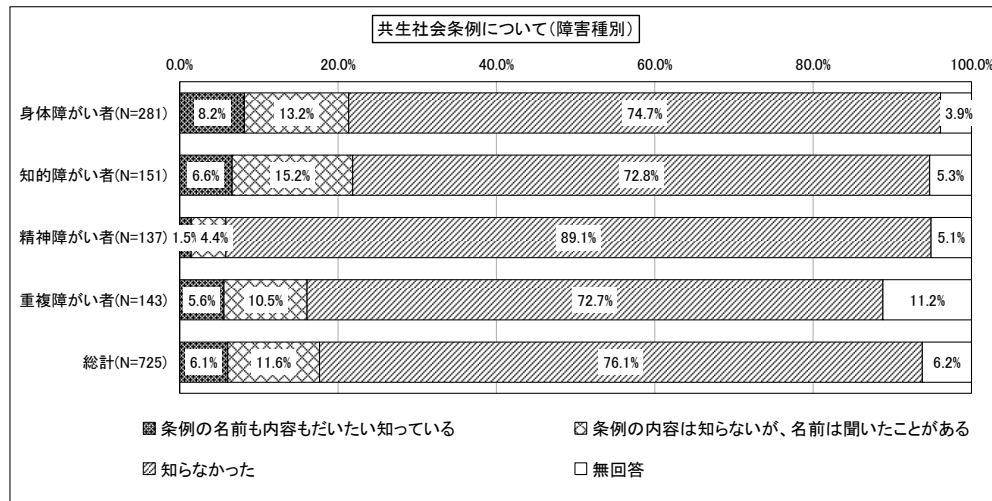


質問 30 共生社会条例の認知度

共生社会条例の認知度については、「知らなかった」が76.1%、「条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある」11.6%、「条例の名前も内容もだいたい知っている」6.1%で、「知らなかった」が多くなっています。



障害種別でみると、すべての障害種別において「知らなかった」の割合が多く、身体障がい者で74.7%、知的障がい者で72.8%、精神障がい者で89.1%、重複障がい者で72.7%となっています。「条例の名前も内容もだいたい知っている」については、すべての障害種別において1割未満となっています。



〈前回調査との比較〉

共生社会条例について前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、すべての障害種別において「知らなかった」が最も多くなっています。

共生社会条例について(平成28年度)

	条例の名前も内容もだいたい知っている	条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある	知らなかった	無回答
身体障がい者	7.1%	13.0%	74.9%	5.0%
知的障がい者	7.8%	13.8%	74.9%	3.6%
精神障がい者	2.7%	9.5%	84.2%	3.6%

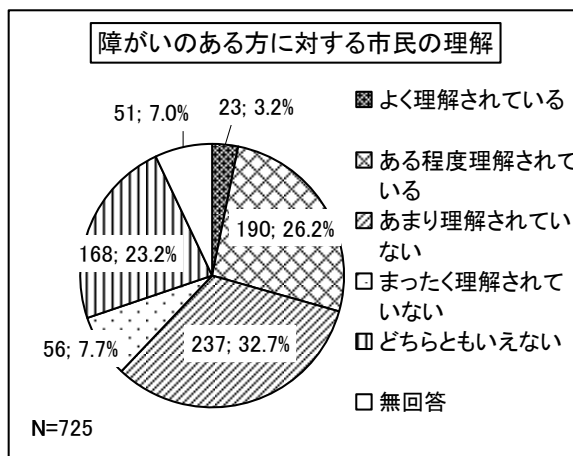
共生社会条例について(令和元年度)

	条例の名前も内容もだいたい知っている	条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある	知らなかった	無回答
身体障がい者	8.2%	13.2%	74.7%	3.9%
知的障がい者	6.6%	15.2%	72.8%	5.3%
精神障がい者	1.5%	4.4%	89.1%	5.1%

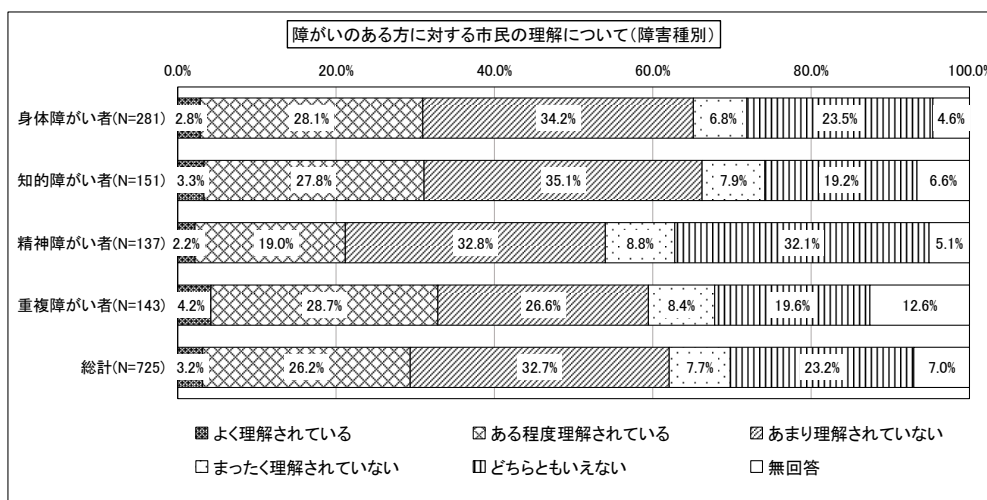
質問 31 障がいのある方に対する市民の理解について

障がいのある方に対する市民の理解についてどう感じるかをみると、「あまり理解されていない」が32.7%で最も多く、次いで「ある程度理解されている」26.2%、「どちらともいえない」23.2%、「まったく理解されていない」7.7%、「よく理解されている」3.2%となっています。

また、「よく理解されている」と「ある程度理解されている」の合計割合は29.4%、「あまり理解されていない」と「まったく理解されていない」の合計割合は40.4%となっており、理解されていないとする割合が11ポイント上回っています。



障害種別でみると、「よく理解されている」と「ある程度理解されている」の合計割合は身体障がい者で30.9%、知的障がい者で31.1%、重複障がい者で32.9%となっており、精神障がい者では21.2%と他の障害種別に比べ低くなっています。



<前回調査との比較>

障がいのある方に対する市民の理解について「よく理解されている」と「ある程度理解されている」の合計割合を前回調査と比較すると、身体障がい者では変化がなく、知的障がい者では1.8ポイント、精神障がい者では3.6ポイント減少しています。

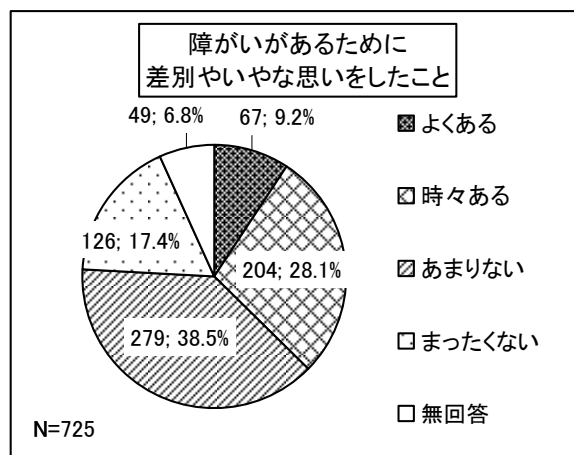
障がいのある方に対する市民の理解 「よく理解されている」+「ある程度理解されている」

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
身体障がい者	30.9%	30.9%	0.0
知的障がい者	32.9%	31.1%	-1.8
精神障がい者	24.8%	21.2%	-3.6

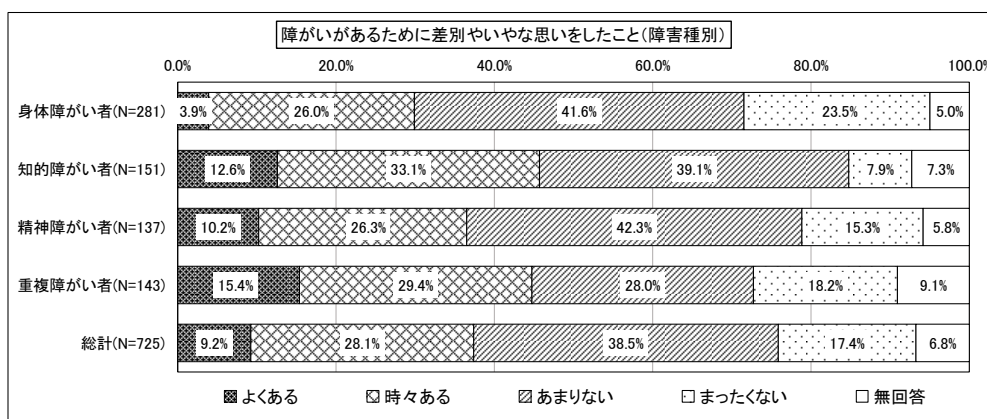
質問 32 障がいがあるために、差別やいやな思いをしたことがあるか

障がいがあるために、差別やいやな思いをしたことについては、「あまりない」が 38.5%で最も多く、次いで「時々ある」28.1%、「まったくない」17.4%、「よくある」9.2%となっています。

また、「よくある」と「時々ある」の合計割合は 37.3%、「あまりない」と「まったくない」の合計割合は 55.9%となっており、ないとする割合が 18.6ポイント上回っています。



障害種別でみると、「よくある」と「時々ある」の合計割合は、知的障がい者が 45.7%で最も多く、次いで重複障がい者 44.8%、精神障がい者 36.5%、身体障がい者 29.9%となっています。



<前回調査との比較>

障がいがあるために差別やいやな思いをしたことについて「よくある」と「時々ある」の合計割合を前回調査と比較すると、身体障がい者では 0.6ポイント、精神障がい者では 4.9ポイント減少しており、知的障がい者では 4.4ポイント増加しています。

障がいがあるために差別やいやな思いをしたこと
「よくある」+「時々ある」

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
身体障がい者	30.5%	29.9%	-0.6
知的障がい者	41.3%	45.7%	4.4
精神障がい者	41.4%	36.5%	-4.9

【質問 32 で「よくある」、「時々ある」と回答した方にお聞きします】

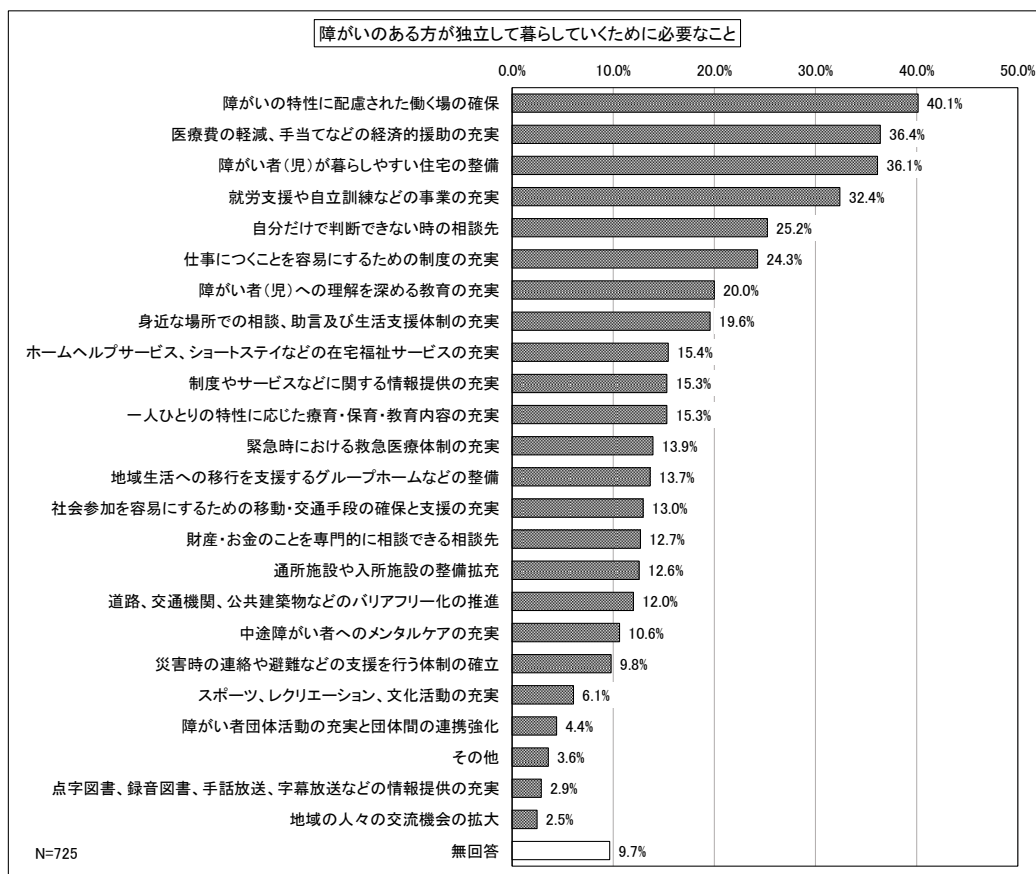
質問 33 どういった差別などを受けたか

差別を受けた場面	主な意見	延べ件数
地域生活	<p>偏見の目で見られる。 急に大きな声を出したりするので周りの方が驚いてこちらを見たりする。 本人の言っていることが理解されない。 自分との関わりを避けようと、距離を置くしぐさや（無視）などをされたり。 あの人は薬を飲んでいるから会話がおかしい、頭がおかしいなど。 いろいろあり障がいを隠してしまう癖がついている。体力的にきつい時でも動いたりしてきつい。 健常者との会話の時にたまに馬鹿じゃない、そんなことも知らないのと言われて、本人が困っている時がある。周りが理解して、本人が解るように細かく説明が必要になるので、周りが面倒臭くなることもしばしば。 日々元気な時と波があり、落ち込むときの差が激しく理解されにくいために変な目で見られる。 特に中学生男子はくすくす笑っているものがある。 見た目は身障者に見えないため、話すことがあまりうまくないため、馬鹿にされる時がある。 聞こえないのに、「聞いている？」と言われてしまう。</p>	94 件
就職、職場	<p>職場の同僚からできる仕事まで外されたり、病院で参加できない日に話し合い等の会議や行事を入れられ、分かりにくい差別を受けることがあります。 以前働いていた職場の経営者から、甘えていると言われた。疾患の理解を得られず苦しかった。10 年働いていましたが、辞めました。 職場などで障害を理解できず病は気からと言われる！ 就職活動の時障がいワークで登録されている求人に病気持ちの人が仕事できるかと言われた（38 歳のとき）。 障がいがあることで不採用になった。 障がい者枠で仕事したが、社員にはしない、仲間ではないと言われた。暴言、恫喝、無視。人間扱いされない。 事業所内で障がいの違いで差別を受けた（精神障がい者からは身体はいい方がいいと言われた、逆を聞いたこともある）全体的に障がい者同士で差別がある（一部職員にも差別がある）。</p>	27 件
学校	<p>中学校に通っていますが、席を離して座る。友達がいなくて学校に行きたくない。これから高校もいかないといけなくとも関わらず、受け入れてくれる学校がない。障害者の受け入れをしてくれる学校が増えてほしい。 学校の友達からお前障がい者だから「だまれ！」と言われた。さすが「障がい者」と言われた。 学生時代の時に仲良くしていた友達に裏切られ、クラスメイト、同級生から差別、いじめを受けていました。職場でも差別、いじめを受けていました。 学生の時に、真似されたり。 子供同士だが、リレーなど共同作業などで「お前のせいで」「お前がいるから」など言われてるらしい。</p>	21 件

買物、飲食店等	<p>買い物や食事をしている時など、「障害者だよ、離れて」とか、変な顔で見られたり。</p> <p>コンビニや本屋などで万引きされると思われるのかマークされる。じろじろと悪い人、犯罪者かのように見られる。レジで支払いのときに小銭を払おうとすると、嫌な顔をされた。</p> <p>知的は外見では理解が難しく、外出先でのトイレや食事でマナーが悪いと差別的な目で見られる。</p>	10件
駐車場	<p>外見で分からないため、障がい駐車場に車を停めたとき、嫌みを言われたり、どこが悪いのかと言われてたりする。市役所の駐車場係まで態度が悪かった。</p> <p>障がい者と気づいてもらえなく、駐車場などで怒鳴られたり、嫌な目でみられたりする。</p> <p>健常者が障がい者駐車場によく車を停めている。</p>	9件
福祉・医療	<p>初めて受診する医療機関などで過去の病歴を書いたり問診に答える時の視線などが気になり、気が重くなる。差別とまでは言えないかもしれませんが、もう少し配慮してほしいと思う事が多々ある。</p> <p>病院で、名前を呼ばれても分からない。説明不足。どこに行ってもそう。</p> <p>内科の医者が旦那も一緒に居て、糖尿病の初期治療の件、私本人の思いをいったが聞き入れられず、旦那に向かって一方的に治療の説明をしている時に感じた。インシュリンを打ちたい医者に対して私は薬と運動を希望しているのに無視、嫌で他の内科の病院に行き、そこの医者は私が思っている通りで良いとなった。</p>	8件
公共交通機関	<p>タクシーの際、割引きかなかった。</p> <p>タクシーに乗った時、わざと遠回りされた。</p> <p>沖縄市循環バスで療育手帳を提示して利用すると、運転手やほかの乗客から距離を置くような態度をとられたり、視線などが気になることがある。</p>	5件
家庭	<p>家での生活が少し嫌な思いをします。</p> <p>言葉による差別（兄弟より）。</p>	4件
相談窓口	<p>障がいがあると思われたい。相談支援専門員の方に悩み相談をしても伝わらない。うまく説明できない。軽く聞き流されてしまう。</p> <p>障がい者へ対応するはずの相談機関の方々の差別や理解のなさ、無言の暴力や八つ当たりの暴言、言葉のいい方だとか、立場を上から目線で言い、わかろうとしない姿勢。他多々。</p>	3件
その他	<p>いろいろあって何から言ってもいいかわからない。</p> <p>仕事に就いてないと、風あたりが厳しい。</p> <p>人が出来るのに何でできないのかとか。かといって手を貸してくれることはない。年齢に関係あるのでしょうか。他細かい作業等の事人とのコミュニケーションがうまくいかない時があり、一人で悩んでいる事が多いです。</p> <p>いじめられたら嫌な気持ちになるからよくある。いじめないようにしようと努力しています。考えてよくそばにしようとしている。</p> <p>歩くスピードが遅いので周りの人と移動時に気になる。</p> <p>アパートを探している時に家族構成を聞かれ、障がいがあることを伝えると不動産の人に「障害のある人は大家が嫌がる人が多い」等言われ、窓口への案内（契約）を遠回しに断られたことがある。</p>	22件

質問 34 障がい者（児）の施策の充実のために、沖縄県や沖縄市に要望すること

障がい者（児）への施策をより充実させていくために、沖縄県や沖縄市に対して要望することについては、「障がいの特性に配慮された働く場の確保」40.1%、「医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実」36.4%、「障がい者（児）が暮らしやすい住宅の整備」36.1%、「就労支援や自立訓練などの事業の充実」32.4%の4項目が3割を超えています。



障害種別でみると、身体、精神障がい者では「障がいの特性に配慮された働く場の確保」が39.1%（身体障がい者では「医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実」も同率）、知的障がい者では「就労支援や自立訓練などの事業の充実」が46.4%、重複障がい者では「障がい者（児）が暮らしやすい住宅の整備」が39.2%で第1位となっています。

また、「就労支援や自立訓練などの事業の充実」、「障がいの特性に配慮された働く場の確保」、「医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実」については、すべての障害種別において第5位以内に入っており、要望が高い項目としてあがっています。

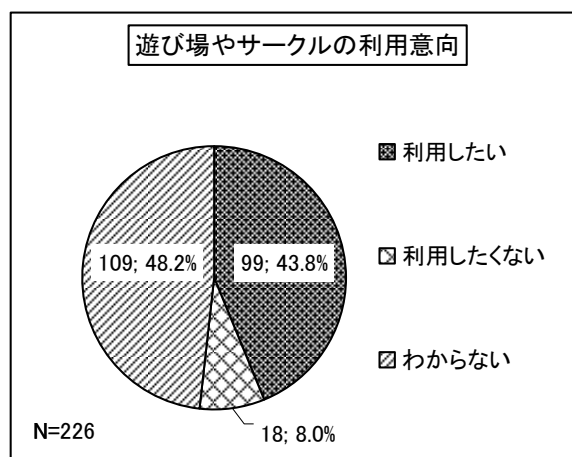
障がいのある方が独立して暮らしていくために必要なこと上位5位表(障害種別)

	身体障がい者(N=281)	知的障がい者(N=151)	精神障がい者(N=137)	重複障がい者(N=143)
第1位	障がいの特性に配慮された働く場の確保	就労支援や自立訓練などの事業の充実 46.4%	障がいの特性に配慮された働く場の確保 45.3%	障がい者(児)が暮らしやすい住宅の整備 39.2%
第2位	医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実 39.1%(同率)	障がいの特性に配慮された働く場の確保 45.7%	自分だけで判断できない時の相談先 40.9%	医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実 37.1%
第3位	障がい者(児)が暮らしやすい住宅の整備 37.0%	障がい者(児)が暮らしやすい住宅の整備 31.8%	医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実 40.1%	就労支援や自立訓練などの事業の充実 33.6%
第4位	就労支援や自立訓練などの事業の充実 23.5%	一人ひとりの特性に応じた療育・保育・教育内容の充実 30.5%	仕事につくことを容易にするための制度の充実 36.5%	障がいの特性に配慮された働く場の確保 32.2%
第5位	仕事につくことを容易にするための制度の充実 23.1%	医療費の軽減、手当てなどの経済的援助の充実 29.1%	就労支援や自立訓練などの事業の充実 35.8%	自分だけで判断できない時の相談先 25.9%

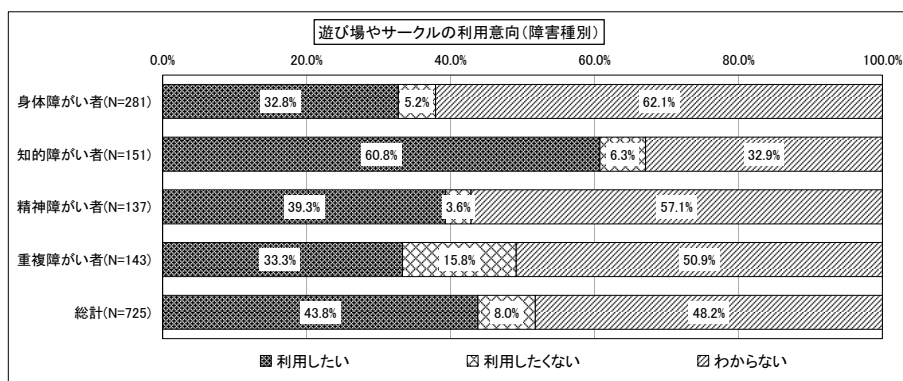
【18歳未満の方およびその保護者の方にお聞きします】

質問 35 障がいのある子もいない子も利用できる遊び場やサークルがあれば利用したいか

地域の中に、障がいのある子もいない子も利用できる遊び場（公園や屋内施設等）やサークルがあった場合の利用意向については、「わからない」48.2%、「利用したい」43.8%、「利用したくない」8.0%で、「わからない」が多くなっています。



障害種別でみると、知的障がい者の60.8%の方が「利用したい」と回答しており、他の障害種別に比べ20ポイント以上高くなっています。また、「利用したくない」については身体、知的、精神障がい者が1割未満となっている一方で、重複障がい者では15.8%となっています。



→具体的な要望

1	ふれあいを大切にしたい為
2	年齢に応じたサークル、遊び等を考慮して頂きたいです。
3	車イスでも遊べる遊具など
4	学童クラブ、放課後デイサービスと分けるのではなく、一緒に活動できたら良いのになと思います。障がいのある子は習い事もなかなか受け入れさせてもらえないので、チャンスが広がるのではないかと。
5	卓球・最近テレビでやっていたテニスに似ていた。ボールがやわらかくていい運動になる
6	鉄棒や跳び箱など、踏み台や安全面に配慮されたものがあれば体育の練習になる。体育指導員みたいな方がいるような遊び場があれば遊びながら苦手な体育が練習できそう(なわとび、鉄棒、跳び箱など)
7	屋根のある遊ぶ所
8	うちの子はコミュニケーションが苦手なので、出来るだけサークルや公園で遊ばせたいですね。
9	今の生活はゲームばかり、子供たちの居場所がない気がします。
10	聴覚障がい者のバレーチームを作ってほしい
11	他人から干渉される事がイヤそうです。その子の成長過程を大事に見守りたいと考えています。
12	定期的な開催を希望(サークルなど)
13	子供は可愛いし地域で育てるべき
14	スイミングスクール→必要です。知的の場合、教えてもらえる場所がない
15	障がいのある子、ない子が一緒に遊ぶのは危険なので、まずは障がいのある子、またはその兄弟児(兄弟児は障がい児を理解している事が多く、危険が少ない)が遊べ、交流できる場があればいいと思う。元気な子と障がい児と一緒に遊ぶと危険な場となり、行きづらい場となる。
16	現在17歳男、重度知的障害です。公園に行きたくても、小さい子がいていけません(体のサイズが違いすぎて、子供に怪我をさせてしまいそうで)。逆に大人が遊べるアスレチックが必要です。思いっきり体を動かしたら楽しいと思います(障がい者専用、18以上)。トランポリン、すべり台、ボールプールなどの屋内施設が希望です。健常者が見て「あーうらやましい施設だ」と思うようなもの、欲しいです。
17	まず障害がある子が安全に遊べる場所がないです。肢体不自由の子が遊べる施設もない。作れます? 作れるなら利用したいですが、ある子もない子と一緒に遊ぶことの配慮を中立な立場で責任もってかわられるスタッフがきちんといないと、親に丸投げは逆にしんどいです。
18	障がいのある子のサークルがあれば、少し興味があります。
19	バリアフリーの公園が少ない。
20	多目的トイレを増やしてほしい
21	陶芸、貼り絵、ストラップ作りとかいろいろ
22	そこに看護師や介助する人を設置してほしい。
23	本人が受け入れられるなら利用してもいいと思う。
24	結局は健常者優先、優位になり、弱い立場になるため。
25	学校の支援
26	子どもは利用したくないが、母は利用したい

自由意見

【福祉・医療サービス等 : 19 件】

1	もし1人になったら、公共のサービスを受けたい。できるだけ自分でやりたい。
2	障がい児は普通の病院での受診は待ち時間、場所見知り、人見知りでパニックを起こし、泣き叫び大声を出したりして周りの方に迷惑を掛けてしまい申し訳なくなり病院へ通うことが恐くなります。できれば障がい者(児)の病院があれば、保護者は安心して通うことができると思うんです。歯医者でも障がい受け入れがあっても通える自信がなく、ほとんどの子が南風原町にある高校保健医療センターに案内されるみたいですが沖縄市からは遠いので虫歯のまま困っている保護者は多いです。私は子供が常に叫ぶので病院の中に入ってずっと緊張して体の震えがあり、怖いです。安心して通える病院を作ってほしいと心から思います。
3	もっと専門家のグループで一人の障がい者に対し24時間の支援体制が進んでいけば助かります。現実には土日祝祭日等、夜間等に対する不安があります。もっと看護師、心理士、精神福祉士、社会福祉、etc、和が増えると良いかと思う。あまりにも医師の権利が集中しすぎるのでは? 「オープンダイアログ」を見て思いました。Youtube 参照。フィンランドにおける精神病院治療への代替アプローチ。
4	私は数十年前に癌を患い、大きな手術をして中途障害者になりました。通院や装具に対する医療費が大きく、働いた大半を使う事もあり、負担が大きい事で悩みます。もう少し医療費を助けてくれる制度や援助があれば、家族にも迷惑をかけなくてすむので気が楽になれるのかな? 人目を気にしないで、普通の生活が出来るように多くの人の理解や支援があれば助かります。
5	親亡き後、この子達がその後の人生を楽しく生きていけるように通所、入所施設の整備拡充! ショートステイなどの在宅福祉サービスの充実を切に願う!
6	I CD-10、F64でも精神科の自立支援医療対象にして欲しい。
7	障害を持つ人がしっかり自立して生活が営めるようにするには、支援を更に充実させるのもそうですが、1人1人の心のケアや支援者が近くにいない時の対処法を教える取り組みも必要だと思います。
8	ショートステイ、利用したくてもできない状況。どこも契約までも時間がかかる。結果諦めさせられる。今はまだ私(母)も元気だからいいけど何かあった時のことを考えると不安でいっぱいです。聞くと定期的に同じ人がおさえてる人がいる。ショートステイは緊急に必要な人が利用できない。平等に使えるように施設側も支給決定する役所側も今一度サービスのあり方を考え直していただけるととてもありがたい。
9	現在、障がい者は兄ですが、60代です。私も60代で、兄、姉、妹がいますが、私ひとりで面倒を見ています。現在は病院に入院中ですが、いずれ退院してから別の施設を探すことになると思うのですが、本人の障害年金内で生活できる最後まで看取ってくれる施設などがあればと考えています。兄にはかわいそうですが、私たちも年をとってくるので
10	今やっと通学に移動支援を使って車いすで行けてます。でも、友達の親子は支援を打ち切られてしまいました。なんでですか? この親子はアップアップで通学しています。障害を持つ子をもつ親はこんなアンケートを書く時間だって本当はないんです。急いで、しかも怒りで(どこにぶつけていいのかわからない怒りで)字もこんなにも汚くなってしまいます。だって日々周りでは肩身の狭い思いと家では介助は永遠に終われない。日々張り詰めた糸がいつ切れるかわからないところで叩いてしまうんじゃないかと一歩手前で踏みとどまっている。我が子を全肯定できる親で本当はいたいだけ。アンケートを取るなら、必ずこの訴えを改善していくようにしてください。移動支援を親が働いていなくとも、使えるようにしてください。働いていなくとも、家庭内で日々働いているのです。目が離せないのです。それで、いつ日常の家事をこなせと? インクルージョンケア児童の保育園、幼稚園も必ず実現させてください。親たちは切実に行政に期待しています。

11	障がい児がいて兄弟児が生まれて休職中に、仕事に行っていないならサービス利用せず、自力でやれるだろう！？と言われて怒りと悲しさでいっぱいになった経験があります。その子も高校を卒業して「者」になりますが、これからも不安と暮らし続けます。行政やサービス提供する側が本当に信頼できるものになってほしいです。サービスを受ける側の味方になり、努力する事業者を攻撃する姿勢も見てきました。本当の意味での共生を目指す沖縄県になってほしいです。
12	母子家庭なので自分が年取っていくので子供が、名護の比部の施設に入所しているので面会に行くのに時間がかかるので心配しています。中部に、入所施設があれば心配事が減るので中部療育センター以外に中頭に入所施設がもう一カ所、出来たら在宅で障がいの子供達の面倒を見て生活して仕事ができず生活が苦しい人が多いし、待機待ちで無理しながらの介護をしています。入所施設の希望があります、中部で。
13	現在、B型に入所していますが、短期入所も利用しているが、62才になりますが、ストマー着用のため、対象外と受入れてもらえません。困っています。弟で、24時間介助していますけど私も家族があり、母が亡くなって8年間別居中です。私も60才になり疲れています。兄を入所させてゆっくり残りの人生を過ごしたいです。
14	乳幼児の時期は然程困り感はありませんでしたが、小学生になり身体も大きくなって来たが、排泄・着脱・食事全てにおいて全介助が必要で、力が強くなり、体も大きいので親の方が負けてしまうことがあります。親である私たちの体の負担が大きく、ヘルパーさんを利用できればと思いますが、出勤時間が遅いため、母が身支度を整え学校の送迎が出来るであろうと、ヘルパーさんの利用が出来ていない状況です。確かに親なので当たり前だとも思っていますが、レスパイトも兼ねて利用できればと思います。ショートステイ先も沖縄市はほぼありません。障がい児が地域で暮らすという事は福祉サービスを充実させても利用できなければ難しくなります。
15	今の生活の満足度を確認してみたらどうでしょうか？福祉のまち、沖縄市は日中一時支援を減らす方向に向かっています。サービスを受ける本人たちが中心で充実しているのか？沖縄市はよく考えてほしいです。
16	ショートステイや移動支援が日数はあっても事務所がいっぱい利用しにくい。去年まで月2~3回利用していたのに、月1の利用しか出来ず、親のストレスが大きい。ショートの利用をもっと出来るようにしてほしい。
17	ショートステイするところがなくなってしまうとのことでとても困っています。預かってくれるところもないですし、県外にいるこのところもいけなくなるし、夜、仕事のミーティングの参加もできなくなるので、ショートステイが出来る場所を増やしてほしい。
18	重度知的障がい者はグループホームなどは無理なので将来的に入所施設が必要。親の死後、兄弟への負担がかかることが心配なので、介護施設が充実してほしい。
19	進行性の病気で身体障がい者手帳を持っているが、日常生活用具等が基本的に購入となっていて、介護保険のようなレンタルがないので将来、障がいが重くなった場合の買い替え等、経済的不安が大きい。タクシーを利用したくても、割引が10%になるだけだと、頻りに利用すると経済的に負担になるので、外出しにくい。バス利用はバス停まで行くのが困難である。障害福祉サービスを利用したくても、どんなものがあって、自分が利用できそうかなど、こちらから聞かないとわからない。担当者も違うので、一括で相談できればよい。※アンケートの提出期限が短すぎる。

【障がいに対する理解、地域共生社会 : 11件】

20	見た目、障害者（児）にみえない事により、周りからキツくあたられている方がいます。私の子は子どもで、今は幸せに過ごしていますが、働いている子は辞めるという判断もつかないままビクビク怯えて働いている方もいます。（毎日怒鳴られるみたい）健常者かどうか中間の方（子）は、ハンパないストレスとプレッシャーに挟まれて、健常者の何倍も痛くツライ人生を歩んでいると思います。ただでさえおぼつかない歩みなのに、さらに世間からムチうたれてる、難しい問題ではありますがね。骨折している人に50m15秒で走れって言うてる世界ですね。
----	--

21	公共施設（市役所や市営住宅など）で働く職員に対して定期的な勉強会を開き理解を深めてほしい。座学ではなく、施設訪問し障害者の方と接する形式の勉強会をやってほしい。
22	最近はどこへ出かけてもバリアフリーを考えた設備が前に比べて充実してきたと思う。その反面、事故や対応の仕方が分からないということで、美容室で断られたことも。映画館でも車イスでは観覧できないとのこと。障害者をもっと社会に出ていってやりたいことや手伝ってほしいことをどんどん発言していくことで社会の繋がりもまた理解も深まるのかと思う。
23	30代になりますが、自立に向けて頑張りたいです。自立を意識しますが、何をどうすれば多くの人たちから認められるのか考えることがあります。いろんな考えがある中、人間関係を意識しながら人から認められ、一人前の大人になるにはどうすればいいのか、日々悩みます。そこが他の人と違う所だとも思えるようになりました。自立している人達は違う考え方で働いていると思います。今後、自分の意識を他方向から見て考えていきたいです。
24	障がいのある方、健常者全ての市民が同じ立場で暮らしやすい町になることを望みます。人間いつながりが自分の身に起こるかも分からないし、年はとっていくし、住みよい沖縄県、沖縄市が1番。整っている市となってほしいです。よろしくお願い致します。
25	障がいを持ってしまっって数年。出来ることはやるを心に決めてやっています。しかし、周りの税金の無駄遣いと言わんばかりの対応にイライラしたりします。なぜ、やさしさを出せない人が増えてきたのでしょうか。役所の方々は、心にとめてください。なりたくて、障がい者にはなっていません。誰か体を見て、利用者を分けなくてください。みんな人は一人ひとり大切です。障がい者にレッテル、ふつうの人、普通でない人の区別ない沖縄市を考えてほしいです。バリアフリーという言葉ではなく、だれでも過ごせる街にしたいですね。
26	障がい者でもお互いに理解されて、出来ることを協力して参加していきたいです。
27	知的障がい者は見た目にも分かりにくく、気付いても特性が知られていないために外出先ではとても気を遣います。トイレも車イスマークだけではなく知的、精神障害者マークもあると利用しやすいと思います（妊婦さんマークはあるのに）。妊婦さんの様にバッチを作って周りの人の理解が広がればいいと思います。
28	障がい軽度なのでほぼ一般と同じように生活しています。喜ばしい事ではありますが、健常者と同じ作業を普通に求められ、やれなくはないですが、疲れやすく、回復も遅く、大変な部分も多いのに、そうと気付いてもらえないのは精神的にきついです。外見的に気付いてもらえる、大げさではない何かがあればと思うこともあります。生まれつき悪くはあったのですが、中途障がいのようなものなので、周知までが大変です。
29	障がい者になってみて他の障がい者認定されている本人たちが障がい者と認められたくない意識が高く、隠そうとしたり障害手帳を利用できるのに自分自身が認められていない、あるいは他人から障がい者として思われたくないと感じていることをおかしいと思った。それくらい周りが差別的にみるから隠したいと思っているんだと感じる。私自身はありのままを見せて周りに受け入れてほしい、理解してほしいと思っているので堂々としているがまだまだ健常者は差別している事を強く感じる。まだまだ、肩身の狭い思いをしている人たちがいることを感じている。
30	人は、いつ何があるかわからない。突然障がい者になるという全く思ってもいない出来事が起こる。生まれてすぐでも、途中であっても、自分を受け入れるのに何十年もかかる。心のケアが一番必要かもしれない。ただ、健常者には、この深い悲しみはどんなに頑張っても理解できないと思う。これ以上は難しく何とも言えません。一人でも多くの方が生かされている意味に気づき、働いてお金を稼ぐ喜びを得て欲しいと思います。

【雇用 : 10件】

31	ゴム系装具等の対応年数に応じた申請ができるようにしてほしい。会社の雇用率をちゃんとしてほしいが、その際の給与はちゃんとしてほしい。障がい者の雇いで補助金がもらえるなら、もっと普通にして給与がほしい
32	・市役所の採用試験の申し込みへ行ったら、身体障がいのある方みの条件枠しかなかった。知的障がいのある方の採用試験も募集要項への枠も増やして欲しい。 ・3月に県立高校を卒業予定で大学受験（R2.2月）をしますが不合格になった場合は就職を希望しています。就職しながら取得できる資格情報が全くわからず、相談できる窓口を紹介して欲しいです。
33	精神障害は見た目あまり分かりにくいと思うので、就職する場合、理解があり（会社側に）給料も健常者と同様だと嬉しい。もしくは精神障害を持っているといえる会社が多くあれば良いと思う。
34	沖縄市役所も障害者の雇用に力を入れて欲しい。民間だけに就労させるのではなく市役所も雇用すべき。又、障害者も一般の方と同じ雇用形態にするべきだと思う。そうすることで働くこと、責任、楽しみ、自立が近づくと思う。A型就労ばかりではなく、その他の障害者のことももう少し考えるべきだと思う。重度障害でないとい何の支援もないのでせめてインフルエンザの接種とかあっても良いのでは。道路の段差が多く歩行が難しいのも問題である。
35	私の場合障害6級で手当金がありません。補聴器の電池など出費もあります。何か起きて病院受診は自己負担となるので働かなくてはなりません。中途障害3級となった弟もいるのが、手当金もなく働きたくても時間が限られている。弟はストレスで絶望的で、希望を持ちきれずにいる。家族が弟、母の為働くとなると重荷をかかえてしまいます。相談できる場があったら良いし、解決法知りたい。どう対応していただけるのでしょうか。誰にも言えず困っている方たくさんいると思います。障害をかかえる方に耳を傾けて欲しい。 聴覚障害者が働く仕事が多くなく、やりたい仕事ができないと。事務の仕事がしたくてもほとんど電話対応。他は出来る方はたくさんいると思います。差別しているのかなと考えてしまう。してはいいないと思いますが、出来る仕事を募集にかけてもいいはずです。（書くことが出来て感謝です。ありがとう）
36	現在就労しています。リタリコのおかげで就労できました。精神疾患を患っていても、あたたかい就労支援のおかげで継続して働き続けることができます。
37	中高年の自分にはA型事務所の作業や週20時間の仕事は難しく、B型もA型もいろんな所を見に行ったりしましたが、歩くかバスで行くしかないのでは遠方だと交通手段がありません。A型は歩くか自費でバス料金を出すこともありました。/B型はその場に居られなかったです。A型でも束縛したり、利用しようとする人がいて続かなかったです。/息子は成人、結婚しましたが、娘は（旧アスペルガー症候群）ですが、自立するためにもがんばって何十件と面接を落ちましたが、成人し、現在サポーターの協力もあって、就職して二年目に入り、免許と車も自分で買い、家計も助けてくれています。ただ自立し将来は恋愛を楽しんだり、良いパートナーを見つけてほしい、幸せを祈っていますが、私が働いていないので申し訳ない。これで良いのかなと考えたり、前進していない自分がかっかりしています。ハローワークもたまに通っていますが進んでいません。人の話を聞いてあげたりはできますが…。
38	視覚障がい者の行ける就労支援先があまりなく、就職にもつながりにくい
39	職場の年休や病休が足りず、通院が月1~2回あるので、通院休など（病院の領収書提出）があれば助かる。/見た目ではわからないので、ペースメーカーの合図時、休憩を取りたいが難しい。休みにくい（全員がわからないので）。/障害者の受け入れのある職場は給料が安くて、生活が出来ない。/現在は働いているが、年金をもらっているわけではないので、もっと体がきつくなった時に心配。/生活が厳しいので、もっと働きたいが、体調が悪化する。/医療費助成受給資格者証を持っているが、私の病院では使えない。/できればお金を払わなくて受けられたら一番いい。/お金がなく行けないこともあるので。

40	仕事の内容で一般の方との給与の差をなくしてほしい
----	--------------------------

【教育 : 9件】

41	親より 学校の（子供達や先生方）に障がいについての理解をする勉強や人に対する授業をしてもらいたい。障がい者だからではなく、障がいと健常の生活が共有できることが望ましい。障がい者ではなく、一人の人間として生活したい。
42	障がい者への偏見のない社会づくりを切望します。それには、幼少学生時代からの教育が必要です。それらを指導する教師の理解（障がいへの）知識も重要です。現在、まったくと言っていいほど、無関心・無理解の教諭が中にはおられます。残念です。（行政、県、市町村職員の方もおられます。）社会的に弱い立場におられる方々の声を出せる（自由に）場を作ってほしいです。ほとんどの方（話せないような障害を持つ方）は遠慮しているはずですが、諦めている方もおられるかと…。
43	健常の子を育てるよりもずっと精神的な負担がかかります。小学校も支援員が少ないという理由で遠回しに受け入れ不可のような対応でした。行きたい学校への進めず、通知も遅くって不満がボロボロ出てきてしまいました。親への支援もあるとちょっと助かると思います。
44	もっと高校への進学ができるようにしてほしい。中部農林高校の定員が10名なんて！少なすぎる！もっと学べる場所を設けてほしい。軽度発達障がいの子供達が増えているのに全く高校の定員を増やそうとはしないのですか？もっと本気で子供達の将来を考えてほしい。
45	1/22の沖縄タイムスの1面での記事「地域で学び友と成長」という記事はとても興味深いものでした。受け入れることで受け入れられた障害のある子だけでなく受け入れた方も成長している。子供たちは柔軟なので小さければ小さいほどつまり保育園からでも受け入れればそれが当たり前となり、「共生社会」をわざわざ条例としなくてもそういう社会となっていくのではないかと思います。条例があるなら逆に取り組むべきだと思います。沖縄市から本当の名実共にならなっている「共生社会」になれば良いと思います。
46	次年度から新1年生になる障がい児がいます。色々と悩んだ結果、姉弟と同じ小学校（公立）に通う決断をしましたが、「先生不足」「支援教育不足」がとても深刻。「地域で育てて欲しい」と思う親の想いとは裏腹に支援制度が整っていない現実。我が子の将来が不安。“インクルーシブ教育”とは程遠い。発達支援が必要な子供達がとても増えている現代だが、全くと言っていいほど充実していない。もっともっと理解ある教育を目指してほしい。
47	来年高校受験を控えているが、発達障害があるため、本人自身が登校することが出来ない。教室に入るのがとても嫌らしい（雑音や男子の騒いでいるのが嫌だし、小学生の時のいじめもあって登校できない）。学校側がもう少し理解してくれると良いと思うのだが、やはり「本人のわがまま」でとらえられてしまうことがとても親も本人も歯がゆい。私自身も、夫も、姉妹もどう本人と対応したらいいのか分からずに毎日過ごしています。親としては、将来がとても心配です。
48	沖縄市が「こどものまち」をうたってから、やっと障がい児にも目を向けられ、このようなアンケートが届いたと何か変わるかなとの小さな期待はしておこうかなと思いますが、我が子も中学生になってしまい、一番大切な幼稚園・小学校時代は親子ともに苦労してしまいました。障がい児が地域の学校に通うことは沖縄市では無理でした。私たち親子には間に合いませんが、これからの子どもたちが沖縄市でよかったと思える子ども達のまちづくりを頑張ってください。健常者（児）も障がい者（児）も同じ人間であり同じ感情を持っていることを懸命に考えていただきたい。共生社会の実現を心より願っています。

49	学校での先生の人数の確保、支援の先生は手のかかる子供たちを数人をも一人で支援し毎日、手がいっぱいいっぱいであると感じています。もっと一クラスに支援して下さる先生が数名つく環境を作っていただきたいと思います。沖縄市はエイサーのまち、バスケット等施設を充実させようと頑張ってくださいますが、もっと子供たちが学習できる場を経済的に不自由な家庭も学べる支援、場所を作っていただきたいと思います。(私がその場を知らないだけかもしれませんが、そのような場を学校へ出向いたときにも気軽に情報を知れたらと思います)
----	---

【情報提供等 : 6件】

50	子供が成人になった時にも、色々な情報が入ってくる環境づくりを希望します。制度やサークル等、障害者を抱える家族が孤立化しない為の関わりを望んでいます。大変なお仕事だと思いますが、福祉サービスの利用ができていて、子供も成長する事ができています。ありがとうございます。
51	例えば同じ特性のある障害を持っている子どもがいる、養育している親の会の情報があればHPなどで発信してほしい。
52	色々受けられるかもしれない福祉サービスの情報が全然わからない。市役所に行っても自分から相談してみないとわからないじゃなくて、情報がきて自分もサービスが利用できるのだという教えが欲しいです。いまだにどんなサービスが受けられるのか全然わからない。常に情報がくるとありがたいです。現在は夫が無理をしている状態なので、夫にも支援があるといいなと思います。
53	共生社会条例等知らない制度があり地域担当者をもっと周知させる必要があると思う。色々細かく相談したい事がある時に通院している病院には話したくない時もありそういうデリケートなところを、どこに向ければいいのか知りたい。家族相談本人相談もあるので、行政と関わってほしい。
54	知らないサービスがたくさんあります。広報や医療機関からもっと教えてほしいです。
55	病気の為仕事が出来ず収入がありません。どうしたら良いのかわからない。

【バリアフリー、移動交通手段等 : 5件】

56	公園で遊んでいたら、近所の人に怒られて、アパートの駐車場で大声を出したり遊んでいたら大人の人に怒鳴られている子、駐車場で2~3人でゲームをしている姿。今の子供たちはゲーム、パソコンの生活。家から出られるよう子供たちが生き生きと遊べる行きやすい場所が沖縄市にはない。一番街やコリンザはもっと活動できると思います。今から子供たちの未来、コミュニティの場所が必要。
57	駐車場に車いすを置いてほしい、入り口に置くと不便を感じます。
58	道の舗装整備をしてほしい
59	車の免許をとれない子もいます。そのため、徒歩かバス、自転車では行動できません。バス停をもう少し確保してほしいです。将来の為に交通をよくしてほしいです。例えば、八重島高層団地の前にもバス停を確保してほしいです。その子たちのためにも考えてほしいです。よろしく願いいたします。
60	沖縄市にもっと子供が遊べる楽しい公園などを作ってほしい。0歳が安心して、おむつなどを変えられる、授乳室があまりないので、そういうところがあると助かる。

【住まいの確保、入居支援等 : 4件】

61	県営団地・市営団地へ入居したいのですが、数が少なすぎると思います。1人で障害を抱えて2LDKに住んでいる方や、2人家族で2DK、障害者が亡くなってもバリアフリーの団地に家族が住んでいる人たちもいる。今現在、建て替えの団地がある中、県や市が上記の様なパターンを把握し改善してほしいです。障害当事者が多数入居ができるようにしてほしい。今後、建て替えをする県営・市営団地について。
----	---

62	知的障害者の家族にも県、市営団地に住めるようにしていただきたい。本人一人では暮らせない為、金銭的に安心できるような制度を作ってほしい。
63	一人暮らしをしてみたいのですが、A型を利用しているため、給料が少なく、アパートを借りられません。精神3級でも借りられる家はあるのでしょうか？
64	自立（自分たちで仲良く過ごせる住宅（住宅が増えてすぐに入れる）ように増やしてほしい。その中でいろいろな福祉サービス、職員も増やし、安心して過ごせるようにしてほしい。

【手続きの簡略化 : 2件】

65	障害年金の申請で手続きが難しかった。（初診日の件で）手続きがスムーズにできるように支援いただけるとありがたい
66	沖縄市役所の障がい福祉課で障がい者手帳を更新し、受取に行った際に、私がある書類を持っていなかったためにその日は受け取れないと言われました。家を探してもその書類がなかったのでどうすれば良いかメールで問い合わせたところ、新規ではなく更新ならその書類がなくても受け取れると言われました。つまり私は本来1回目の来庁で受け取れたのに2回行く羽目になりました。障がいがある人はやっとの思いで役所に辿り着けたという人もいるので、職員による対応の違いで不利益を被ったりすることが無いようにして頂きたいです。

【緊急時の対応 : 2件】

67	家族が緊急な事がある時の受け入れがなく（ショートステイ等）医療ケアの出来る児童デイが少ない感じです。※記入に関して家族の方で思った事等を記入してます
68	現在自力歩行で週三回の人工透析通院中です（10分くらいの距離）。人口カテーテルでの透析のため、不具合時と半年に一度、手術が検査可能の総合病院での入院、通院時の精神的不安・経済的不安・交通手段・付添人のお願いなど、急変時の連絡が自力でできるか不安などSOSが出せるようなところがあれば安心ですが…。一人暮らしで隣人とのかわりもなく、将来的不安があります。福祉の引き下げ、年金の引き下げ、増税などで日常生活も困窮している将来性の不安が大きい。

【その他 : 46件】

69	運動など施設を利用する時の割引などが受けられる所が多くなければと思います。利用料金などで続ける事ができない事もあります。
70	障がい者アンケートについて、私はいつも健康で病気知らず、これまで約30年無欠勤で仕事していましたが、心臓の手術をして障害1級になりました。まだ等級からすると軽い方だと思いますが、生活実態調査をすることはとても良い事だと思います。私より思い障害者達の声聞いて沖縄市のさらなる発展を期待します。ありがとうございました。
71	沖縄市美原地区美里地区に、お住まいの30代～40代の女性の方々および男性の人たち飲酒（アルコール等）、付き合い、パーティー、集い場を全くのない沖縄市を作ろう願い。太陽のふりそそぐこの沖縄お家外で体を動かこうデー
72	クローズで郵便局にて就労。だが、役所の封書には、障害福祉課と書かれて郵送するので、いつ職場にバレるか不安である。役所内の隠語でいいので例えばA-3課などを書いて欲しい
73	沖縄市は市バスを出していますが、県総合運動公園や東南植物楽園や市営体育館などの循環バスを作る事で、本島に市民が利用できる交通網を作る事が収益にも繋がり、赤字解消にもなると思います。また、各地域の差別や権力、争いなどあると思いますが、沖縄市全体を考え市づくりをして下さい。
74	早く健康に向けて実行して自立に向かっていきたいです。年齢が62歳ですので、この辺を考慮してほしいです。

75	タクシー1割引をもっと割引してほしい
76	障がいのある人とのコミュニケーションが取れないことで悩むことが多い。ので、一般人と合う事と合わないところが多い
77	独立したい
78	障害の状態が落ち着いている生活保護世帯は車を持って仕事に行けるような環境にしてほしい。車がなくて、仕事を探すことが難しい。送迎のあるところは少ないし、理解があまりなさすぎる。薬を飲んでいて10年以上落ち着いている人たちにはもっと配慮してもいいと思う。車でも仕事に就くためには、生活保護世帯には乗っても良いと決めてほしい。生活が出来ません。買い物も近くても1~2キロあって、家族を頼ると自分で行くと負担が大きいのであまり頼れません。もっと障がい者に理解を持ってほしい、まずは車を持っていいことと仕事探しやすいことからお願いしたいです。
79	すみませんがこれからは通さないでください。なぜならば最近母親が亡くなって、今は一人暮らしです。どうしようもないです。いとこ市内に住んでいます。笑わない人です。難しい人です。自分は病院に通っています。そして、NPO 法人支援センター近くのバイトで通っています。今年は自分は引っ越し予定です。
80	私はウィーガンなのですが、ウィーガン専用の弁当が売られてなくて困っています。ウィーガン専用の弁当を売ってほしい
81	あまり意味が解らない。私平成28~29年まで自分の家、友人と壊して今は車庫と物置があり、29年2月のおきでねています。家は自分のであり、土地がねている今は使われてそれ以上家こわすことができない。今は家がない状態です。今物置小屋に住んでいるものです。なぜ、三年間かかったことが一間に一日一日からだが同じ状態でないのです。良くなったり悪くなったりする。時間的には一日中仕事することができません。よく二時間ぐらいやたら体がよくなったりするので、イライラしてくるものです。私は今あまり人間と友人とも会いたくないのです。いつも一人です。これで終わります。
82	左手の小指、薬指、中指に力が入らないのは身体障害かも
83	難しく分かりません。申し訳ありません。
84	話しと現実の差が多すぎる
85	知的障害の為、曜日とか時間帯等理解困難です。パニック障害もあります。在宅を好み、出掛けると自力で帰宅出来ず、パトカーで帰る事も数回ありました。それ以来まったくといっていいほど自分で外出しようとしません。現在、障害手当をいただき本当に感謝しております。お陰様で衣食住の心配もなく暮らしていけます。社会に有り難く助けられております。障害者に恵まれた環境に日本社会に本当にありがとうございます。感無量です。この子の将来的な不安は改善されて母親としても安心して生涯を終える事に喜びを感じ、日々頑張っけて暮らしております。
86	支援区分するのは差別ではないのか？障がい者は等級、区分関係なく全て障がい者ではないのか？障がいに大きい小さいはない
87	あまりこういうアンケートは次からお断りします
88	・1度しかない人生、なんらかの障害があってもやはり人間は1人では生きていけません。・人生のパートナーが居たら良いなど思っていますが、出会える場もない、分からない。障害でも気軽に理解し合える交流会を(出会いの場)を作ってほしいです。やって欲しいです。(一般人)でも、もしかすると理解者も居るかもしれません。・是非検討、実施をよろしくお願い致します。
89	なぜ生きているのかまったくわからない。生きがいをまったく感じない。あまりにもトラウマでうなされる。レイプ、虐待、傷を負い、ありすぎてどうまとめてよいのかわかりません。
90	思いやり予算を、バリアフリーや点字の歩道、音のなる信号機へ使った方が良いと思います。高等学校の授業が無料で助かる人が多かったのに、なぜまた有料にしたのか分からない。子供の貧困問題も少しは解決するのに。沖縄市も給食を無料にした方が良い。また、給食センターの安全を見直すべき。

91	もう少し利用者たちの立場になって考え、取り組んでほしいものです。「明日は我が身」という事を、今、実際体験じゃなく、本当になぜ？自分がと思う。しかし、沖縄の人たちの結束は固い。内地も見習えと言いたい。沖縄にだけしかない琉球タイム。いいけど、めちゃくちゃルーズやから時間に。まず、考えられんことばかりだったが、今は少しずつ慣れてきている。
92	保護や障がいがあるため、人眼が怖い。保護、ありがたいです。
93	このアンケートで一つでも良き改革が出来ると良いですね。
94	障がい児がいます。バリアフリーの新築を考えています。設備などを考えると高額になります。金銭的な支援があったら良いのになあと考えています
95	役所の障害福祉課の対応が早いのでとてもいいと思います。
96	県や市の障がい者、児に対する施策、支援には感謝しております。これからも見守り、寄り添ってください。
97	親が身体の動きが悪い為にでも生活保護を実施している為に毎日一緒に住むことができなく、現在一人で生活している。親をまともにみてやれない。僕も自閉症という障がいがありますが、親と一緒に生活するには家賃があがるが生活保護が受けられなくなることが心配です。
98	私は週三回透析を受けていますが、市の広報誌に掲載されているカルチャースクールや講座には健常者利用しか利用できないのが実情である。透析患者など障がい者向けの講座の設置を希望します。
99	障がい重い方、または軽い方はまだ良いと思います。中途半端な障害の人は障害者年金、一時金はなく、仕事もできない。寝たきりの生活の人はどうすればいいのか？
100	私自身、以前は、小学校や施設等で介護の仕事についていました。自分は、まさかベッドからも起きあがれずに、歩けなくなるなんて思いもしませんでした。そうすると家族に迷惑かけたくないので、市への有り方を考えるようになり、心が滅入っていました。現在は、病院のおかげで自分の事は、自分で出来る様になりました。免疫力が弱くなって加齢によるものもあるし…殆ど、、家にいますが、友人、子供達が良く来てくれるので、1人暮らしに特に困った事は、今の所、は、ありません。
101	もし、障がい者や心の病を持っている方でも、自分達の自分にしかない自分だけの大切な世界観を作品にして、他の方々にも見て頂いて少しでも心の前向きや辛かった心等を知ってもらえたらいいなと思います。マンガ(4コマや、日常、ギャグ等)や、イラスト(クレヨン画や、水彩画、貼り絵等)や、詩(作文や、書道等)を展示して、一般の人に「頑張ってるんだ!」と、伝えたいです。『周りに伝えられない』環境なら、周りから働きかけるなど。「伝えない」より、一か八か頑張って『伝える』が大切だと思います。自分は、絵がそんなに上手くない思いがちですが、自分が描く少ページのマンガのテーマ(読者へ伝えたい事)は「希望・笑顔」です。1p~4p ぐらいのコメディをよく描いています。もし、作品を展示する機会があれば挑戦してみたいです。健康な方々も、障害や持病を持っている方々も皆元は、同じ「人」なので分かち合えるといいなと思っています。自分は、辛い時雑誌のマンガを見て、「よし、…頑張ろう。」って思えました。そのマンガも否定されたり、自分の将来の夢の「漫画家」という夢もだめ出しされましたが、夜、マンガを読んで「面白い」と希望が持てて小学校時代から今までずっとマンガが好きです。
102	市役所に電話するのが怖いです。
103	障がい福祉課にはよく行きますが、以前窓口で生活保護の人がいました。私は、未婚で生活保護を受ける時にこの人が担当にあたり、「父親のいない子供を育てるのはどうかな」と言われました。そういう発言を今でも覚えています。私の子どもはいじめを受けていた去年、いじめをしていたこの母親が、障がい福祉課で働いているのを見て、ぞっとしました。障がいの理解を求めるのはその窓口に言いたいです。
104	死にたい!
105	手話通訳者はプライバシーをきちんと守ってほしい

106	1、親が死んだあとの世話、生活面、経済的な面、どうしたらいいのか。一番心配している。2、現在雄六時間パートで働いているが、給料が月手取り五万円位です。あまりにも少なくて情けない思いです。沖縄県の最低賃金に準じているようですが、ひかかれている税金が約二万円位です。普通の人と同じ働き方が出来ない障害を持った人なので、税金面で何とかならないのかと思います。
107	難しい質問が多く、わかりにくかった
108	障がいの件について、沖縄市役所の皆様には本当にお世話になっています。感謝でいっぱいです。障害福祉課、子供相談健康課の皆様、本当にありがとうございます。
109	中途障がい（一年目）で不自由にはなったが、楽しく生活はしている。他の障がい者に対しての気づかい、心配りが前より強くなって他人に少し優しくなれたような気がする。自身が不自由になって分かることですね。健常者の方々も自分の身体を大切にしてほしい！ 役所、サポートセンターの皆さんがとても親切で相談に乗ってくれるので障害者にとって心強いです。
110	障がい者の方が軽い運動をする場所が欲しいです。正常な方と一緒にすると、行かないから
111	視覚に障害があると字の濃さ、色によっては見えにくいことがあるので、濃いめの黒字でアンケートの質問を書いてほしい。とても見えにくいです。
112	東部クリニック介護支援センターのケアマネージャーが、些細なことにもよく気がきいてもらい、生活面での不安や心配事を相談するとか以前のアドバイスをいただいて、手すり補助いすの手配をしています。家族にはあまり負担を掛けたくないという思いから我慢することが多かったのですが、ケアマネの仲門さんには相談させてもらうことで前に進んでいるように精神的にも落ち着いています。脳出血による差片麻痺と左目 1/4 下半盲、障がいは固定しているという診断で車の運転はなるべくしない方が良いと言われていますが、娘の学校送迎の為です。合わせ住宅内の路線バスがあると乗り換えで学校、私も病院への通院と利用できたら助かります。
113	障害手帳を持っている保護者及び付き添いの人ひとりで良いので、バス料金を本人だけではなく、半額にしたいです。病院へ行くとき、買い物などバスの料金が家計の負担になっています。
114	私は発達障害なのですが、診断されたのが大人になってからです。医者になぜ子供の時に診断されなかったのか聞いても厚生労働省の基準が当時私を発達障害と診断できなかったと言われます。もし、もっと早くに障害が判断されていたら違う人生だったかもしれないと思います。もっと早くに診断基準を確立してほしいです。
115	中途半端な障害者の環境をもう少し整えてほしい。

Ⅱ. 沖縄市難病患者（児）の「生活実態」及び「意識」に関するアンケート調査結果

1. 調査の概要

（1）調査の目的

本調査は、難病患者の方々の日常生活の状況や各種サービスに関するご意見などを把握していくとともに、「第4次沖縄市障がい者プラン」の見直しの基礎資料とすることを目的に実施しています。

（2）調査の実施状況

- ①調査の対象 沖縄県中部保健所に依頼し、特定医療費（指定難病）受給者証所持者及び小児慢性特定疾病医療受給者証所持者の中から抽出
- ②調査方法 郵送による配布回収
- ③調査期間 令和2年1月～令和2年2月

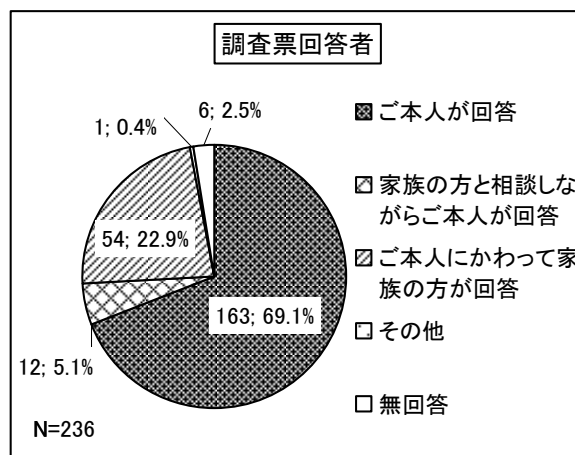
（3）標本数及び回収状況

	配布数	有効回収数	回収率
難病患者（児）	674 件	236 件	35.0%

2. アンケート調査結果

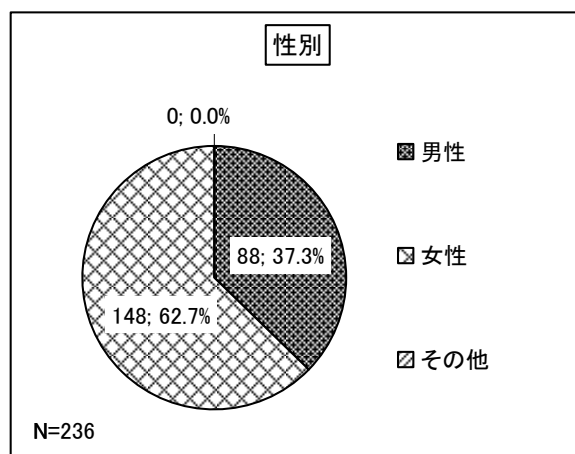
はじめに 調査票の回答者

アンケート調査の回答者は、「ご本人が回答」が69.1%で過半数を占め最も多く、次いで「ご本人にかわって家族の方が回答」の22.9%、「家族の方と相談しながらご本人が回答」の5.1%、「その他」の0.4%となっています。



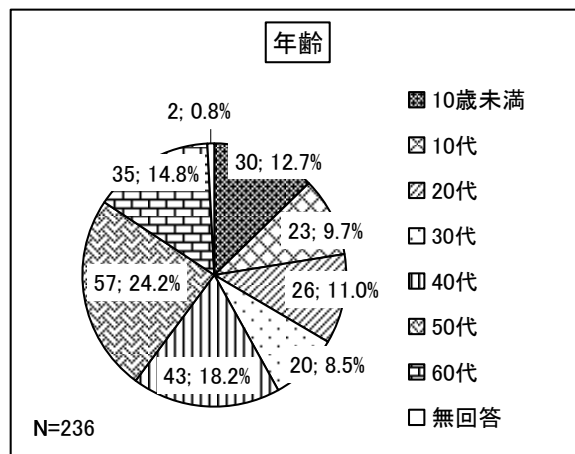
質問 1-1 性別

回答者の性別は、「男性」37.3%、「女性」62.7%で、「女性」が多くなっています。



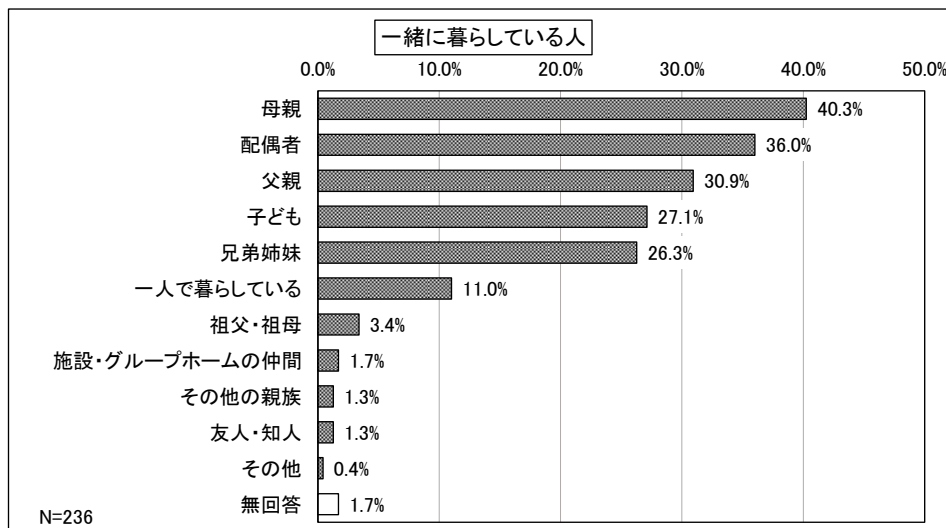
質問 1-2 年齢

回答者の年齢は、「50代」が24.2%で最も多く、次いで「40代」18.2%、「60代」14.8%、「10歳未満」12.7%、「20代」11.0%、「10代」9.7%、「30代」8.5%となっています。



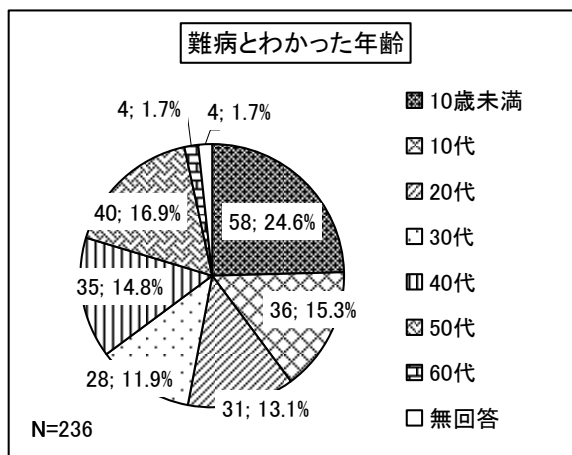
質問 1-3 一緒に暮らしている人について

現在同居している人については、「母親」が40.3%で最も多く、次いで「配偶者」36.0%、「父親」30.9%、「子ども」27.1%、「兄弟姉妹」26.3%、「一人で暮らしている」11.0%、「祖父・祖母」3.4%、「施設・グループホームの仲間」1.7%、「その他の親族」1.3%、「友人・知人」1.3%、「その他」0.4%となっています。



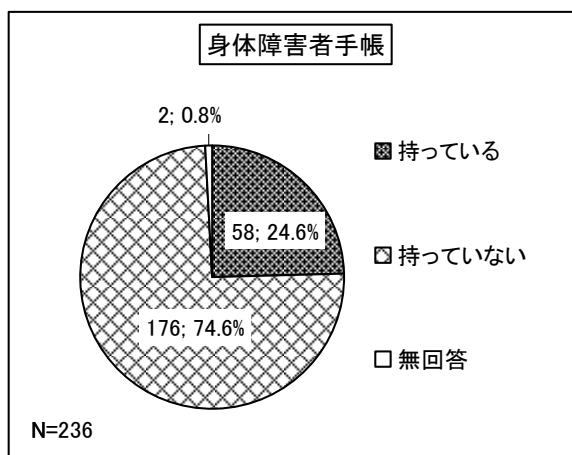
質問 1-4 難病とわかった年齢

難病とわかった年齢については、「10歳未満」が24.6%で最も多く、次いで「50代」16.9%、「10代」15.3%、「40代」14.8%、「20代」15.3%、「30代」11.9%、「60代」1.7%となっています。



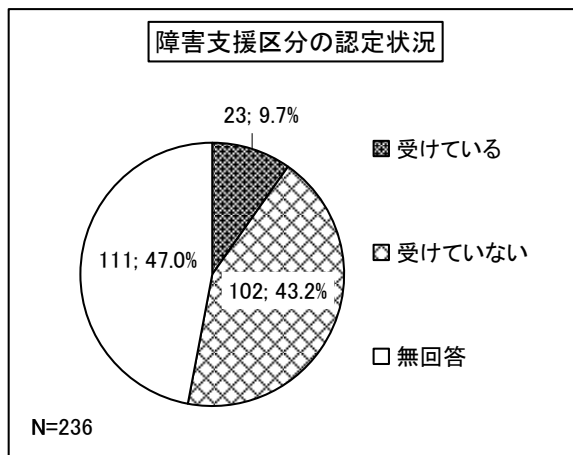
質問 1-5 身体障害者手帳の有無について

身体障害者手帳の有無については、「持っている」24.6%、「持っていない」74.6%で、「持っていない」が多くなっています。



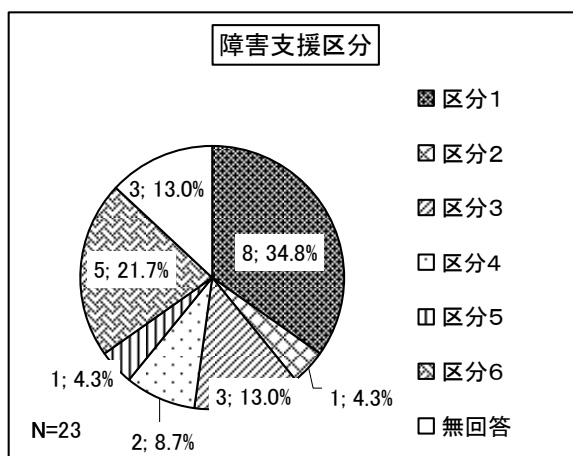
質問 1-6 障害支援区分の認定状況について

障害福祉サービス等を受けるために必要な障害支援区分の認定については、「受けている」9.7%、「受けていない」43.2%で、「受けていない」が多くなっています。



質問 1-7 障害支援区分について

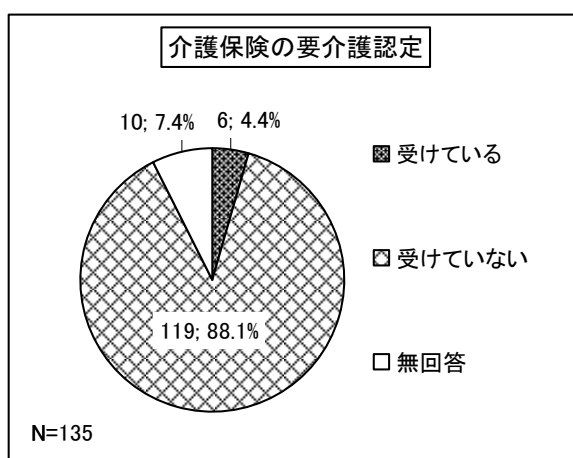
障害支援区分の認定を受けている方の区分については、「区分1」が34.8%で最も多く、次いで「区分6」21.7%、「区分3」13.0%、「区分4」8.7%、「区分2」4.3%、「区分5」4.3%となっています。



【質問 1-8~1-10 は 40 歳以上の方にお聞きします】

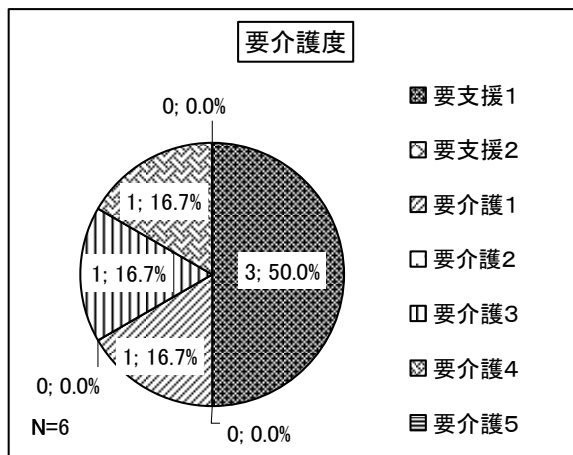
質問 1-8 介護保険の要介護認定について

介護保険の要介護認定については、「受けている」4.4%、「受けていない」88.1%で、「受けていない」が多くなっています。



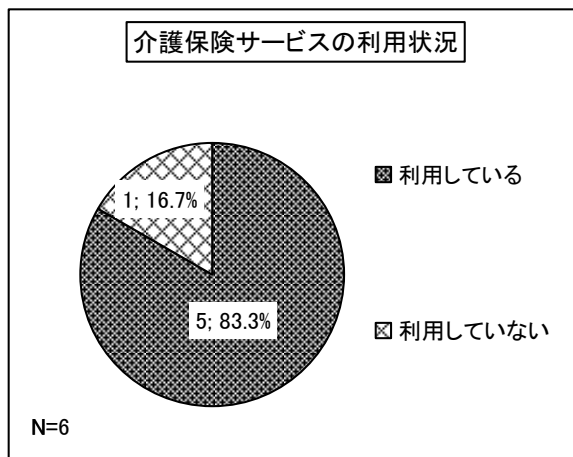
質問 1-9 要介護度について

介護保険の要介護認定を受けている方の要介護度については、「要支援1」が50.0%で最も多く、次いで「要介護1」、「要介護3」、「要介護4」が16.7%となっています。



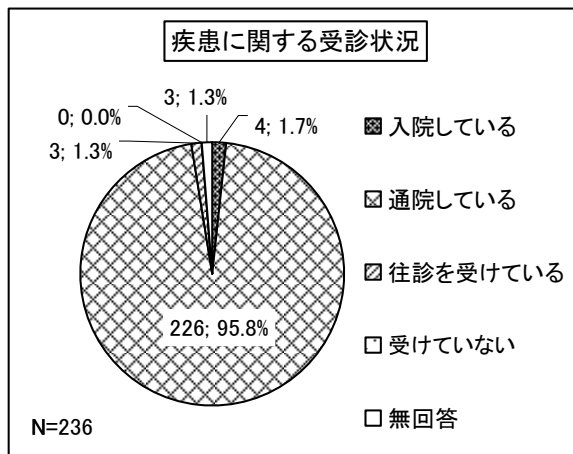
質問 1-10 介護保険サービスの利用状況

介護保険の要介護認定を受けている方の介護保険サービスの利用状況については、「利用している」83.3%、「利用していない」16.7%で、「利用している」が多くなっています。



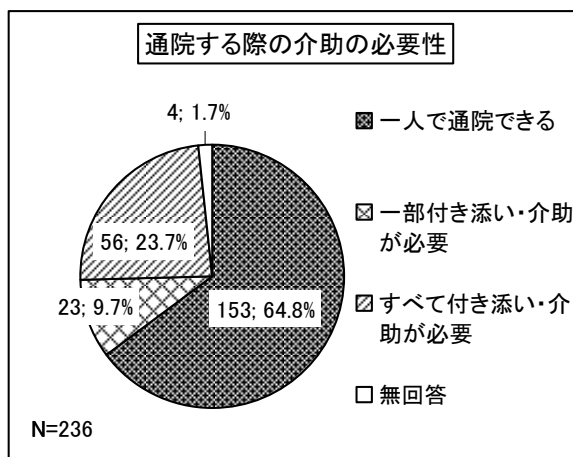
質問 2 現在罹患している疾患に関する受診状況

現在罹患している疾患に関する受診状況については、「通院している」が95.8%で最も多く、次いで「入院している」1.7%、「往診を受けている」1.3%となっており、ほとんどの方が通院している状況となっています。



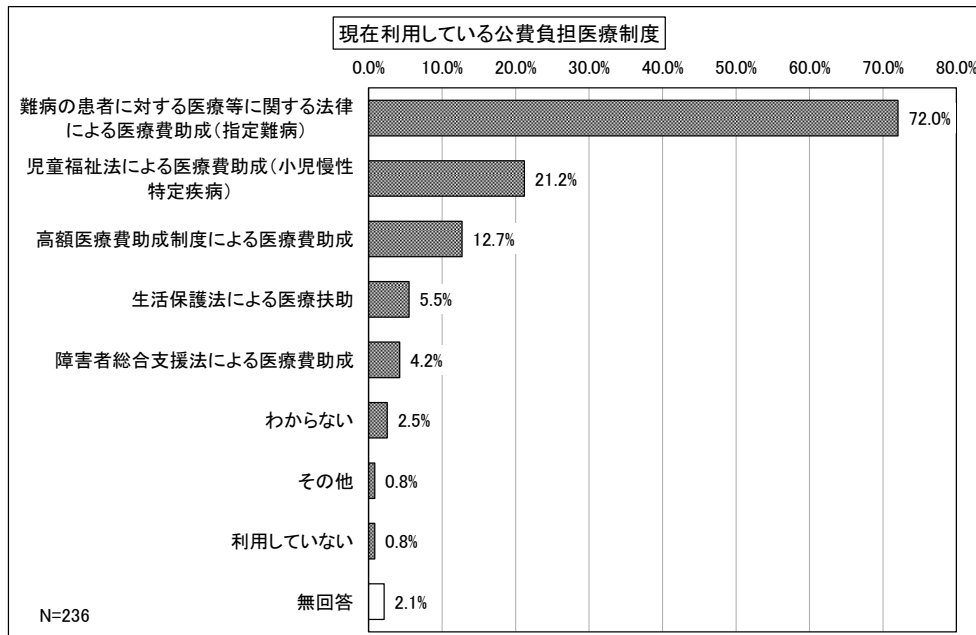
質問3 通院する際の介助の必要性

通院する際の介助の必要性については、「一人で通院できる」64.8%、「すべて付き添い・介助が必要」23.7%、「一部付き添い・介助が必要」9.7%で、「一人で通院できる」が多くなっています。



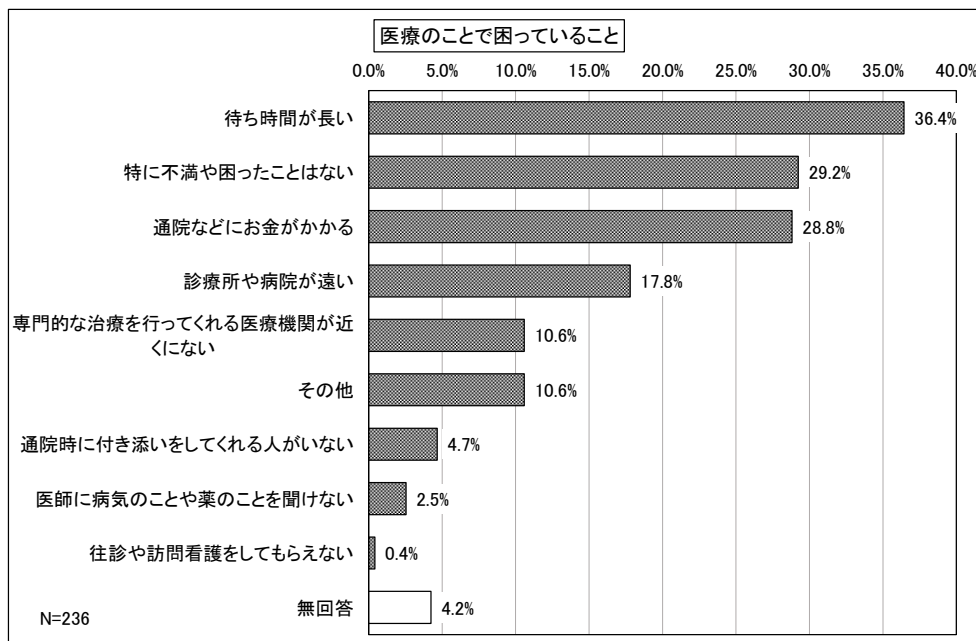
質問4 現在利用している公費負担医療制度

現在利用している公費負担医療制度については、「難病の患者に対する医療等に関する法律による医療費助成（指定難病）」が72.0%で突出して多く、次いで「児童福祉法による医療費助成（小児慢性特定疾病）」21.2%、「高額医療費助成制度による医療費助成」12.7%、「生活保護法による医療扶助」5.5%、「障害者総合支援法による医療費助成」4.2%、「わからない」2.5%、「その他」及び「利用していない」0.8%となっています。



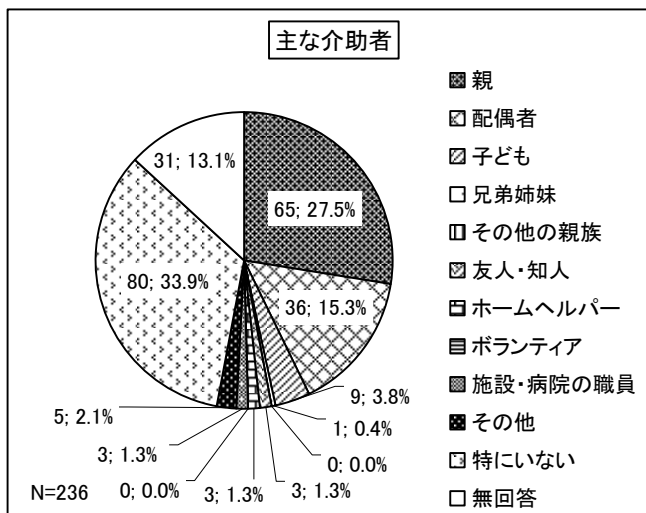
質問5 医療のことで困っていること

医療のことで何か困っていることについては、「待ち時間が長い」が36.4%で最も多く、次いで「特に不満や困ったことはない」29.2%、「通院などにお金がかかる」28.8%、「診療所や病院が遠い」17.8%、「専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない」及び「その他」10.6%、「通院時に付き添いをしてくれる人がいない」4.7%、「医師に病気のことや薬のことを聞けない」2.5%、「往診や訪問看護をしてもらえない」0.4%となっています。



質問6 主な介助者

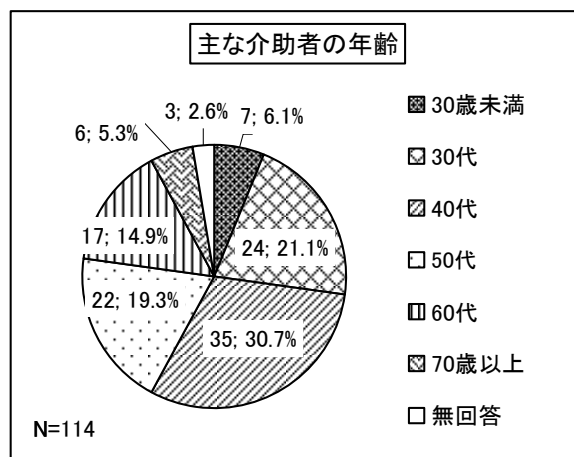
主な介助者については、「特にいない」が33.9%で最も多く、次いで「親」27.5%、「配偶者」15.3%、「子ども」3.8%、「その他」2.1%、「友人・知人」、「ホームヘルパー」、「施設・病院の職員」が同率の1.3%、「兄弟姉妹」0.4%となっています。



【質問 6-1～6-3 は質問 6 で「親」、「配偶者」、「子ども」、「兄弟姉妹」、「その他の親族」、「友人・知人」と回答した方への質問です】

質問 6-1 主な介助者の年齢

主な介助者の年齢については、「40代」が30.7%で最も多く、次いで「30代」21.1%、「50代」19.3%、「60代」14.9%、「30歳未満」6.1%、「70歳以上」5.3%となっています。

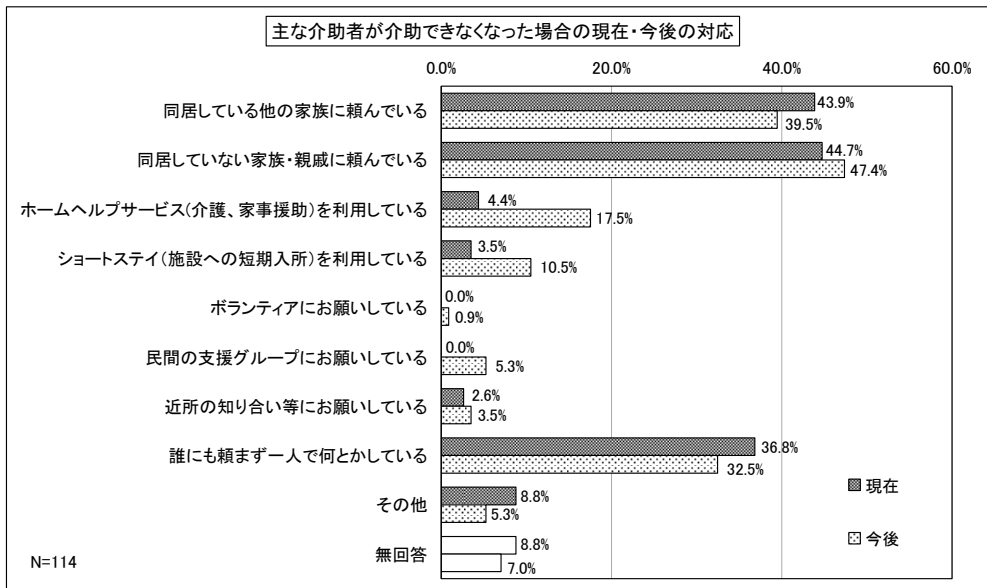


質問 6-2 主な介助者が介助できなくなった場合の現在・今後の対応

主な介助者が介助できなくなった場合の現在の対応については、「同居していない家族・親戚に頼んでいる」が44.7%で最も多く、次いで「同居している他の家族に頼んでいる」43.9%、「誰にも頼まず一人で何とかしている」36.8%、「その他」8.8%、「ホームヘルプサービス(介護、家事援助)を利用している」4.4%、「ショートステイ(施設への短期入所)を利用している」3.5%、「近所の知り合い等をお願いしている」2.6%となっています。

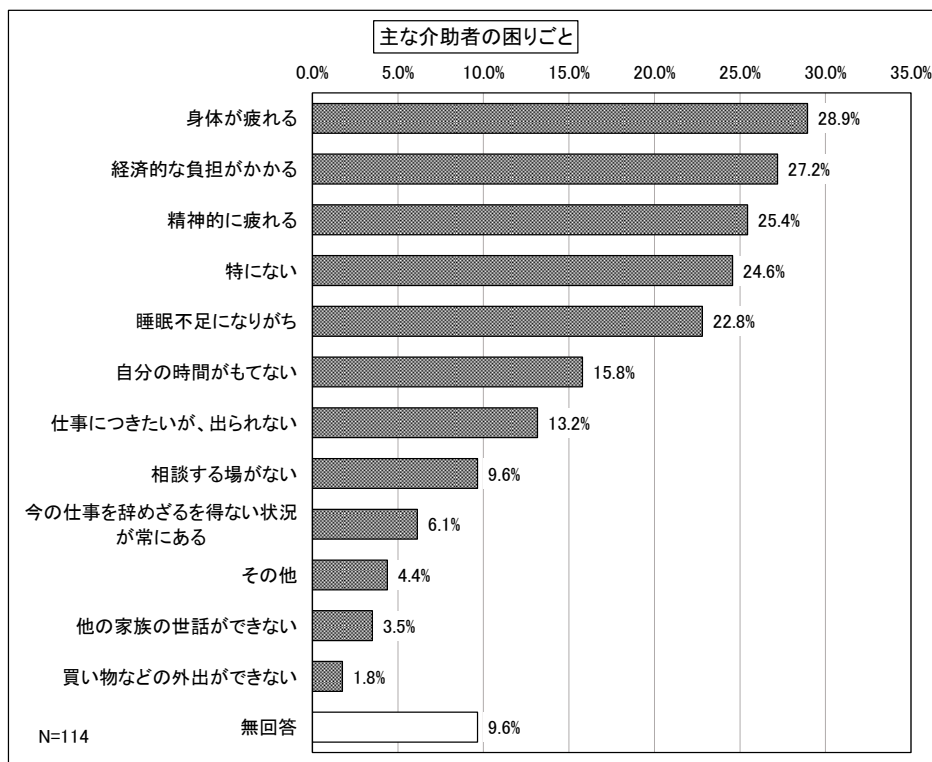
今後の対応については、「同居していない家族・親戚に頼んでいる」が47.4%で最も多く、次いで「同居している他の家族に頼んでいる」39.5%、「誰にも頼まず一人で何とかしている」32.5%、「ホームヘルプサービス(介護、家事援助)を利用している」17.5%、「ショートステイ(施設への短期入所)を利用している」10.5%、「民間の支援グループをお願いしている」及び「その他」5.3%、「近所の知り合い等をお願いしている」3.5%、「ボランティアをお願いしている」0.9%となっています。

現在と今後の対応を比較すると、「同居していない家族・親戚に頼んでいる」、「ホームヘルプサービス(介護、家事援助)を利用している」、「ショートステイ(施設への短期入所)を利用している」、「ボランティアをお願いしている」、「民間の支援グループをお願いしている」、「近所の知り合い等をお願いしている」の6項目において、今後の割合が高くなっています。



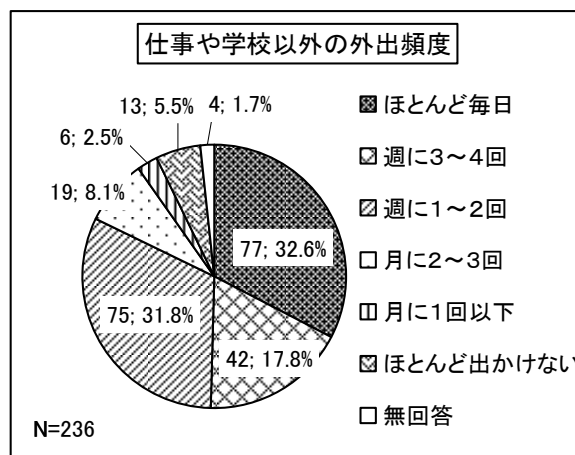
質問 6-3 主な介助者の困りごと

主な介助者の困りごとについては、「身体が疲れる」が 28.9%で最も多く、次いで「経済的な負担がかかる」27.2%、「精神的に疲れる」25.4%、「特にない」24.6%、「睡眠不足になりがち」22.8%、「自分の時間がもてない」15.8%、「仕事につきたいが、出られない」13.2%、「相談する場がない」9.6%、「今の仕事を辞めざるを得ない状況が常にある」6.1%、「その他」4.4%、「他の家族の世話ができない」3.5%、「買い物などの外出ができない」1.8%となっています。



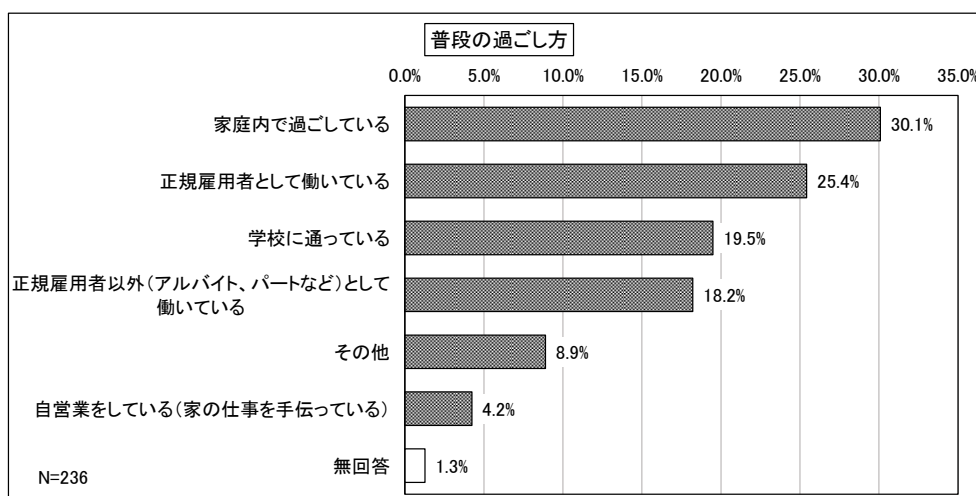
質問 7 仕事や学校以外の外出頻度

仕事や学校以外の外出頻度については、「ほとんど毎日」が32.6%で最も多く、次いで「週に1～2回」31.8%、「週に3～4回」17.8%、「月に2～3回」8.1%、「ほとんど出かけない」5.5%、「月に1回以下」2.5%となっています。



質問 8 普段の過ごし方について

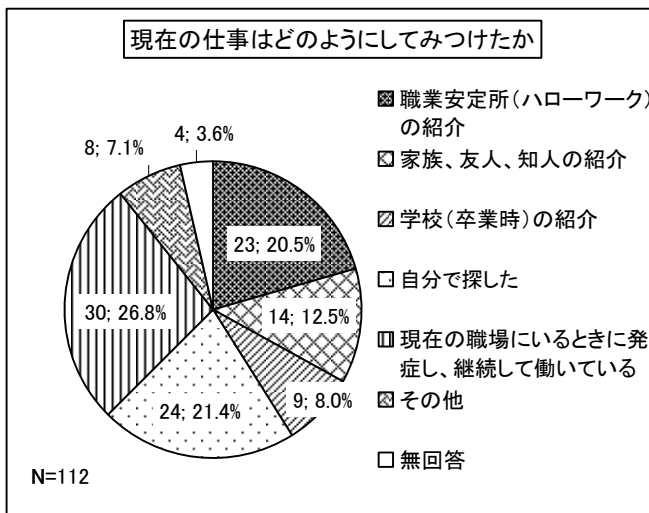
普段の過ごし方については、「家庭内で過ごしている」が30.1%で最も多く、次いで「正規雇用者として働いている」25.4%、「学校に通っている」19.5%、「正規雇用者以外（アルバイト、パートなど）として働いている」18.2%、「その他」8.9%、「自営業をしている（家の仕事を手伝っている）」4.2%となっています。



【質問 9、10 は質問 8 で「正規雇用者として働いている」、「正規雇用者以外（アルバイト、パートなど）として働いている」、「自営業をしている（家の仕事を手伝っている）」と回答した方にお聞きします】

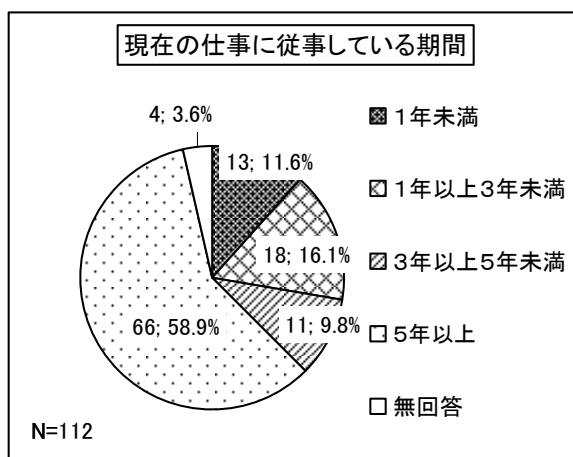
質問 9 現在の仕事はどのようにしてみつけたか

現在の仕事はどのようにしてみつけたかについては、「現在の職場にいるときに発症し、継続して働いている」が 26.8%で最も多く、次いで「自分で探した」21.4%、「職業安定所（ハローワーク）の紹介」20.5%、「家族、友人、知人の紹介」12.5%、「学校（卒業時）の紹介」8.0%、「その他」7.1%となっています。



質問 10 現在の仕事に従事している期間

現在の仕事に従事している期間については、「5年以上」が 58.9%で最も多く、次いで「1年以上3年未満」16.1%、「1年未満」11.6%、「3年以上5年未満」9.8%となっています。

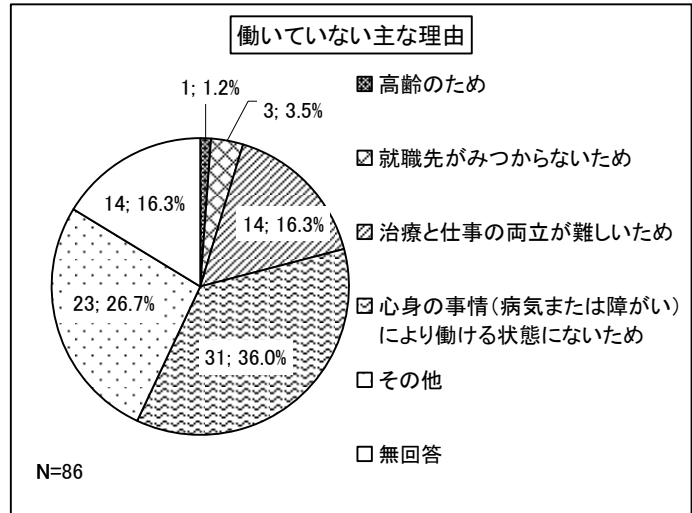


【質問 11、12 は質問 8 で「家庭内で過ごしている」、「その他」と回答した方にお聞きします】

質問 11 働いていない主な理由

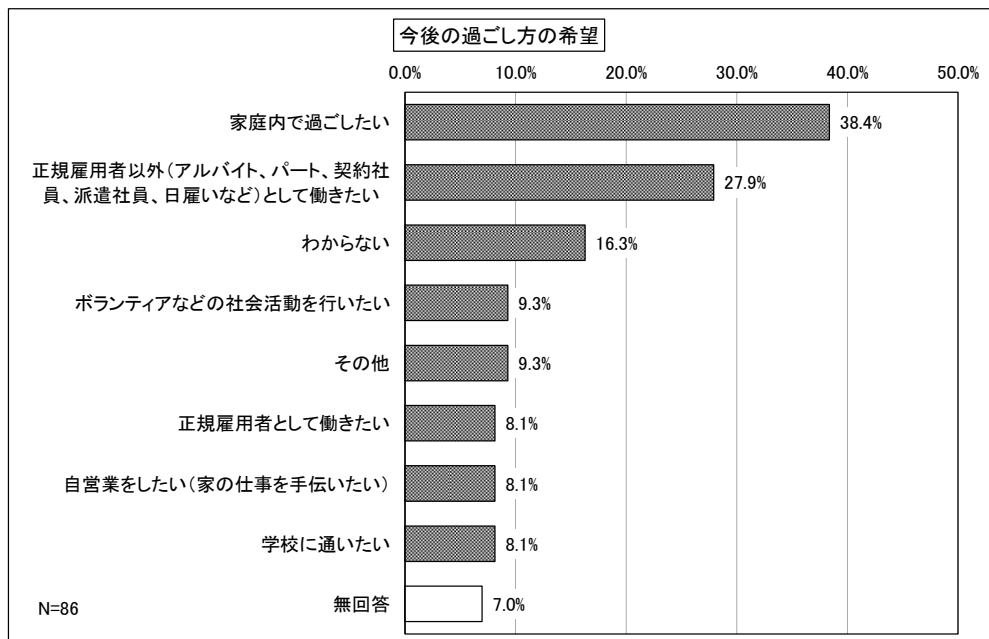
働いていない主な理由については、「心身の事情（病気または障がい）により働ける状態にないため」が 36.0%で最も多く、次いで「その他」26.7%、「治療と仕事の両立が難しいため」16.3%、「就職先が見つからないため」3.5%、「高齢のため」1.2%となっています。

なお、「その他」の具体的な理由をみると、「就学前、学生のため」、「専業主婦・主夫のため」が主な理由としてあがっています。



質問 12 今後の過ごし方の希望

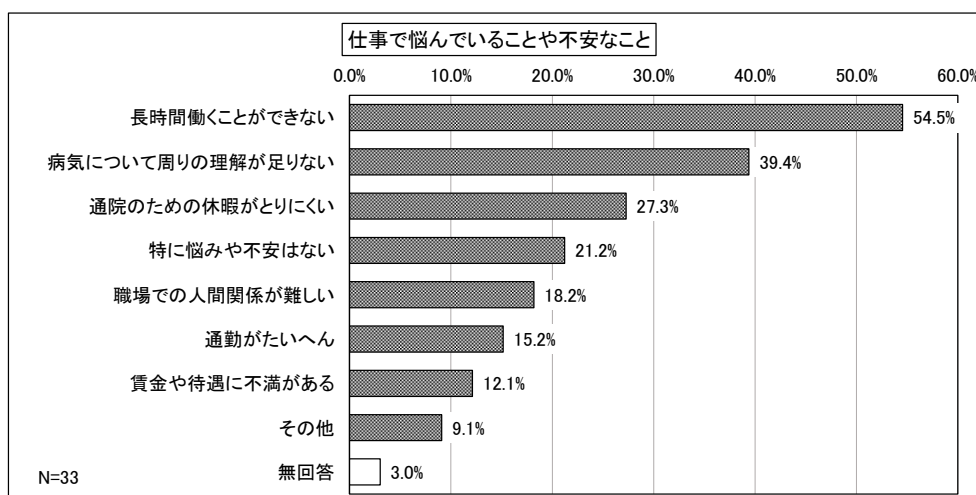
今後の過ごし方の希望については、「家庭内で過ごしたい」が 38.4%で最も多く、次いで「正規雇用者以外（アルバイト、パート、契約社員、派遣社員、日雇いなど）として働きたい」27.9%、「わからない」16.3%、「ボランティアなどの社会活動を行いたい」及び「その他」9.3%、「正規雇用者として働きたい」、「自営業をしたい(家の仕事を手伝いたい)」、「学校に通いたい」が同率の 8.1%となっています。



【質問13は、質問12で「正規雇用者として働きたい」、「正規雇用者以外（アルバイト、パート、契約社員、派遣社員、日雇いなど）として働きたい」、「自営業をしたい（家の仕事を手伝いたい）」と回答した方にお聞きします】

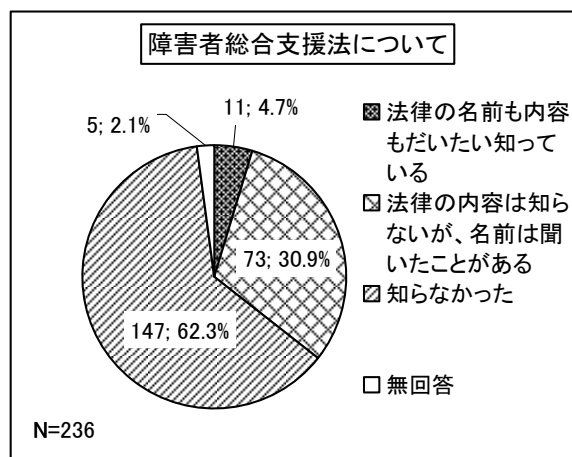
質問13 仕事で悩んでいることや不安なこと

仕事で悩んでいることや不安なことについては、「長時間働くことができない」が54.5%で最も多く、次いで「病気について周りの理解が足りない」39.4%、「通院のための休暇がとりにくい」27.3%、「特に悩みや不安はない」21.2%、「職場での人間関係が難しい」18.2%、「通勤がたいへん」15.2%、「賃金や待遇に不満がある」12.1%、「その他」9.1%となっています。



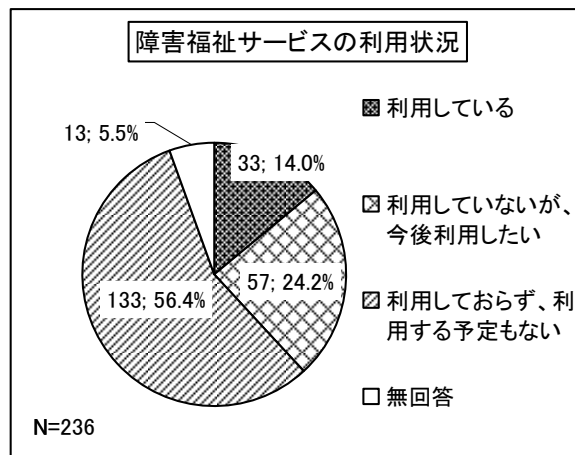
質問14 障害者総合支援法の認知度

障害者総合支援法の認知度については、「知らなかった」62.3%、「法律の内容は知らないが、名前は聞いたことがある」30.9%、「法律の名前も内容もだいたい知っている」4.7%で、「知らなかった」が最も多くなっています。



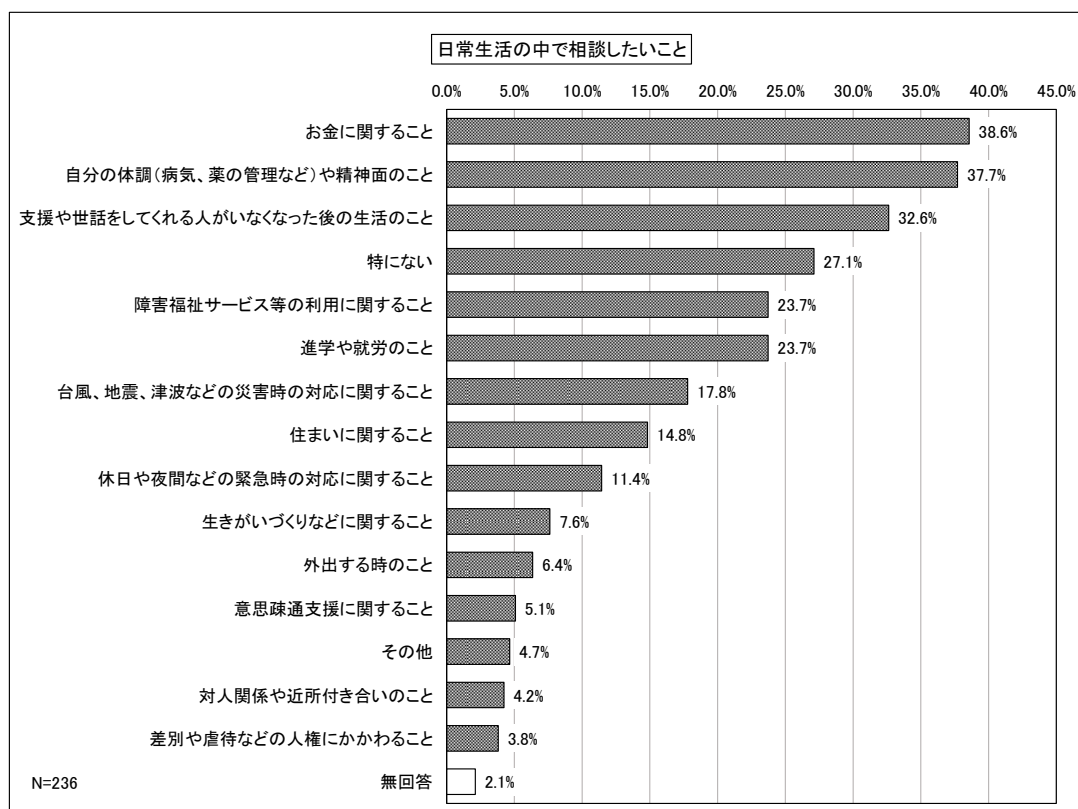
質問 15 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスの利用状況については、「利用しておらず、利用する予定もない」56.4%、「利用していないが、今後利用したい」24.2%、「利用している」14.0%で、「利用しておらず、利用する予定もない」が多くなっています。



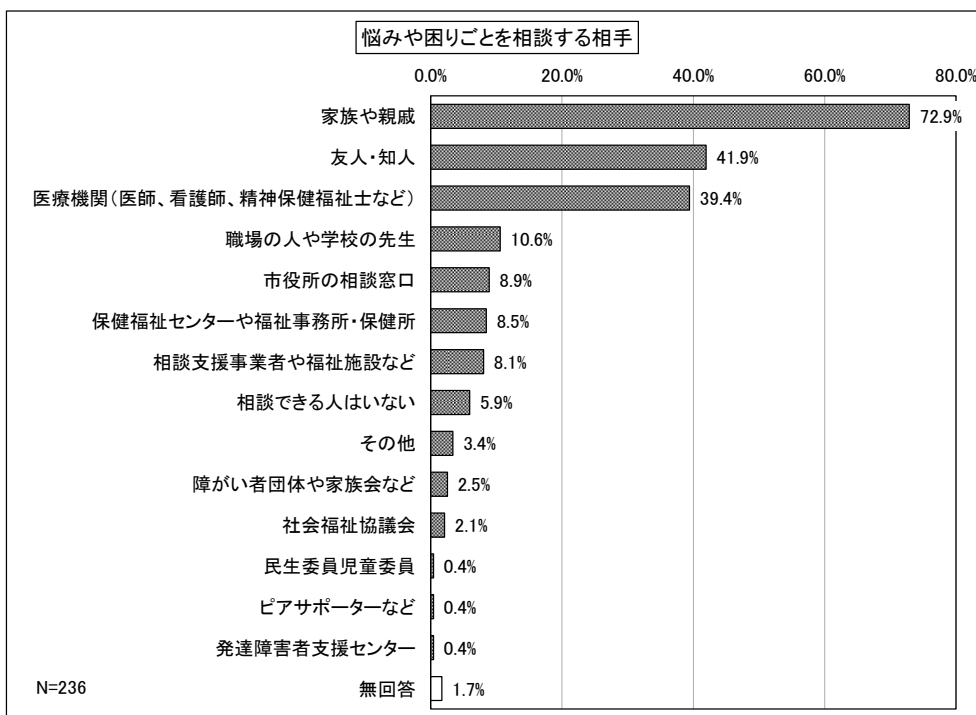
質問 16 日常生活の中で、どのようなことについて相談したいか

日常生活の中で、どのようなことについて相談したいかについては、「お金に関すること」が38.6%で最も多く、次いで「自分の体調（病気、薬の管理など）や精神面のこと」37.7%、「支援や世話をしてくれる人がいなくなった後の生活のこと」32.6%、「特にない」27.1%、「障害福祉サービス等の利用に関すること」及び「進学や就労のこと」23.7%、「台風、地震、津波などの災害時の対応に関すること」17.8%、「住まいに関すること」14.8%、「休日や夜間などの緊急時の対応に関すること」11.4%、「生きがいつくりなどに関すること」7.6%、「外出する時のこと」6.4%、「意思疎通支援に関すること」5.1%、「その他」4.7%、「対人関係や近所付き合いのこと」4.2%、「差別や虐待などの人権にかかわること」3.8%となっています。



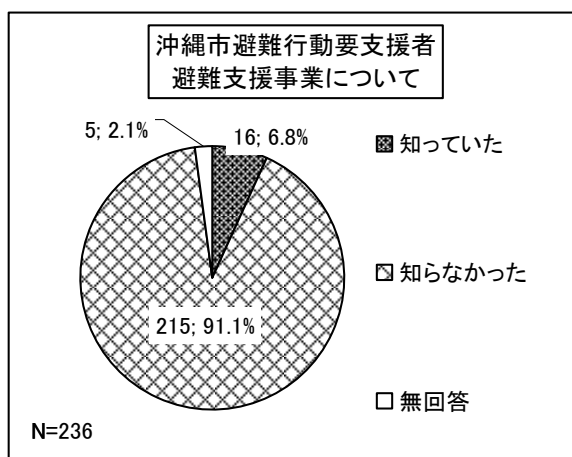
質問 17 悩みや困りごとを相談する相手は、主に誰（どこ）か

悩みや困りごとを相談する相手については、「家族や親戚」が 72.9%で突出して多く、次いで「友人・知人」41.9%、「医療機関（医師、看護師、精神保健福祉士など）」39.4%、「職場の人や学校の先生」10.6%、「市役所の相談窓口」8.9%、「保健福祉センターや福祉事務所・保健所」8.5%、「相談支援事業者や福祉施設など」8.1%、「相談できる人はいない」5.9%、「その他」3.4%、「障がい者団体や家族会など」2.5%、「社会福祉協議会」2.1%、「民生委員児童委員」、「ピアサポーターなど」、「発達障害者支援センター」が同率の 0.4%となっています。



質問 18 沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度

沖縄市避難行動要支援者避難支援事業の認知度については、「知らなかった」91.1%、「知っていた」6.8%で、「知らなかった」が多くなっています。



〈前回調査との比較〉

沖縄市避難行動要支援者避難支援事業について前回調査と比較すると、「知っていた」では3.5ポイント減少、「知らなかった」では4.2ポイント増加しており、わずかに認知度が低くなっています。

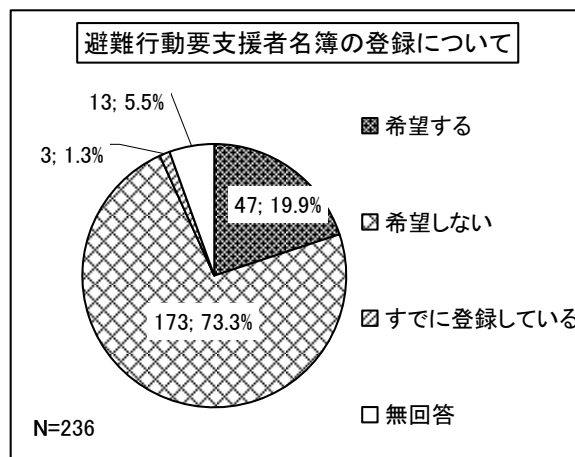
沖縄市避難行動要支援者避難支援事業について

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
知っていた	10.3%	6.8%	-3.5
知らなかった	86.9%	91.1%	4.2
無回答	2.8%	2.1%	-0.7

※平成29年度より「災害時要援護者避難支援事業」から「避難行動要支援者避難支援事業」に変更

質問 19 避難行動要支援者名簿への登録を希望するか

避難行動要支援者名簿への登録を希望するかについては、「希望しない」73.3%、「希望する」19.9%、「すでに登録している」1.3%で、「希望しない」が多くなっています。



〈前回調査との比較〉

避難行動要支援者名簿について前回調査と比較すると、「希望する」では1.2ポイント、「希望しない」では1.3ポイント、「すでに登録している」では0.4ポイント増加しています。

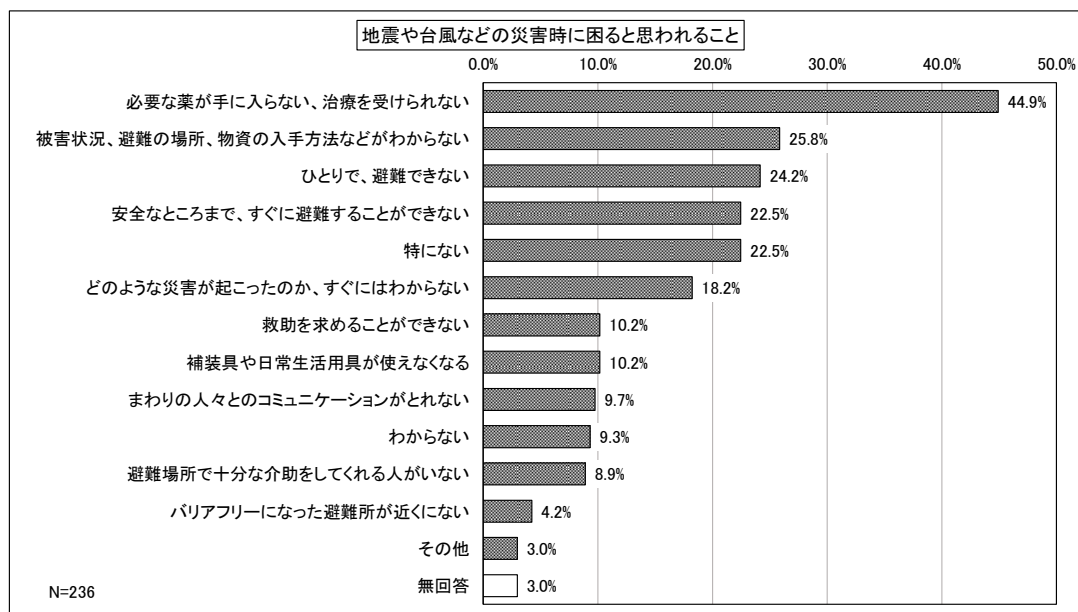
避難行動要支援者名簿の登録について

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
希望する	18.7%	19.9%	1.2
希望しない	72.0%	73.3%	1.3
すでに登録している	0.9%	1.3%	0.4
無回答	8.4%	5.5%	-2.9

※平成29年度より「災害時要援護者名簿」から「避難行動要支援者名簿」に変更

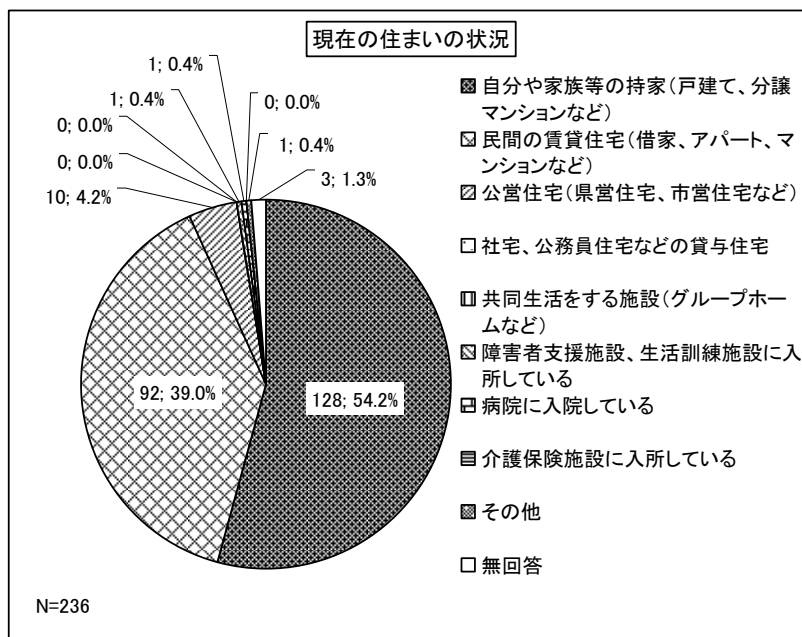
質問 20 地震や台風などの災害時に困ると思われること

地震や台風などの災害時に困ると思われることについては、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」が44.9%で最も多く、次いで「被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない」25.8%、「ひとりで、避難できない」24.2%、「安全なところまで、すぐに避難することができない」及び「特にない」22.5%、「どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない」18.2%、「救助を求めることができない」及び「補装具や日常生活用具が使えなくなる」10.2%、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれない」9.7%、「わからない」9.3%、「避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない」8.9%、「バリアフリーになった避難所が近くにない」4.2%、「その他」3.0%となっています。



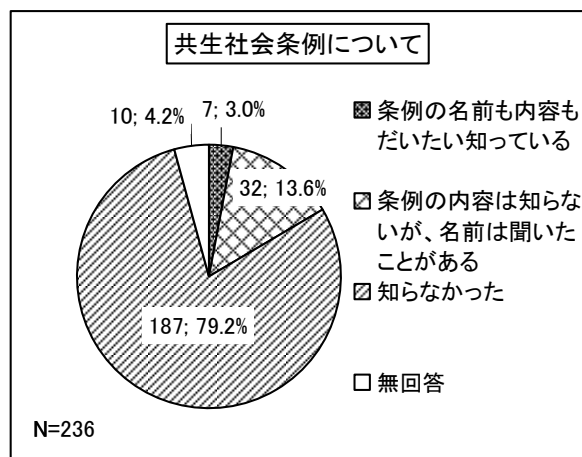
質問 21 現在の住まいの状況

現在の住まいの状況については、「自分や家族等の持家(戸建て、分譲マンションなど)」が54.2%、「民間の賃貸住宅(借家、アパート、マンションなど)」が39.0%で、この2項目で9割を占めています。



質問 22 共生社会条例の認知度

共生社会条例の認知度については、「知らなかった」が79.2%、「条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある」13.6%、「条例の名前も内容もだいたい知っている」3.0%で、「知らなかった」が多くなっています。



<前回調査との比較>

共生社会条例について前回調査と比較すると、「条例の名前も内容もだいたい知っている」では4.5ポイント、「知らなかった」では0.2ポイント減少、「条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある」では0.5ポイント増加しています。

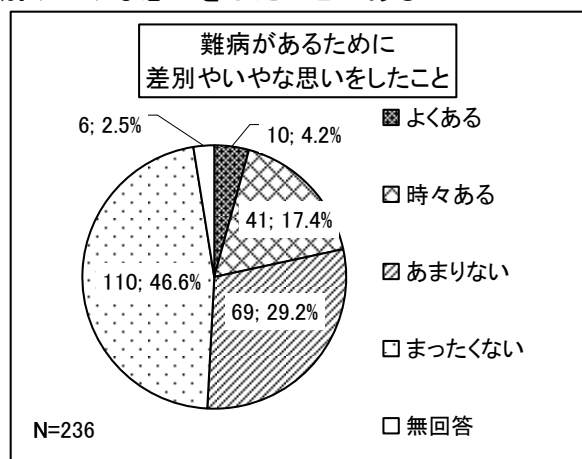
共生社会条例について

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
条例の名前も内容もだいたい知っている	7.5%	3.0%	-4.5
条例の内容は知らないが、名前は聞いたことがある	13.1%	13.6%	0.5
知らなかった	79.4%	79.2%	-0.2
無回答	0.0%	4.2%	4.2

質問 23 この4～5年間に、難病があるために差別やいやな思いをしたことがあるか

この4～5年間に、難病があるために差別やいやな思いをしたことについては、「まったくない」が46.6%で最も多く、次いで「あまりない」29.2%、「時々ある」17.4%、「よくある」4.2%となっています。

また、「よくある」と「時々ある」の合計割合は21.6%、「あまりない」と「まったくない」の合計割合は75.8%となっており、ないとする割合が54.2ポイント上回っています。



<前回調査との比較>

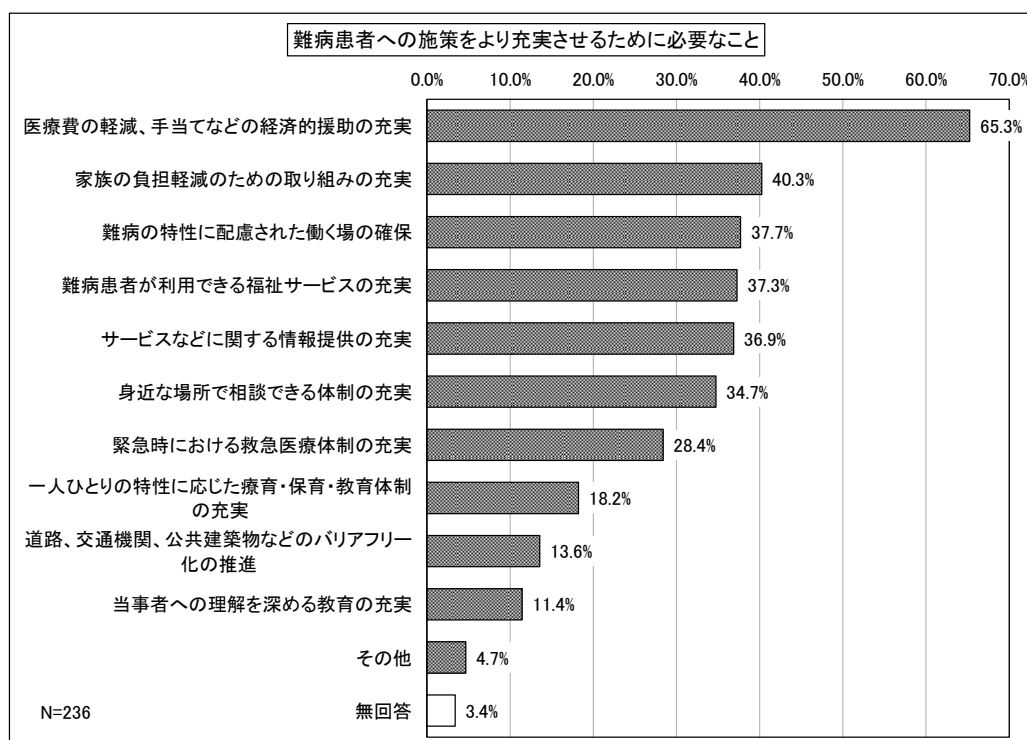
難病があるために差別やいやな思いをしたことについて前回調査と比較すると、「よくある」と「時々ある」の合計割合は2.0ポイント増加、「あまりない」と「まったくない」の合計割合は2.7ポイント減少しており、あるとする割合が増加しています。

難病があるために差別やいやな思いをしたこと

	平成28年度	令和元年度	R1-H28
よくある	5.6%	4.2%	-1.4
時々ある	14.0%	17.4%	3.4
あまりない	37.4%	29.2%	-8.2
まったくない	41.1%	46.6%	5.5
無回答	1.9%	2.5%	0.6

質問 24 難病患者（児）の施策の充実のために、沖縄市や沖縄県に要望すること

難病患者（児）への施策をより充実させていくために、沖縄市や沖縄県に対して要望することについては、「医療費の軽減、手当などの経済的援助の充実」が 65.3%で最も多く、次いで「家族の負担軽減のための取り組みの充実」40.3%、「難病の特性に配慮された働く場の確保」37.7%、「難病患者が利用できる福祉サービスの充実」37.3%、「サービスなどに関する情報提供の充実」36.9%、「身近な場所で相談できる体制の充実」34.7%、「緊急時における救急医療体制の充実」28.4%、「一人ひとりの特性に応じた療育・保育・教育体制の充実」18.2%、「道路、交通機関、公共建築物などのバリアフリー化の推進」13.6%、「当事者への理解を深める教育の充実」11.4%、「その他」4.7%となっています。



自由意見

【情報提供等 : 5件】

1	・障害福祉の情報があまりオープンになっていない印象です。
2	身近に相談しても詳しい人がいないので相談しても意味がない。病気をよく知っている医者などがいるといいのですが
3	難病とわかり初めは公費負担を受けることができましたが症状が軽いということで2年程で停止されました。それからは両親の助けもあり、実費で医療費を支払ってきました。(10年程)年齢を重ねていくごとに通院する回数も増え医療費の負担も大きくなるばかりでした。生活も苦しくなり溜まらず過去の領収書を持参し保健所へ相談させて頂きました。そこで特定医療費の受給資格がある説明を受けることができました。独立した家族の税金に関する事で実家にまで電話がきたり健康診断の受診を促すハガキ・手紙、電話は頻繁にきますが難病をもって生活や経済的に苦しい人達に本当に必要な情報がせめて1年に1度でもあれば…という思いです。
4	難病である為に住宅や、マンションを購入する時団体信用保険に入れず、返済金額が高く生活費も大変です。特別な資金援助があればいいんですが。家族のためにも将来の生活が不安を持ちながら生きていくのは悲しい現実です。何かいい方法があれば教えてほしいです。
5	進行性の難病であるが、福祉サービスが利用しにくく感じる。サービス内容や自分にあったサービスの相談等、どこで聞いたらいいかわからない。市役所で、自分からこのサービスについて聞きたいと言わないとどんなサービスがあるかわからない。サービスによって担当者も違うので、一括で相談できるといい。日常生活用具について、障害手帳の範囲で申請中だが、障害手帳ではレンタルできず、購入になるので病気が進行した時再度サービスが利用できない。介護保険のようにレンタルも可能にしてほしい。動けなくなってからしか利用できないサービスだと、社会に参加できない。まだ動けるうちに少しでも生活が楽に社会に参加しやすいような仕組みにしてほしい。※アンケートの提出期限が短すぎる

【バリアフリー、移動交通手段等 : 3件】

6	道路(グレーチングについて)排水溝のグレーチング(特に交差点を横切る時)現在、グレーチングの穴は横長になっていて車イスの前輪がその穴にはまる時がある。
7	障害者駐車場の徹底的強化。車につける障害者マーク、国や県等で発行するべきだと思います。病院、スーパー等々。シルバーマークや、妊婦、子供が乗っているだけで障害者の車が止められない。ひどい時は健常者が止めている。障害者手帳の提示で車が止められる様にしてほしい。スーパー、ショッピングモール、病院は、障害者が手帳の登録し、入口にパー(棒)を取り付けカードを入れて入れる様になると、上記の事がなくなると思う。すでに団地では導入している所がある。県営団地、市営団地、障害者用駐車スペースを作ってほしい。現在住んでいる所に、スペースがないため。駐車スペースから、エレベーターホールまで遠い。近くにスペースを作ってほしい。
8	ひとりごと…40年ぶりに沖縄へ帰ってきて困った事。 ●バスの乗り方がわからない。 例えば・バス乗り場に「コザ」と表示している所に「〇番〇〇方面」とかあればわかりやすいかと感じました。 ・時間の表示が小さくて見えづらい(目の病気ありますが)。 ●歩道の側溝のフタがずれている所があり歩行が不安

【福祉・医療サービス等 : 3件】

9	<p>4才の息子、先天性心疾患プラス合併症があり心臓の大手術（3回）プラス他の手術（4回）合計7回の手術を乗り越えましたが、現在もカテーテル検査及び処置で年に2回入院しています。2019年12月にカテーテルで入院した時、〇〇の付き添い者の入浴可だったのが不可になってしまいました。日中の付き添い、自宅が遠方の私にとって、病児を預けて自宅まで入浴する生活はとても不安です。（息子が泣かないか…）お金を支払ってでも良いので、院内で付き添い（保護者）が入浴できるマニュアル作成があれば…と思っています。病児を預けて自宅まで入浴しに行く時間が、とてもとても不安です。</p> <p>〇〇の売店が〇〇に変わっていますが、以前に比べ、お弁当の種類や金額が腑に落ちません。入院が多い息子はオペやカテーテル処置になると現在トイレでオシッコできるため「テープタイプのオムツ」を準備するように言われますが、〇〇になる前は5枚入りのオムツなど販売していました。今は、その物がないため大型商業施設で80枚以上などを購入し入院時は対応しています。付き添いをする家族にとって〇〇より以前の売店の方が入院生活をするにあたり負担軽減になるかと思えます。</p>
10	<p>難病により、お金がかかります。沖縄市も、難病患者福祉手当金を希望します。</p>
11	<p>特定疾患を受けてるのですが、持病で出来てしまった、体にある、母斑というものを毎月病院へ取りに行ってます。その時にかかる費用が約1万ほどかかります。いくら、特定疾患を受けてるからって紙を出しても、1万も出るのは、すごく大変です。夫の収入で特定疾患の限度額が決まるのですが、収入って、他に色々、生活費や子どもの事などに使うとほとんど何も残りません。それに対しての受けられる限度額が決まるのはちょっと良くわからないです。だんだんと限度額も高くなり、受ける側も、結構不満に思ってる方が多いと思います。自分の子どもも同じ持病にかかってしまってます。この子達が大きくなった時、同じ様に特定疾患を受ける事になった場合少しでも負担を減らしてあげたいです。</p>

【雇用 : 2件】

12	<p>◎沖縄市の公共機関で働ける場所を増やしてほしいです ◎中部保健所の対応はすばらしいです ◎アンケート実施ありがとうございます。その後のアクションもおねがいします。</p>
13	<p>・沖縄市の障がい福祉課で対応してくださる方々は、どの方も丁寧でいつも気持ち良く利用させてもらっています。こちらが質問した回答だけでなく、付随する情報も提供してくださり助かっています。</p> <p>・難病のため、障がい者手帳の発行は難しいが、一般就労は厳しいです。治療に必要な収入を得るためにWワークをしなくてはならない状況（奨学金の返済もあるため）。可能なら沖縄市の事業所で難病の方を雇ったら会社に助成金がおおりるなど積極的に雇用してもらえらる仕組みがあればいいと思う。治療費の助成だけではなく、自分で治療費を稼げる仕組み作りを希望します。（病気を隠さなくても働ける職場を希望）</p>

【災害、緊急時の対応 : 2件】

14	<p>・体調をくずした時、救急車で、病院に行き、入院まで致らなくても、体調が悪いのは、すぐ治るわけではない。家で苦しんでいるだけですが、その時に、ショートステイのような、お水（無かった）や、声を出せば、誰か居るような場所があったらと思います。</p> <p>・退院しても、病院→タクシーで帰宅（アパート）になりますが、タクシーから部屋（3階）までたどりつくのに階段が登りきれず、痛さで泣きながら、はって部屋に着いた。が、家の中でも同じ歩けない。あの時は、呼べる人がいないかと本気で思いました。そんな時の対応窓口があればいいのにと切に思います。</p>
----	---

15	重度障害者が災害時に避難できる施設、ショートステイ病棟施設を作ってほしいです。(中部療育医療センターだけでは、足りません。十分に予約も取れません。)
----	--

【手続きの簡略化 : 2件】

16	毎年特定医療費（指定難病）受給者証の手続で保健所に行くのが大変です郵送で出来たら助かります
17	転勤で県外に長く住んでいたが、沖縄の難病患者に対する支援等が最も遅れていると感じる。東京都は2ヶ月に1度支援金が支給された。そこまでの支援は難しいかもしれないが、特定医療費受給者証の申請に住民票や所得証明書の提出を未だに求めている。難病者に受給者証の申請のため役所等への外出を強いることは患者の事を本当に親身になって考えていないお役所仕事で露呈している。マイナンバーの制度が無い時から他県は市区町村と連携（情報を共有する制度を制定）し本人にはその提出を求めている。マイナンバーの提出をしている今も沖縄市は住民票や所得証明書の提出を義務付けている。他県が可能で沖縄市ができない理由があるのであれば、それをきちんと説明してほしい。この件について、毎年、受給者証の更新の際に保健所の担当者に訴えているがそれを真剣に受けているとは思えない。保健所の担当者にこの問題を提起する機関を聞いても教えてもらえなかったのが今回のアンケートに記入させて頂きました。改善を切に願います。よろしくお願いします。

【障がいに対する理解、地域共生社会 : 2件】

18	嫌な思いはあまりしません歩き方がヨロヨロ遅いので職場で見守って下さる方と（心配して）バカにする方がいます 人間性の問題だと思いますが広く多様性が認められれば良いと思います
19	内部疾患の為、見た目が障がい者に見えないため他人から変な目で見られることがつらい。 障がい者マークが、車イスのみのところが多く、使いづらい。 障がい者トイレで、ストマ専用のトイレが少なくとても不便。その際、障害トイレを使うが、他の障がいの方に冷たい目で、見られる。 障がい年金と、母子手当、の両方はもらえず、子育てに苦勞している。←（どちらかの選択に現在なっている為）

【その他 : 24件】

20	税金が高いです。
21	意味があんまり分かりませんでした。
22	こういったアンケートはどんどんお答えします!共によりよい社会へむけて力を合わせていきましょう。
23	現在は、経済的にも自立し生活していますが、過去には2度入院し治療を行ってきました。私達患者は、重症度は違っても発病したその日から色んな不安を抱えながら生きています。今後、少しでも穏やかに日常生活が送れる地域づくりをお願いします。
24	薬が高いので補助がほしい。
25	障がい児・者と小学生のころから会う機会を作るべき。小学生との交流が沖縄市は少なすぎる。施設やデイ、学校も近くにたくさんあるのにせっかくのチャンスをムダにしているを思います。今後、ぜひ交流してほしいです。
26	結婚を機に沖縄市に来ましたが、沖縄市役所の役員の方のサポート等もあって指定難病の手帳を発行してもらえたり子どもがうまれてからもよく電話をいただいております。大変助かってます。ありがとうございます。

27	現在、2ヶ月に一度通院中で経過も良好です。今後働く時に“難病”というので逆に周りの方に気を遣わせることになるのも不安があります。難病指定で診察代を補助して頂けるのは助かりますが逆に大ごとになるのもいやです…
28	難病発覚後に離婚をして大学生の子もおり仕送り学費の工面など元配偶者から一円の援助も無く国保の支払い、国民年金の催促（しつこい催促）精神的負担が大了。幸い今は、体調が落ちついていますが、体力にも不安だしわずかな収入がある為に公費にも全額該当せず毎月の医療費も負担です。定期的な大がかりな検査も正直、心身共にきついです。見た目、元気なせいで誰からも難病とは思われてないでしょうね。
29	離職して子の介護をしている今、貯金を切り崩しての生活です。生活できている今は良くて、障害児の兄姉達の為の貯金、両親（障害児の）老後の為の貯金もしていかななくてはいけないと思っています。ですが、現状では今の生活でいっぱい、夫の事を考えてられません。特児、障害児手当には、もちろん感謝しています。ですが、元の私の収入の1/4程度です。将来の事を考える余裕なんてありません。だからといって、息子を放り出して働きに出ることもできません。そういう家族に、もう少し、元の収入に見合った保障があれば、「将来の不安を抱えながら息子の介護をする」というストレスがなくなります。それだけで、病気の息子と笑顔で向き合っていられるようになると思います。そんな家族、たくさんいると思います。
30	このアンケートがどのように利用されるのかはわかりませんがよりよい市民生活の為に生かされることを望みます
31	生後1ヶ月、病院から退院時にそのまま引き取った子供が今、4歳になりました。去年は水頭症でシャントの問題があり4回も頭の手術を受けました。でも幸いに何のトラブルもなく回復しています。知的レベルは全く普通ですが、歩行はできません。なので車イスの練習をしています。来年幼稚園です。是非、近くの幼稚園に通わせたいと思っています。こういう子達には、いわゆる普通の子の友達が必要です。特にこの子は私達の手元から離れたら一人で生きていかなければなりません。共に歩める刺激し合う関係の中で育ってほしいと切実に願っています。よろしく願い致します。
32	私は病気にかかり、いつときは大変な状況もありましたが、主治医病院スタッフに恵まれ治療に専念することができました。国からの多額の費用で負担なく過ごせました。まことにありがとうございました
33	沖縄市は福祉が充実して助かっています。
34	根治がむずかしく、腺外症状も増してくると不安を感じます。
35	医療費が高いので、もっと助成金が高くなれば助かります。
36	息子は、進行性の難病で、今のところ、有効な治療法や薬等が無い状態です。患者数が少なく薬の開発をしたりするにはコストがかかる、日本では、中々実験なども進まない、等あるかと思いますが、何もできずにただもどかしい思いをしている、患者や家族がいるという事を、知って頂き、その声を拾って、国に届けていって頂けないでしょうか。もちろん、既にそんな事をご承知だと思いますが。何か、できる手立ては無いかと、日々模索しております。今回、この様な、機会を頂き、ありがとうございます。
37	難病指定されて間もないため、まだ恩恵は感じておりませんが、みな様の配慮に感謝申し上げます。
38	受診料の自己負担を軽減してほしいです。
39	マークシート方式のアンケートの実施をお願いします。（何故こんな分厚い書類を送るのか疑問です。PCでの入力等検討されてはいかがでしょうか。）私は沖縄市が大好きで、これからも住み続ける予定です。沖縄市が更に住み良い場所になるよう心から願っております。市役所の皆様、日々ご多忙とは存じますが、今後とも市の発展に向けて頑張ってくださいませ。大いに期待しております。

40	<p>私は 25 年くらい前から首の痛みや右手や右下肢の痺れがあり大きな病院を受診し MRI にて首のヘルニアなので手術はできないので、命に影響が及ぶなら手術を考えた方が良いでしょう。今のところ、そのまま痛みと友達になることを考えて下さいと 3 ヶ所の大きな病院で言われたので、諦めていたのですが、現在の福祉系の利用者さんを、〇〇の〇〇先生にダメ元で苦しみを相談したら〇〇先生は親身になってくれて、細かく検査してくれて、後縦靭帯骨化症と診断され、難病指定にて受給を受け昨年の 7 月に手術をしてもらい長年の苦しみに解放されましたが、現在は右手、右下肢に多少の麻痺があり、通院とリハビリに頑張っていますが、手術をしてくれた〇〇先生には感謝の気持ちで一杯です。昨年の 10 月からは職場の上司や仲間の方々の手助けを受けながら職場復帰する事ができて本当に感謝、感謝です。身体的にも年齢的にも職場復帰は無理と思っていたので、本当に凄い先生に出逢えてラッキーでした。長い間待たされたのは〇〇先生に逢う為の時間だった様に思います。自信の無い医師に手術され失敗していたらと考えると怖くなります。75 才くらいまで働けると良いな～(^_^)</p>
41	<p>・県立病院を受診する時に待ち時間が長いので、車イスが大きいのでどの場所で待っていただければいいのか迷います。</p>
42	<p>私は難病と言っても見た目は普通の方と全く変わらず、仕事もパートくらいなら一般の方と同様にできます。病気に上るさなどはあつたりしますが、今までは、ものすごくあるって訳ではないので、ある程度我慢して（皆さん一般の方も我慢してると思うので）生活してきましたが、年を重ねていくうちに、だんだんきつくなってきてます。でも見た目は変わらないので、「きつい!」とはあまり言えず。ただ通院のお金が高く、せめて、お金の免除があれば、良いなと思います。補助などがあれば、凄く助かります。一番は病院代、薬代が安ければ良いのですが、それが難しければ無料で〇〇〇のサービスが受けられる：(健康に良いもの) (ジムなど) とかあれば、良いと思います。健康に良いものが無料なら、一石二鳥だと思います。難病の種類や重さなどは人それぞれ違うのと思いますが。でも、こういうアンケートは意見が言える良いきっかけだと思うので良いと思います。ありがとうございます。</p>
43	<p>30 年間〇〇で受診していましたが、かかりつけ医にみてもらう様にと整理され、民間の医療機関（個人経営）へ移されましたが、直ぐにその民間医療機関より断られ〇〇へ戻されるようになりましたが、〇〇はその日その足で他の医療機関へ帰ってくれましたが、結局、どこも私を受け付けてくれる病院はなく、現在〇〇へ通院して 2 年半になりますが、主治医の定年退職により、再び、院内をトライ廻わしにされ、担当医が未だ決まりません。体調を崩す事もよくあり、その都度、高速にて自力で〇〇へ向わないといけず、また、そのまま入院になることや手術を受ける事も（これまでに 3 回）あり、この距離の通院は負担や都合が良くありません。専門医は個人病院で 2 ヶ所。総合病院では 2 ヶ所にしかいません。総合病院ではみてもらえません。個人病院については、この持病により、眼科や耳鼻科、皮膚科への複数科に渡る受診になるので、いくつも個人病院を加える事になり、何よりも、その連携（各個人病院の）が悪いです。内科については、入院設備がないので、それまで総合病院では 1 ヶ所で他科の受診、入院、連携がうまくいっていても、複数の病院を加えると、入院さえままならず、家でただ寝ているだけの治療になります。（現在、私の姉妹がこの様な状態です）患者の立場からすると、いくつものかかりつけ医を持つことは、好ましい事ではなく、第一に責任のがれの診療を受けている様なものです。果たして、このかかりつけ医制度は、私を本当に助けてくれるものなのでしょうか？〇〇も、〇〇も、〇〇も、そして現在の〇〇でさえ再び交渉していますが、個人医へ行くようにとの事です。責任のがればかりの医者、医療機関ばかりです。どうして専門医にみてもらえないのでしょうか？</p>

Ⅲ. 第4次沖縄市障がい者プラン〈改訂版〉の取り組み状況

第4次沖縄市障がい者プラン〈改訂版〉には、3つの基本方向、101の事業・具体的な取り組みが位置づけられ、複数の課にまたがる事業・具体的な取り組みがあるため、担当課ごとに評価する場合、124の事業・具体的な取り組みとなります。

平成30年度における進捗状況を以下のAからDまでの基準で評価を行った結果、計画全体で「A：達成できた」が31.5%、「B：概ね達成できた」が53.2%、「C：取り組んだが達成できなかった部分もある」が12.1%、「D：達成できなかった」が3.2%となっています。

計画で位置づけられた取り組みの84.7%が概ね順調に展開できていることが伺えます。

■平成30年度 進捗状況

	A	B	C	D	計
計画全体	39 (31.5%)	66 (53.2%)	15 (12.1%)	4 (3.2%)	124 (100.0%)
1. 相談支援と情報提供の充実	8 (28.6%)	15 (53.6%)	4 (14.2%)	1 (3.6%)	28 (100.0%)
2. すべての人が暮らしやすい 地域社会の充実	24 (29.6%)	43 (53.1%)	11 (13.6%)	3 (3.7%)	81 (100.0%)
3. 健康づくりへの支援	7 (46.7%)	8 (53.3%)	0	0	15 (100.0%)

※各評価割合は、四捨五入された表示となっており、合計が100.0%とならないことがある

■評価基準

A	達成できた
B	概ね達成できた
C	取り組んだが達成できなかった部分もある
D	達成できなかった

達成できなかった事業・具体的な取り組みは、「1-(2)-①成年後見制度法人後見支援事業」、「2-(1)-③職員採用に関すること」、「2-(2)-②自立生活援助」、「2-(3)-①計画相談支援・障害児相談支援」、「2-(7)-①居宅訪問型児童発達支援」の4つとなります。

■Dとなった理由

成年後見制度法人後見支援事業	法人後見について、現状と課題等の把握が必要であり、研修等の見直しが必要のため、研修等を実施していない。
職員採用に関すること	これまで非正規職員を対象としておらず、数にも含めていなかったが、平成30年度において、国より非正規職員も含めるべき旨の通達がなされたことで、雇用率に変更が生じた。
自立生活援助	平成30年度末時点において、市内に自立生活援助を展開する事業所がない状況。
居宅訪問型児童発達支援	本島内に指定事業所がない。

第5次沖縄市障がい者プラン 基礎調査報告書

発行年月 令和2年3月

発行 沖縄市 健康福祉部 障がい福祉課

住所：〒904-8501 沖縄県沖縄市仲宗根町 26 番 1 号

電話：098-939-1212